

日本写真家協会会報

NO.169
(2018. Oct.)

- 展望 創立 70 周年記念事業
『日本現代写真史 1985 ~ 2015』編纂進む
- 速報 「フォトキナ 2018」見聞録
- 第14回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる

JPS



Photo Miyazawa Masaaki



次世代の創造へ。新次元の光学性能 Z マウントシステム。



NEW



NIKKOR Zレンズの真価を実感できる高画素モデル
有効画素数4575万画素、ISO 64-25600、4K UHD動画

NEW



高感度性能にも優れたオールラウンドモデル
有効画素数2450万画素、ISO 100-51200、4K UHD動画

□ Z 7 ボディー □ Z 7 24-70 レンズキット 内容 : Z 7 · NIKKOR Z 24-70mm f/4 S □ Z 7 FTZ マウントアダプター キット 内容 : Z 7 · マウントアダプター FTZ
□ Z 7 24-70+FTZ マウントアダプター キット 内容 : Z 7 · NIKKOR Z 24-70mm f/4 S · マウントアダプター FTZ

□ Z 6 ボディー □ Z 6 24-70 レンズキット 内容 : Z 6 · NIKKOR Z 24-70mm f/4 S □ Z 6 FTZ マウントアダプター キット 内容 : Z 6 · マウントアダプター FTZ
□ Z 6 24-70+FTZ マウントアダプター キット 内容 : Z 6 · NIKKOR Z 24-70mm f/4 S · マウントアダプター FTZ

価格 : いずれもオープンプライス。記録媒体は別売です。

CAPTURE TOMORROW

1億本
NIKKOR



ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000

www.nikon-image.com

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏季休業等を除く毎日) ●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03)6702-0577におかけください。●ファクシミリでのご相談は、(03)5977-7499へご送信ください。

株式会社ニコン・株式会社ニコンイメージングジャパン

“フルサイズのK”は、 Mark IIへ。

高解像と高感度の高いレベルでの両立

- PRIME IV & アクセラレーターユニット
- 有効約3640万画素
- 最高ISO 819200
- リアル・レゾリューション・システムII

PENTAX

K-1 II

主な
機能

- 35ミリフルサイズイメージセンサー
- ローパスセレクター
- 5軸5段のボディ内手ぶれ補正機構SR II
- 防塵・防滴構造
- アストロトレーサー
- フレキシブルチルト式液晶モニター 等

■ <i>Gallery</i>	JPS ギャラリー 足立君江、熊切大輔、上岡弘和、叶 悠眞 前田憲男、梶山博明	5
■ <i>First Message</i>	歴史を通して見えてくるもの - 協会の70年へ - 松本徳彦 11	
■ <i>Telescope</i>	創立70周年事業『日本現代写真史 1985~2015』編纂進む 松本徳彦 12	
■ <i>Report</i>	「フォトキナ2018」見聞録 14	
■ <i>Zooming</i>	写真×写真(連載17) 記録と表現 河野和典 16 ~「岡本太郎の写真採集と思考のはざまに」展に見る~	
■ <i>Archives</i>	「日本写真保存センター」調査活動報告(28) 松本徳彦 18 変転とした時代、カメラは事実を記録し伝える	
■ <i>Workshop</i>	著作権研究(連載44) 契約書の読み方 安藤和宏 20	
■ <i>Report</i>	第1回浅間国際フォトフェスティバル 22	
■ <i>Exhibition</i>	平成30年7月豪雨被災者支援「チャリティー写真展」開催 24	
■ <i>Report</i>	平成30年度「報道写真論」講座報告 26	
■ <i>Education</i>	平成29年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告 28	
■ <i>Topics</i>	平成30年度高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」報告 30	
■ <i>Award</i>	賛助会員トピックス 32 2018年第14回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる 34	
■ <i>Congratulation</i>	「名取洋之助写真賞」鈴木雄介さんの「The Costs of War」 「名取洋之助写真賞奨励賞」やどかりみさおさんの「夜明け前」 おめでとうございます 第44回「日本写真家協会賞」受賞 38	
■ <i>New Face Gallery</i>	ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ(株) 代表取締役社長:石塚茂樹さん JPS2018年新入会員展「私の仕事」 39	
■ <i>Report</i>	セミナー研究会レポート 第1回技術研究会報告、第2回国際交流セミナー報告 43	
■ <i>Digital Topics</i>	「ミラーレス10年史」 44	
■ <i>Exhibition</i>	2018JPS展報告・2019JPS展案内 46	
■ <i>Books</i>	JPSブックレビュー 49	
■ <i>Message</i>	Message Board 52	
■ <i>Comment</i>	写真解説 54	
■ <i>Annually</i>	2017年受賞・出版・写真展(JPS会員) 55	
■ <i>International</i>	日本写真家協会の沿革(英文) 61	
■ <i>Information</i>	追悼=正会員・森永 純、青木 信二、清宮由美子、浜口タカシ 62 /経過報告/編集後記	
■ <i>Technical</i>	エプソンのデジタルプリント最前線 70 デジタルと銀塩が生み出す新たな表現	
■ <i>Gallery</i>	X ギャラリー 大野雅人、松岡誠太郎、落井俊一 72 表紙・宮澤正明、表4・安珠	

広告
案内

- (株)ニコンイメージングジャパン ■ (株)堀内カラー ■ (株)シグマ
- リコーイメージング(株) ■ キヤノンマーケティングジャパン(株) ■ エプソン販売(株)
- FMエキシビションサロン銀座 ■ (株)タムロン ■ 富士フィルム(株)
- (一社)日本写真著作権協会(JPCA)

銀座エキシビションサロン

フレームマンギンザサロン
&
Ambition Ginza

株式会社フレームマンは平成30年5月より移転という形で銀座6丁目・電通り沿いの1階と2階フロアにて、ギャラリーをオープンさせて頂きました。写真業界の皆様の憩いの場、そして聖地に成り得るサロンを目指して参ります。

〈会場使用料・展示撤去作業費用〉

※フレームマンにて制作・加工させて頂いた作品に限らさせて頂きます。
アンビションギンザ:1週間 ￥162,000円(税込)
展示撤去作業費用 ￥32,400円(税込)
ギャラリー1:1週間 ￥162,000円(税込)
展示撤去作業費用 ￥32,400円(税込)

<スペシャルプライスプラン>

ギャラリーI

作品40点まで ￥200,000円(税込)

(半切 or A-3) アルミフレーム(シルバー)

ミニギャラリー

作品15点まで ￥35,000円(税込)

(半切 or A-3) 展示作品以外に更に15点まで映像も流れます

アルミフレーム(ステーン) or 木製額縁(白ふきどり)

ステアーズギャラリー

作品20点まで ￥35,000円(税込)

(2L or B-5)

アルミフレーム(マットブラック) or 木製額縁(オフホワイト)

※プランには、会場費・マット加工・フレームレンタル費用、展示撤去作業費を含めております。



〒104-0061
東京都中央区銀座6-4-7-1F-2F
フォトサロン
TEL・FAX 03-3574-1036
AM10時~PM19時(平日無休)最終日15時まで
ginzasalon@frameman.co.jp

(株)フレームマン 本社
〒130-0026 東京都墨田区両国3-10-4
(旧 本所松坂町 吉良邸跡地内)

TEL 03-5638-2211(代)
FAX 03-5638-2219
Eメール frameman@frameman.co.jp

詳細はこちらをご覧下さい

<http://www.frameman.co.jp/>



子猿を抱く少年——足立君江
写真集『カンボジア はたらく子どもたち』



刹那 東京で——熊切大輔
写真集・写真展「刹那 東京で」



長浜大橋 上岡弘和
写真展「日本の可動橋—勝闘橋とその仲間—」



ここだよ——叶 悠真
写真展「大パンダ展」



一妻多夫——前田憲男
図鑑『日本産カエル大鑑』



黄葉輝く——梶山博明
写真集『彩の記憶 ニュージーランド』

歴史を通して見えてくるもの —協会の70年へ—

副会長 松本 徳彦

2020年5月、日本写真家協会は創立70周年を迎えます。1950(昭和25)年焼け跡が点在する東京で、木村伊兵衛、渡辺義雄など70余名が結集して「写真家の職能を確立、擁護するとともに、その相互扶助を目的とし、以て文化に寄与する」ことを目的に、プロ写真家の職能団体が誕生したのです。すでに多くの先輩が他界され、わずかに名誉会員の笛本恒子、芳賀日出男さんと前会長の田沼武能常務理事の3名のみが現役として活躍されています。

この70年間、協会は様々な事業を展開し、わが国の写真文化に多大な影響と貢献をしてきました。特に写真家の職能を確立するために、著作権法の改正運動を展開。1899(明治32)年制定の旧著作権法では文芸、学術、美術、音楽の保護期間が死後30年であったのに対し、写真は「発行または製作後10年」と極端に短く不平等なものでした。1971(昭和46)年、旧法が全面改正され、写真の保護期間は「公表後50年」に延長されました。まだ格差が残っていました。1997(平成9)年になってやっと「死後50年」になり格差が解消されたのです。

これには非常に多くの写真家の努力が実って実現したものです。

協会の活動で特筆できるものに、わが国の写真表現の歴史を検証した写真展と歴史書の発行があります。1968(昭和42)年に開催した「写真100年—日本人による写真表現の歴史展」では、写真が持つ「記録の重み」を広く社会に認識させました。1975(昭和50)年には「日本現代写真史展—終戦から昭和45年まで」を、1995(平成7)年には日本現代写真史展「記録・創造する眼」を催し、それぞれ『日本写真史 1840～1945』『日本現代写真史 1945～1970』『日本現代写真史 1945～1995』(いずれも平凡社刊)として歴史書を出版し、わが国の芸術文化に寄与し、写真界を牽引する活動と評価されました。

また、1979(昭和54)年、わが国に写真美術館を設立しようと立ち上がったのも協会でした。東京都写真美術館

(1990年暫定、1995年開館)をはじめとする各地の美術館での写真の収蔵、展示活動を推進するなど、写真文化の発展を促してもきました。こうした活動を社会に広め、認識させる働きは、会員の協力があって初めて実現したものです。

協会の歴史を知るには、ほぼ10年毎に発行してきた『日本写真家協会沿革史』(2010年刊)が便利です。総会や理事会の議事抄録、事業の概要などが、いつどんな会議が行われ、出席者が誰であったかまで記載されていることはありがたい。写真やインデックスは資料検索に便利。この資料の元は『日本写真家協会会報』と『JPSニュース』です。2007(平成19)年発行の『別冊日本写真家協会会報・会報50年の歩み、総目次特集1～134号』も貴重です。会報掲載記事の目次から、協会の活動内容、動向を探ることができます。著作権に関しては、『著作権関連記事&連載“著作権研究”一覧』(2004年刊)、『著作権関連記事1法改正・死後起算50年への経緯』(2005年刊)も重要で、著作権の法改正や条文の解釈に関する記事を読み取ることができます。

さて、12月から新入会員の申込受付が始まります。入会を勧めると多くの写真家が、「入るとどんなメリットがあるの…」と聞かれます。皆さんはどの様に答えられていますか？私は「経済的なメリットはありませんが、写真家協会の事業活動が評価されて、社会的な信用を得やすい。一緒に活動することで会員相互の理解や扶助が高まる。写真業界の情報が入手できる。」などと私は答えています。確かに目に見える形でのメリットは少ないけれど、ともに活動することで交友を深め、信頼が生まれることがメリットであると認識されている方が多い。と説明し誇りをもって入会を推薦しています。

協会70周年記念事業の写真展「日本現代写真史 1985～2015」は、2021年の開催に向けて作業を進めています。現代の混沌とした社会を写真家はどう見つめ、表現してきたかを知ることで、写真表現の展望に期待をしています。

日本写真家協会創立 70 周年記念事業

『日本現代写真史 1985～2015』編纂進む

松本徳彦 (JPS 副会長)

1950 年 5 月、空襲による焼け跡が残る東京芝田村町の飛行館ビル地下喫茶室で、木村伊兵衛、渡辺義雄など気鋭の写真家 70 余名が集まり、全プロ写真家を結集した職能団体「日本写真家協会」を創立した。それから 70 年、2020 年に創立 70 周年を迎える。協会はこれまでに著作権法の改正運動、数々の写真展を開催してきた。なかでも、わが国の写真表現の歴史を編纂した「写真 100 年－日本人による写真表現の歴史展」(1968 年)は、「写真の記録性」「豊かな表現」を写真愛好家を超えて、大衆に広く理解させた画期的な歴史展であった。続く「日本現代写真史展－終戦から昭和 45 年まで」(1975 年)、や「戦後 50 年－記録・創造する眼」展(1995 年)も、写真表現の変遷をまとめた写真展として一定の評価をいただいた。それぞれ『日本写真史 1840～1945』(1971)、『日本現代写真史 1945～1970』(1977)、『日本現代写真史 1945～1995』(2000 年) の刊行を通して、わが国の写真表現の多彩さ、幅の広さを多くの人たちに認識していただき、国内外で日本の写真表現史の定本として活用されている。

さて、2020 年の協会創立 70 周年の記念事業で、どんな事業が相応しいかを検討し、一部に会員による企画展をという案もあったが、公益性や協会が培ってきた写真表現に関する歴史を編纂するのが相応しいと判断された。2020 年はオリンピックの開催年にあたり、日本中がスポーツの祭典で沸き返っている時期に写真展を催すことの是非も検討し、翌 2021 年 3 月に写真歴史展「日本現代写真史－1985～2015」を開催することにした。この案は 2018 年 5 月の定時会員総会で決議され、編纂活動に入った。

これまでの歴史展は会員による編纂委員会を設けて実施したが、「日本現代写真史展 1985～2015」の編纂は、会



4/27 (編纂の座談会) 左から松本、田沼、多田、鳥原、飯沢

員だけでなく会員外の写真史家、評論家、研究者を交えたプロジェクトでもって実施することにした。理由はこれまで公表されている写真集や雑誌などを資料として、掲載する作品および写真家を選択してきた。しかしこの間の写真表現や公表方法が変転、多彩となり、また該当する写真作品数も膨大、しかも多くが若い世代の写真家であるところから、現代の写真に知見豊富な方々に編纂をお願いし、協会員はそれをサポートする調査員として参加することにした。

編纂に当たっては、監修者に田沼武能前会長を、委員に写真史家の金子隆一、評論家の飯沢耕太郎、元岩波書店編集者の多田亜生、年表執筆の鳥原学、学芸関係の上野修、学芸員の丹羽晴美、資料収集の候鵬暉(補助員)を中心にして作業を進めることにした。協会からは熊切圭介会長、野町和嘉副会長、山口勝廣専務理事、運営統括として松本徳彦が関わり、編集作業に足立寛、加藤雅昭、小池良幸理事、木村正博、永井勝、柚木裕司会員らが調査資料の収集・整理などを行っている。



7/9 (スキャニング作業) 左から足立、加藤、木村



8/9 (メガタマ・選択作業) 左から飯沢、候、鳥原、多田、金子



8/9 (メガタマ・選択作業) 左から松本、田沼



8/31 (選択作業) 左から多田、野町、鳥原

【概 要】

名 称：創立 70 周年記念事業

「日本現代写真史 1985 ~ 2015」

主 催：公益社団法人日本写真家協会

共 催：東京都写真美術館(予定)

協 力：一般社団法人日本写真著作権協会ほか

日 時：2021 年 3 月 20 日～5 月 16 日(予定)

会 場：東京都写真美術館地下 1 階展示室

展 示：写真家約 150 名 出展数約 170 点

巡回展を計画しているので、作品はデジタル
プリントで制作

収集範囲：1985 ~ 2015 年の 30 年間に撮影または公
表された作品

写真集(図録)：編集・出版 クレヴィス 判型 B5
写真頁だけでなく資料としての年表に
ウエイトを置く

経 費：JPS の周年事業積立金をベースに、協賛金も
含めた財源で賄う

【編纂方針】

編纂に当たっては、この 30 年間の写真賞受賞作品や芸
術選奨などの表彰を受けられた写真家のリストを通して
選考することを決める。芸術選奨、日本写真協会賞(年度
賞、新人賞等)、木村伊兵衛賞、土門拳賞、林忠彦賞、講談社



8/31 (選択作業) 左から上野、丹羽

出版文化賞、東川賞などを受賞された方を候補として選ぶ。初めに 120 人ほどが選ばれ、写真表現の大まかな区分としてドキュメンタリー、人物、風景、アート、その他の分野別に区分けと、10 年ごと 3 章に分けた発表年別に分けた資料台帳を作り、偏りや漏れをチェックしている。雑誌媒体や広告分野で活躍する協会員の資料についても点検し、双方合わせて 160 人ほどの作品を第一候補として選別し、最終的な選考会議を経て出展依頼を行うことになる。

これをベースに「日本現代写真史展」への出展候補者に
出展依頼状を送付し、出展の諾否を取り付け、2019 年 3
月頃までに、候補者との出展契約を結ぶ予定にしている。
出展並びに契約ができない方も予想されるので、第 2 次
候補者の準備もしておかなくてはならない。

会員外の候補者が半数以上に及ぶところから、その出
展依頼から契約に至るまでが一番苦労するところである。
「日本現代写真史展」の事業計画が公表されると、事業へ
の期待は次第に大きくなるであろうことが予想される。ス
タッフ一同、腰を据えて頑張らなくてはならない。これか
らが本番である。

参考までに、2018 年 6 月発行の『日本写真家協会会報』
No.168 号 『座談会—創立 70 周年記念事業「日本の現
代写真」編纂に向けて』をお読みください。

(撮影／小城崇史、小池良幸、柚木裕司)

9/19 (選択作業) 左から金子、一人置いて、足立、松本、手前左
から鳥原、田沼、野町

フルサイズミラーレス時代を迎えて隔年開催が終了し毎年へ フォトキナ 2018 見聞録

ソニーのEマウントシステムに対抗するように、キヤノンのEOS R、ニコンのZシリーズとフルサイズミラーレスが発表された2018年夏。その発売を待たずに9月26日(水)～29日(土)の4日間、ドイツ・ケルンで開催されたフォトキナはどんなものだったのか、会場の様子を足早に振り返ってみよう。

■オリンパスやカールツァイスが出展しない 2年に1度開催の最後のフォトキナ

1950年からスタートしたフォトキナだが、2018年は9月26日(水)～29日(土)と会期が4日間に短縮され、週末も土曜日だけというスケジュールで開催された。出展社数は2008年をピークに減少を続けており、今回は10ホールのうち約半分の5ホールのみが使われていたに過ぎない。2階建での構造になっているホールのうち上の階だけしか使われていないホールもあった。

フォトキナ2018の出展社数は812社でそのうち68%が海外メーカー、また来場者数は127カ国から約18万人と発表された(主催者発表)。

今回の出展で目立ったところで言えば、ここ数年恒例のようになっていたホール1をライカが明け渡し、オリンパスによる「Olympus Perspective Playground(オリンパス・パースペクティブ・プレイグラウンド)」というイベントとコンテストの入賞作品展示が行われていたことが挙げられる。

またオリンパス、カールツァイスがブース出展を見送った一方で、スマートフォンメーカーのHUAWEI(ファーウェイ)が初出展するなど、開催前からこれまでとは違う流れを予感させるフォトキナだった。アクションカムのGoProやドローンのDJIなどは数年前から出展しているが、一時期大量に出演していた中国メーカーは多くが淘汰された印象で、目立たなくなっていた。

■会期短縮による過密スケジュールで 独自取材が難しかった

フォトキナでは、前日に各社のプレスカンファレンスが開催されるのが恒例となっており、開発発表や事業戦略などが発表される。そのため、メディア関係者は前日にケルン入りすることが多いのだが、これに加えて日本のプレス向けに記者発表会が別枠で行われたり、夜にはディーラーやディストリビューターを交えてのイベントが別会場で開催されたりする。各社にインタビューを申し込んだりすると、さらに時間的な制約が増え、毎度のことだがスケジュール調整に苦労させられることの多



会期が短縮され、来場者数が前回より約1万人減少した。

いトレードショーだ。ちなみに今回は会期の短縮もあって、28日(金)は夜9時まで開場されていた。

会期短縮の影響はプレスカンファレンスにもあって、朝の10時から7社(約7時間)が設定されるなど、フォトキナが始まる前から疲れてしまうような、余裕のないスケジュールとなっていて、フォトキナ会場を歩いて見て回れたのは2日目以降だった。それまではただただ取材に追われる状態で、スピードを重視するウェブ媒体のスタッフは、原稿をまとめる時間がないことを嘆いていた。

プレスカンファレンスでは、ライカがパナソニックおよびシグマとの3社による協業「Lマウントアライアンス」を発表。話題の少ないと思われていたフォトキナに大きなインパクトを与えることとなった。

この協業により、パナソニックとシグマはライカLマウント規格の製品開発ができるようになる。3社が提供するLマウント互換製品群によって、システムの拡張性が広がるとともに、幅広いニーズに対応できるだろうというのがライカカメラ社主のアンドレアス・カウフマンのコメントだ。ライカとパナソニックは長年にわたるパートナーシップを継続しており、パナソニックの電子分野を高く評価。またシグマの光学設計とレンズ製造の分野で確固たる地位を築いていることに触れ、3社協業に

による「L マウントアライアンス」に強い期待を寄せた。

これを受けてパナソニックは、ライカ L マウントのフルサイズミラーレス一眼カメラ LUMIX S シリーズを発表。シグマは具体的な製品発表は行わなかったが、プレスイベントを開催し、その中で Foveon センサー搭載のフルサイズミラーレス一眼カメラを 2019 年のうちに登場させることを表明した。

シグマは現在の一一眼レフシステム SA マウントのカメラ開発を終了させることや、シグマレンズ対応の SA—L マウントアダプター、キヤノン EF レンズ対応の EF—L マウントアダプターを開発中であることを発表。また L マウントレンズの開発はもちろん、従来のレンズを L マウントに変換するマウントコンバージョンサービスも 2019 年から開始する予定であることを明らかにし、「L マウントアライアンス」が具体的に動き出していることが示された。

さらにカールツァイスが、フルサイズセンサー搭載のレンズ一体型カメラ「ZEISS ZX1」をダメ押しのように発表して、メディアを大慌てさせてくれた。カールツァイスはフォトキナには出展していないため、ディーラーと一部メディアを招待したイベントでの発表だったからである。

ZX1 は、「The Creative Flow in Photography (写真に創造的な流れを)」というコンセプトで、単に撮影だけに止まらず、その先の編集 (EDIT)、画像の共有 (SHARE) までできるようになっており、カメラに初めて Adobe Lightroom CC を搭載して、画像編集をカメラだけで行い、SNS に画像をアップロードできるのが特徴となっている。

もう一つ、大きな話題と言えば、富士フィルムが 1 億 200 万画素搭載の中判ミラーレスカメラ「GFX シリーズ」のコンセプトモデルの開発を発表したことだろう。富士フィルムの中判ミラーレスデジタルカメラが採用する G マウントは、35mm フルサイズイメージセンサーの約 1.7 倍となる 43.8 x 32.9mm の大型イメージセンサーを搭載する。フルサイズを超える G マウントを「スーパー



ライカ、パナソニック、シグマの3社が協業を発表。

フルフレーム」と称して、その優位性を強調し、「The world does not fit into the 35mm format (世界は 35mm フォーマットに収まりきれない)」と富士フィルム光学・電子映像事業部長の飯田年久氏は、ユージン・スマスの言葉「The world just does not fit conveniently into the format of a 35mm camera」を借りて、フルサイズミラーレスが完全なものではないと示唆した。

レンジファインダースタイルの「FUJIFILM GFX 50R」を発表した上で、さらに GFX シリーズのフラッグシップのコンセプトモデル「GFX 100Megapixels Concept」を発表。2019 年に 10,000 米ドルで登場することが予告された。発売中の GFX50S に「FUJIFILM GFX 50R」と「GFX 100Megapixels Concept」がラインナップされることで、富士フィルムの中判ミラーレスデジタルカメラ「GFX シリーズ」は、一気に充実することとなる。

■次回のフォトキナは半年後の 2019 年 5 月にケルンメッセで開催

2019 年からフォトキナは、毎年 5 月に開催されることになっていて、2 年に 1 度開催されてきたフォトキナは今回が最後となる。いずれ 2 ~ 3 月にかけて開催される CP + で開発発表、フォトキナで実機の登場といった流れになることが想像されるが、2020 年以降のカメラ業界の先行きを不安視する声も聞かれるなど、それがうまく軌道に乗るかどうかはあやしい状況にある。また今回発表された多くの製品が「2019 年春」の発売を目指しているものの、それが CP + なのかフォトキナを指すのかは、現時点ではまだ明らかではない。

しかし、次回のフォトキナが半年後の 2019 年 5 月 8 日 (水) ~ 11 日 (土) に開催されるのは決定事項だ。出展社数やイベントとしての規模など、フォトキナが今後どのようにしていくのか、果たして毎年開催が正しい選択だったのか。各社のミラーレス一眼の動きとともに、その動向を見守りたい。

(写真・文／広報編集委員 柴田 誠)



富士フィルムのプレスカンファレンス会場より。

記録と表現

～「岡本太郎の写真 採集と思考のはざまに」展に見る～

河野和典 KOUNO Kazunori (編集者)

「岡本太郎の写真 採集と思考のはざまに Photography by Okamoto Taro : For the sake of thought」展

(2018年4月28日～7月1日、川崎市岡本太郎美術館)

会期の終盤(6月30日)、この連載の取材で向ヶ丘遊園駅から12～13分ほど歩き、さらに川崎市生田緑地を4～5分ほどかけて通り抜けやっと岡本太郎美術館にたどり着き、最初に入場する常設の岡本太郎(1911-1996)のプロフィール展示室に入って、漫画家の父・岡本一平(1886-1948)と歌人で小説家の母・岡本かの子(1889-1939)の長男で、川崎に母の実家があり岡本太郎の生誕の地であることを、来るたびに思い出す。

常設展「太陽の塔 誕生一八面六臂の岡本太郎」の会場を通ったさきに今回の特別展会場が現れる。1970年の大阪万博のシンボル「太陽の塔」をはじめ、1981年のテレビコマーシャルでの「芸術は爆発だ!」の雄叫びで流行語大賞受賞などでもよく知られる日本を代表する芸術家でありながら、岡本太郎の写真はいまだ、知る人ぞ知るの存在である。

◎ 224点のモノクローム写真

今回の特別展プレスリリースには、「若い日に留学したパリで、画家としての方向を模索するかたわら、自分の行く道への裏づけを得たい」という切実な思いから哲学や社会学に关心を持ちます。そして人間の生き方の根源を探るべく、パリ大学で民俗学・文化人類学を学びました。パリでは、画家だけでなく写真家たちとも親しく交流し、プラッサイやマン・レイに写真の手ほどきをうけ、引き伸ばし機を譲り受けたり、戯れに展覧会にも出品しています。しかし、岡本が猛烈な勢いで写真を撮りはじめるのは、戦後、雑誌に寄稿した文章の挿図に、自分が見たものを伝える手段としてこのメディアを選んだ時からでした。」と解説されていた。

会場は大きく4章に分けられ、**第1章 道具**(繩文土器、道具、手仕事、生活)、**第2章 街**(道、市場、都市、屋根)―パリ再訪(ジャコメッティ、プラッサイ、ル・コルビュジエ アパートの幼稚園にて、パリ風景など)―**第3章 境界**(階段・門、水、木、石、祭り)、**第4章 人**(人形、動物、こども、人、集い)が18項目で構成され、

合計224点のゼラチンシルバープリントが並んでいた。あいだに油彩／彫刻、さらには資料としてコンタクトアルバムなどが展示されている。

◎写真に添えられた秀逸な言葉

興味深いのは、北は青森から南は沖縄まで日本各地を取材したシャープでストレートな岡本の眼差しが感じられる写真の素晴らしさはもちろんのだが、展示作品の各項目のところどころに掲げられた彼の言葉である。

まず会場入口には、「写真というのは偶然を偶然で捉えて必然化することだ。」(岡本太郎、土門拳「今日の芸術」『カメラ』1954年11月号)とあり、私には「写真で記録し、そして表現すること」とも受けとめられた。写真を表す究極の言葉ともいえる。

『コンタクトアルバム』に添えられた言葉には、「観察し、ノートし、写真におさめる。問題をみつけ出し、それに答えるものを探しもとめ、よろこび又がっかりする。その文化の運命を、更に全日本の枠の中で考え、本質的な芸術論を展開するのだ。」(「あとがき」『風土記』p.284)とある。これは記録した写真を改めて見返すことの重要性を説いている。〈道具〉に掲げられた「生活に密着した道具の美しさ。―芸術以前だろう。しかし芸術ぶったものよりもはるかに鋭い。」(四国『日本再発見―芸術風土記』p.267)は、記録とは、表現とは何かに結びつくような言葉



「岡本太郎の写真 採集と思考のはざまに」展 フライヤー 表面・裏面

に受け取れる。そして〈生活〉には、「この素裸な風物にふれると、日本人の奥底にまだ生動している生活のきめを直觀して感動する。それは見過ぎてはならない、微妙なニュアンスではあるが、またわれわれを決定しているものではないか。」(『沖縄文化論』中公文庫)とあるが、これは、「チコちゃんに叱られる」ではないが、ボオーっと見てんじやねえよと、言われている

ようである。〈市場〉の「民芸でも織物でも、菓子やパンのデザインに至るまで、アッというほど強烈で、濃厚な生命感にあふれている。それはまさに人間性の根源の豊かさである。メルカド(市場)を歩きまわってそういう物や人々にふれていると、時間のたつのを忘れてしまう。」(『中南米に見る生命の深淵』『美の世界旅行』1982年)には、岡本の眼を皿のようにして動き回る姿が見て取れるようだ。〈木〉には、「そびえたつ一本の木。それは神がえらんだ道。神の側からの媒体である。この神聖なかけ橋に対して、人間は石を置いた。それは見えない存在へ呼びかける人間の意志の集中点、手がかりである。」(神と木と石『沖縄文化論』中公文庫、p.170)とあるが、大いなる自然界への人間のアプローチともいえる言葉だ。〈こども〉の「頬っぺたの赤い子供たちは、ちょうど厚い雪の下からムクムクともえだした芽のように、やわらかくて生気にあふれている。」(秋田『日本再発見一芸術風土記』p.26)には、岡本のやさしさがあふれている。〈集い〉に掲げられた、「波止場というのは不思議な世界だ。ここには瞬間に人生が凝縮し、また消え去ってゆく。岸壁をうずめている人々の様子はまったくさまざまだ。(….) 私は、一瞬、鮮やかに浮かびあがる人生の切断面の美しさに見とれた。」(『沖縄文化論』中公文庫)という言葉には、民俗学や文化人類学を学



写真展カタログ
(川崎市岡本太郎美術館発行)

んだ岡本の知性が滲み出ている。

◎岡本太郎の写真における記録と表現

写真の最大の特性は記録性であり、その記録された写真には多くのことを発見する力を秘めている。それが写真の最大の機能であり魅力である。今回の岡本太郎展は、それを如実に物語っているように思われる。冒頭のプレスリリースに「岡本が猛烈な勢いで写真を撮りはじめるのは、戦後、雑誌に寄稿した文章の挿図に、自分が見たものを伝える手段としてこのメディアを選んだ時から」とあるように、文章を補完する手段として写真が使われ、今展の〈コンタクトアルバム〉に添えられた言葉には、「観察し、ノートし、写真におさめる。」とあるようにノートが取られ言葉が写真を補完している。つまり、文学も写真も、あるいは美術も音楽も、それ自体で成り立つ表現などありはしないのだ。岡本が見て、感じて、思考して、表現する絵画にしても彫刻にしても、あるいは文章にても、そして写真にても、そのすべてが通底していると言っても過言ではない。「写真というのは偶然を偶然で捉えて必然化することだ。」という究極的とも言える岡本の言葉にあるように、その記録の積み重ねによって表された写真は結果、彼が見た事物、もっと言えば森羅万象を象徴化するするような試みではなくて、文化の多様性を表していて、よりいっそう輝きを増しているように思われる。

【おかもと・たろう】

1911 岡本一平と岡本かの子の長男として、神奈川県橋本郡高津村(現・川崎市高津区二子)に生まれる。1917 青山の青南小学校入学。学校に馴染めず転校を繰り返す。1918 慶應義塾幼稚舎入学。1920 この頃、父の知人から譲られたコダックのカメラで写真に親しみ、自身で暗室も試みる。1929 慶應普通部を卒業、東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学。12月一平のロンドン軍縮会議取材に同行し一家で渡欧。1931 語学習得のためパリ郊外のリセで寄宿舎生活を送る。1932 この頃、パリでスーパーイコンタ入手。1936 9月訪仏した金丸重嶺のブラッサイとマン・レイへの取材に案内・通訳として同行。1938 国際シェルレアリスト・パリ展に《痛ましき腕》出品。1940 ドイツ軍の侵攻を受け帰国。1942 初年兵として出征。1946 約半年間の俘虜生活を経て復員。1951 東京国立博物館で繩文土器を見て衝撃を受ける。1952 ヨーロッパ再訪。1954 坂倉準三建築研究所設計によるアトリエ兼自宅が青山に完成。第2回ニッコールクラブ写真展に出品。1960 第5回原水爆禁止世界大会記念美術展に《燃える人》を出品。1961『忘れられた日本』(沖縄文化論) (中央公論社)刊行。1970 日本万国博覧会《太陽の塔》ほかテーマ館完成。1972 札幌オリンピックの公式メダル制作。1979 岡本太郎著作集(全9巻、講談社)、作品集『岡本太郎』(平凡社)刊行。1984 フランス政府より芸術文化勲章受章。1996 急性呼吸不全にて没。1999 川崎市岡本太郎美術館開館。2001 同館で岡本太郎の写真を紹介する初展示「日本発見 岡本太郎と戦後写真」展開催。2002 同「熱いまなざし—岡本太郎とメキシコ」展開催。2003 せんだいメディアアーテークで「写真家・岡本太郎の眼 東北と沖縄」開催。2005 東京都写真美術館で「写真展岡本太郎の視線」開催。(『岡本太郎の写真 採集と思考のはざまに』展カタログより抜粋)



「岡本太郎の写真 採集と思考のはざまに」展 会場

「日本写真保存センター」調査活動報告(28)

変転とした時代、カメラは事実を記録し伝える

松本 徳彦(副会長)

「写真は時代を物語る鏡」ともいわれる。写真家の目がなにを目撃し、どう撮るかは、その時代の空気をどのように感じとったかによって異なり、撮る人の個性や特徴、作風として表れている。笹本恒子、岩永辰尾のお二人が過去の出来事を通して、後輩たちに何を伝えようとしているのかを汲み取りたい。

笹本恒子(1914~)

ヨーロッパで第一次世界大戦がはじまったのが1914年。この年に笹本さんは東京で生まれ、2018年9月1日で104歳になられた。

この一世紀さまざまな事件が起こり、体験されてこられた。関東大震災、日中戦争、太平洋戦争、空襲、敗戦と、激動の時代をどのように生きてきたかを綴った『103歳。どこを向いても年下ばかり』(PHP研究所、2017年)に詳しい。

日本初の女性報道写真家と呼ばれてきた笹本さんは、本書の「時代を目撲してきました」の章で、1923年9月1日は私の9歳の誕生日。関東大震災の日です。縁側で夏休みの宿題をしているとき、突然どっしーんと体が横倒しになり、屋根から瓦がガラガラと崩れ落ちてきて、生きた心地がしなかった。大勢の人が着のみ着のまま、はだしで避難した。1936年(22歳)、雪の降る朝2・26事件に遭遇。絵の先生のところに伺ったところ、「大変だよ東京で革命が起こったよ」というなり、先生はさっさと出かけられた。ひとりで駅に向かうと、周辺は鉄兜のお巡りさんがいっぱい。翌朝からラジオが「みなさん反乱軍は山王ホテルにたむろしています。流れ弾が飛ぶかもしれません。外に出ないでください」と繰り返し放送していた。鎮圧されたが、その日を境に、日本は軍事色にまっしぐら。1938年(24歳)、国家総動員法発

布。「贅沢は敵だ」「パーマネントは止めよう」「進め一億火の玉だ！」のスローガンが貼り出される。社会全体が監視の目を光らせ、うかつな発言は危険。いつも見張られ、ちょっとしたことで尋問されるという、怖い時代でした。1941年12月(26歳)、真珠湾攻撃で太平洋戦争に。1944年サイパン島、日本軍玉砕。報道規制で本当の戦況は知らされなかった。学徒動員、前途ある若者が次々と戦地へ。1945年(30歳)、東京大空襲連日の空襲警報に怯えながら、わが家も全焼し、友人を頼って千葉市に疎開。8月15日敗戦。正午の玉音放送を聞き、今夜から電灯が灯せる。布団で寝られると安堵したものです。「もう二度と戦争は御免です」と誓い、この経験を語り継がなければと心に決める。1959年(45歳)、安保議論。日米安保条約改定が岸信介内閣のもとで強行採決され、連日国会周辺がデモ隊に包囲され、このデモ隊に参加していた東大生の樺美智子さんが、機動隊との衝突で死亡するという悲劇があって、非常に悲しく憤りを覚えたと語る。

保存センターには、写真集『100歳のファインダー』に掲載された、戦中から戦後にかけての国内情勢を撮った写真や多くの著名な人物を撮ったモノクロ写真の原板1,425本が寄贈され収蔵されている。2018年10月には、東京都から名誉都民として表彰される。2019年には銀座で田沼武能さんとの二人展が催される予定など、意気軸高い日々が続いている。



ヒトラーユーゲント来日 人形浄瑠璃を披露する桐谷紋十郎
1940年11月『写真週報』142号掲載 笹本恒子



三岸節子 1990年 笹本恒子



広島・原爆ドーム 1953年 笹本恒子



大井町 時代屋 1972年 大井町 岩永辰尾

岩永辰尾 (1928 ~ 2018)

岩永さんは朝日新聞の全日本写真連盟元理事で、アマチュア写真家の指導をはじめ、勤務の傍ら、戦後の混乱期から高度経済成長期へ変貌した激動の時代を自らが住む東横線の都立大学界隈をベースに、生活感のある光景を丹念に撮り続け、写真集『東京タワーが建ったころ 55年前の私たち』(2005年、第三書館)と『昭和一あの日あの時』(2012年、文芸社)を刊行されている。

氏はこの2冊の写真集を通して、「日本の元号の歴史の中でもっとも長かった昭和。戦争で多くの犠牲を払い、戦後の復興で生活が大きな変貌を遂げた時代。

次々と発売された三種の神器、電気洗濯機、冷蔵庫、テレビの憧れの電化製品を買い揃え、家財道具を増やし、洋風の生活を送るのが夢の昭和30年代。混沌とした中で実に変化に富んだ激動の時代、そして思わず胸が熱くなるような古き良き時代……それにもしても昭和は遠くなつた。」と述懐されている。



展示されたDC-4 機名号を見る。 1955年 羽田空港 岩永辰尾

氏の写真に忠犬ハチ公の写真が何枚もある。ハチ公については、朝日新聞の1932(昭和7)年11月10日付け朝刊に詳しい。

「いとしや老犬物語－今はなき主人の帰りを待ちかねる7年間」という記事と写真が掲載され、「忠犬ハチ公」として知られる。この記事を読んだ東京帝国大学農学部の上野英三郎教授がこのハチを飼いたいと申し出て、はるばる大館から急行列車に乗せられ、20時間かけて東京上野まで送られてきた。翌1933年、この美談に感動した帝展彫刻部門の審査員で彫塑家安藤照がハチ公像を制作し、1934(昭和9)年4月21日に渋谷駅前にハチ公像が設置された。その後は、太平洋戦争の金属供出で撤去、溶解され機関車の部品として活用された。戦後まもなく再建され今日に至っているが、駅前広場の拡張や改造によって北向きが東向きに替えられるなど、今日もなお苦難の道を歩んでいる。

写真保存センターには岩永氏ご遺族から写真原板約500本が寄贈されている。



渋谷駅ハチ公像。今はもう少し西側に移る。 1956年 岩永辰尾

契約書の読み方

安藤和宏（東洋大学法学部教授）

最近の著作権よろず相談室の傾向は、写真の無断使用対処問題から、契約書に関する相談にシフトし急増しています。各企業がコンプライアンス問題で社会的責任を問われ、企業倫理や法令遵守を徹底するため、法務部の設置や企業内弁護士の登用などにより、契約書から仕事がはじまる事態になったと理解しています。ただ大きな問題は、一方的に「この契約書にサインしてください」から仕事がはじまることです。契約とは双方の合意に基づくものです。しかし一歩引いて実務の実態から、譲渡の強要、期限の定めがない契約、特約による規制、人格権不行使条項など、専門家の駆け引きを聞いて行きたいと思います。

（著作権委員会）

1. 契約の意義

契約とは、当事者の自由な意思によって取り決められる合意のことである（債権・債務が発生する）。そして契約は、当事者の申込・承諾の合致によって成立する。日本では、ほとんどの契約は口頭による合意だけでも成立するため、書面によらなければ成立しない契約（要式契約）や取引額が大きいビジネスでない限り、契約書を交わさず、口約束で行うことが多い。契約書を締結するメリットは以下の通りである。

- (1) 契約は口頭でも成立するが、口約束だけでは後に「言った・言わない」の紛争となるおそれがあること。
 - (2) 契約書を作成しておけば、お互いの権利・義務が明確になり、紛争を防ぐことができる。
 - (3) さらに契約書に互いの義務を明記することによって、自分が行うべき仕事（債務）が確認できること。
 - (4) 結果として、紛争が減少し、仕事が円滑に進むこと。
- なお、電子メールでも契約したことの証拠になるので、なるべく残しておいた方がよい。

2. 契約交渉の進め方

契約交渉は喧嘩ではないし、勝負でもない。したがって、相手を後悔させるような契約交渉をすると今後、二度とビジネスを行わないという気持ちにさせてしまう。企業の法務部は相手との関係性を重視せず、一方的に有利な契約を締結することが仕事だと思っていることが多い。その場合は、決別（交渉決裂）する勇気を持つべきである。ビジネスを円滑に進めるためには、歩み寄って契約を成立させなければならない。

ここで大事なのは、交渉が成立する前に仕事を始めないということである。なぜなら、仕事を引き受けないという伝家の宝刀が抜けなくなるからである。また、時間的に余裕をもって交渉を開始することも大事であ

る。時間がないと妥協しがちになる。さらに、担当者から事前にできるだけ情報を集めることも重要である。相手方からオファーされた仕事なのか、こちらからお願いした仕事なのかで、交渉力（力関係）が異なるからである。

ただし、前者の場合でも、こちらの交渉力が強いという理由で、著しく不利な条項を相手方に押しつけるべきではない。なぜなら、強行法規違反、公序良俗違反、信義則違反、独占禁止法違反等に問われるおそれがあるからである。

3. 契約書の読み方

まず、相手方からドラフトが来たら、合意した基本条項がすべて正しく記載されているかを確かめる。通常、合意されていない条項が入っているので、妥当かどうかを担当者と協議する。承諾できないと判断した場合、相手方に修正案を伝える（削除要請でもよい）。なお、片務条項はなるべく双務条項に修正させが必要である。

過去に締結した契約と同じ内容の契約を締結する場合には、必ず過去の契約書と比較する。過去の契約書と異なる条件が設定されていたり、異なる条項が追加されている場合、相手方にその理由を尋ねるべきである。そのような場合、たいてい相手方が条件を有利にしたいだけなので、事前に説明しないのである。

契約書の表題を「覚書」「念書」とするものもあるが、当事者を法的に拘束する契約であることには変わりはない。「覚書」は簡単な当事者間の合意の書面であることが多い。また、一般的には「契約書」が主、「覚書」が従とする関係になる。当事者の表示は、正式社名や本名を記載する。当事者は契約書に何度も登場するので、甲、乙、丙…というように十干を使用するのが一般的である。

前文は記載しなくてもよいが、通常の契約書にはほとんど前文がある。前文のメリットとしては、契約の要旨を記載することによって、本文を読まなくても契約

の趣旨がわかることがある。また、前文で契約当事者を定義することができるというメリットもある。

本文の第1条には契約の目的を記載することが多い。業務委託契約の場合、「甲は乙に対し、・・・を委託し、乙はこれを受託します」という文章が一般的である。写真のテーマ、データ形式、数量等を記載することで、業務内容をできるだけ詳細に特定する。多くの場合、写真撮影の業務委託契約は下請法の対象となる（経済産業省「印刷業における下請適正取引等の推進のためのガイドライン」参照）。受注した印刷物の制作に当たって、原稿に用いる写真の撮影をカメラマンやフォトスタジオに発注した場合は下請法の適用を受けるかという論点があるが、写真（データまたはフィルム）は完成原稿の一部を構成する情報成果物なので、情報成果物委託に該当し、受注した情報成果物委託として下請法の適用を受けると思われる。また、画像処理も含めて撮影を発注した場合も同様に情報成果物委託に該当する。なお、下請法上、親事業者の義務として、①書面の交付義務、②書類の作成・保存義務（2年間）、③支払期日を定める義務（納品後60日以内）、④遅延利息の支払義務（14.6%）等がある。

次に納品に関する条文が規定される。写真家は契約書に規定する納期までに、写真原稿を委託者に納入する義務を負っている。なお、写真家が納入した写真原稿が発注内容と異なる場合または写真原稿に瑕疵がある場合、委託者は速やかに写真家にその旨の通知をし、修正の指示をする。写真家はその指示に基づき、再度撮影を行う等して、写真原稿を再納入する。

親事業者が無償でやり直しを求めるのは、下請事業者の給付の受領後、給付の内容が発注書面に明記された注文内容と異なる場合と瑕疵がある場合である。親事業者は、瑕疵の存在及びその責任が親事業者ではなく、下請事業者にあることを後に行政機関に説明できるようにしておく必要がある。なお、瑕疵の判断基準であるが、目的物が通常有すべき品質・性能を標準にするのが原則である。ただし、契約で特別の品質・性能が示された場合はそれに従うことになる。

次に権利の帰属が規定される。写真原稿の著作権が写真家に留保される場合、ライセンス契約となるため、委託者または利用者が本件写真原稿を利用できる範囲を記載することになる。その場合、使用用途（目的）、期間、地域、独占・非独占の別を明記する（通常、独占と明記しない限り、非独占と解釈される）。

写真原稿の著作権は写真家に帰属させることができが、交渉力によって、委託者に著作権を譲渡せざるを得ない場合もある。その場合でも、譲渡期間を限定して、一定期間が経過した後は、写真家に著作権が復帰するという契約が望ましい。また、委託者に著作権を譲渡する場合でも、写真家は個展やプロフィール等（いわゆる自

己使用）に使用できるとする条項を入れるべきである。なお、公正取引委員会によると、「下請事業者に帰属する知的財産権を『給付の内容』に含んで親事業者に譲渡せらるのであれば、書面に記載する必要がある」としている。

著作者人格権の不行使特約の有効性については、学説が分かれているが、契約の実務慣行となりつつある。しかしながら、著作者の人格を著しく害する程度まで改変を行った場合にまで権利行使できないことは、公序良俗に反し、契約が無効となる可能性が高く、著作者もそのような主張をすべきである。したがって、「ただし、乙の著作者人格権を害するおそれがある改変は、その限りではありません」という文言を入れることをお勧めする。【※】

業務委託料については、業務の遂行に際して、経費（旅費・交通費・宿泊費・機材費・スタジオ使用料等）が委託料に含まれていない場合、委託者が経費を負担することを明記する。報酬の支払時期については、民法は仕事の目的物の引渡しと同時と定めている（民法633条）。しかし、これは任意規定なので、契約当事者間で報酬の支払時期を自由に定めることができる。ただし、下請法により、親事業者は下請事業者との合意の下に、親事業者が下請事業者の給付の内容について検査するかどうかを問わず、下請代金の支払期日を、物品等を受領した日（役務提供委託の場合は、下請事業者が役務の提供をした日）から起算して60日以内で、できる限り短い期間内で定める義務がある。

さらに下請法により、親事業者は下請代金をその支払期日までに支払わなかったときは、下請事業者に対し、物品等を受領した日から起算して60日を経過した日から実際に支払をする日までの期間について、その日数に応じ当該未払金額に年率14.6%を乗じた額の遅延利息を支払う義務がある。

本格的な契約書を締結するのは心理的なハードルが高いと思うが、基本条項だけを記載する簡単なメモのような契約書を作成することから始めてみてはいかがだろうか。書面を残すことによって、言った・言わないと紛争が激減することだろう。

【※】当協会では包括的に人格権の不行使を求める事は立法の趣旨に反すると考えています。

安藤和宏（あんどう・かずひろ）



1963年生まれ。東京学芸大学卒業、フランクリンビアース・ローセンター（LLM）、ワシントン大学ロースクール（LL.M.）修了、早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程博士研究指導終了。高校教諭、日音、キティミュージック、セブティマ・レイ、北海道大学大学院法学研究科特任教授を経て、現在、東洋大学法学部教授。専門は知的財産法。博士（法学）。

ケンコー・トキナー

メガネ式ルーペ 「YUI(ユイ)ルーペ」

手元のものを見るとき、両手をふさがずメガネのようなスタイルでかけるルーペです。撮影に関するシーンでは、例えば取扱説明書を見るとときや、カメラの背面液晶でライブビューを確認するときや、メニュー設定のときなど、手元がハッキリ見えるとありがたい・・・といったケースがあります。

ケンコー・トキナーは、メガネレンズ専門メーカーであり、国内シェアナンバーワンを誇る「東海光学株式会社」とタッグを組み開発。

眼鏡を知り尽くしたメーカーと共同開発したレンズを使用し、見やすく快適にご使用いただけます。

YUI ルーペの特長として、レンズが脱着式であることが挙げられます。1.6倍レンズのルーペと1.6倍ルーペに1.89倍の交換レンズがセットとした製品があり、倍率を変えて使うことができます。

視野が広く、眼鏡の上からかけることも可能。ブルーライトもカットします。

ケンコーの YUI ルーペは、1.6倍のものが 8,510円、1.6倍に1.89倍の交換レンズセットが 10,670円（ケンコー・トキナー中野サービスショップ価格）。

ぜひ、写真撮影や日常生活にご活用ください。

株式会社ケンコー・トキナー

【製品に関するお問合せ先】

広報・宣伝課 田原 栄一

TEL : 03-6840-2970

FAX : 03-6840-2962

メール : etahara@kenko-tokina.co.jp

<http://www.kenko-tokina.co.jp/>



ニコンイメージング ジャパン

新次元の光学性能を追求した「ニコン Z マウントシステム」誕生 フルサイズミラーレスカメラ「ニコン Z7」「ニコン Z6」を発売

株式会社ニコンの子会社、株式会社ニコンイメージングジャパンは、大口径の新マウントを採用したフルサイズ（ニコンFXフォーマット）ミラーレスカメラ「ニコン Z7」とNIKKOR Z レンズを9月28日に、「ニコン Z6」を11月下旬に発売します。



「Z7」「Z6」は、像面位相差AF 画素搭載の新開発裏面照射型ニコンFXフォーマットCMOSセンサーと、新画像処理エンジン「EXPPEED 6」を搭載しています。

「Z7」は、有効画素数4575万画素という高画素と、常用感度ISO 64～25600を達成したモデルです。NIKKOR Z レンズとの組み合わせで、画像の周辺部まで圧倒的な高解像感を実現します。「Z6」は、有効画素数2450万画素、ISO 100～51200の幅広い常用感度域を実現したオールラウンドモデルです。優れた高感度性能や全画素読み出しのフルフレーム4K UHD動画対応により、暗所での撮影や動画撮影などさまざまなニーズに応えます。

NIKKOR Z レンズの詳細については、以下のURLをご覧ください。

URL : http://www.nikon.co.jp/news/2018/0823_nikkor-z_02.htm

株式会社ニコンイメージングジャパン

【製品に関するお問合せ先】

ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル

TEL : 0570-02-8000

<http://www.nikon-image.com>

ヴァイテック イメージング

社名が変わりました

2018年4月より、マンフロット株式会社からヴァイテックイメージング株式会社に、社名変更いたしました。

取扱ブランドも従来の Manfrotto、Gitzo、Lastolite、Avenger、National Geographicに、Lowepro、JOBY が加わりました。

製品群も、三脚一脚、雲台、スタジオ用品、ライティング機材、カメラバッグ、レンズフィルターと写真・動画機材アクセサリーを拡充中です。

バーツ修理のお問合せ :

<https://www.manfrotto.jp/>

上記 URL より一番下のサービス&修理をクリックして確認ができます。また、品番からバーツ検索可能になっています。

動画の依頼が増えてきた、動画を始めたい等のご相談等は、カスタマーサービスにお願いします。

TEL : 03-5404-6871

（月～金 10:00～17:00）

メール : info@manfrotto.jp

「JPS会員」とお伝え下さい。カタログ送付も受け付けております。



光村印刷

日本写真保存センター写真展

「後世に遺したい写真」-写真が物語る日本の原風景-

日本写真保存センターでは、先人が遺した写真原板から、大正、昭和の大衆文化、戦争への足音、空襲、被爆から敗戦と過酷な体験を経て、復興、経済発展へと歩んできた、日本人の歴史を約100点の写真で振り返ります。ご遺族や、写真家ご本人から寄贈を受けた写真原板が、再び印画紙に焼き付けられて甦りました。

さらに、今回は品川区ゆかりの写真家笹本恒子、若田幸平、諸河久をはじめ、品川歴史館所蔵の中村立行作品の展示もいたします。わが国の文化財の記録、日本人の暮らしの記録を、貴重な写真でぜひご覧ください。

*光村印刷は、日本写真保存センターの活動と写真展の趣旨に賛同し、本展を共催いたします。

[展覧会概要]

会期:2018年10月25日(木)~11月24日(土)

(日曜日休館)

開館時間:11:00~19:00(祝日・土曜日は17:00まで)

会場:光村グラフィック・ギャラリー(MGG)
東京都品川区大崎1-15-9

入場料:無料

主催:公益社団法人日本写真家協会・日本写真保存センター

共催:光村印刷株式会社

後援:品川区、公益財団法人品川文化振興事業団

協力:一般社団法人日本写真著作権協会



原節子 撮影:名取洋之助、昭和11年

光村印刷株式会社

問い合わせ先担当:両角・和田

TEL:03-3492-1181(光村印刷代表)

FAX:03-3492-4990

<http://www.mitsumura.co.jp/>

キヤノンマーケティングジャパン

光学の可能性を広げる新イメージングシステム“EOS R システム”が誕生
カメラ・レンズで構成する「EOS システム」がさらに拡大

キヤノンは、レンズ設計の自由度を高め、光学の可能性を広げる、カメラ・レンズで構成する新たなイメージングシステム“EOS R システム”を立ち上げます。キヤノンマーケティングジャパンは、ミラーレスカメラ“EOS R”と、

“RF レンズ”4 機種、マウントアダプター 4 種を10月25日より順次発売します。



“EOS R システム”は新たに開発した“RF マウント”を採用し、レンズ設計の自由度を高める大きなマウント径とショートバックフォーカス、レンズとカメラボディー間の新マウント通信システムでさらなる高画質化と利便性の向上を実現しています。

ボディーは、新マウントの特長を生かすため、ミラーレス方式を採用。撮像面位相差オートフォーカス技術「デュアルピクセル CMOS AF」をはじめ、電子ビューファインダー (EVF) を生かした新システムならではの撮影機能を搭載しています。専用のマウントアダプターで、従来の豊富な「EF レンズ」や「EF-S レンズ」が使用できるため、レンズ資産を生かすことができます。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

【製品に関するお問い合わせ先】

キヤノンお客様相談センター

TEL:050-555-90002

<https://canon.jp>

カールツァイス

新賛助会員のご挨拶

ドイツ東部にある古くからの大学町イエナで顕微鏡職人カール・ツァイスが1846年に設立した工房がカールツァイス社の始まりです。

今日では顕微鏡に加え、カメラレンズ、双眼鏡、眼鏡レンズ、手術用顕微鏡を中心とする医療機器、工業用測定器等を製造しています。カールツァイスの歴史は光学技術革新の歴史といつても過言ではありません。

ZEISS の写真部門は100年以上の長い歴史があり、ZEISS のカメラレンズはデジタル全盛の現在に至るまで優れた描写性能(色再現性や立体性)で世界をリードしてきました。1969年7月20日、アメリカの有人宇宙飛行船「アポロ11号」が人類初の月面着陸に成功したとき、二人の宇宙飛行士の胸にはハッセルブラッドのカメラにカールツァイスのレンズがセットされており、2時間にわたる月面探査の様子

が詳しく記録されました。その後 NASA によって公開された画像はあまりにも有名です。

現在では比類なき高性能レンズ群であるSLR 用の Otus, Milvus, Classic およびレンジファインダーカメラ用 ZM レンズシリーズ、ミラーレスカメラ用 Batis, Loxia, Touit レンズシリーズをラインナップしており、これらのレンズは妥協を許さない品質と性能により世界中の写真家から熱烈な支持を獲得しています。

カールツァイス株式会社は、ドイツに本社を置くこのカールツァイス社の100% 子会社である日本法人であり、コンシューマー＆プロフェッショナルディビジョンは、上記の写真用レンズに加え、映画や CM 等で使用されるシネレンズ、双眼鏡や単眼鏡、ライフルスコープ等の製品を取り扱いさせていただいております。

2018年7月より賛助会員として JPS に入会させていただき、賛助会員の活動を通じて、日本写真家協会の発展に寄与すべく力を尽くしてまいりますので会員の皆様のご支援ならびにご指導をよろしくお願い致します。



カールツァイス株式会社

【製品に関するお問い合わせ先】

カメラレンズディパートメント

TEL:03-3355-0334

FAX:03-3359-6760

メール:info.lenses.jp@zeiss.com

<http://www.zeiss.co.jp/photo>

※(構成 / 出版広報委員:川上卓也)

「賛助会員トピックス」への寄稿ご案内

賛助会員の皆様には、会報に「賛助会員のページ」を設け、トピックスやお知らせなどの記事を掲載しています。貴社のトピックスやお知らせなどがございましたら、紙面の都合上あまり多くの文字数はとれませんが、貴社のニュース並びにお知らせなどをご寄稿下さいますようご案内申し上げます。

平成30年7月豪雨被災者支援 「チャリティー写真展」開催

2018年9月26日(水)～10月2日(火) FMエキシビションサロン銀座
販売作品総数：124作品 販売金額合計：188万円

■ギャラリーを埋め尽くした382点の力作

2018(平成30)年9月26日～10月2日の7日間、東京・銀座6丁目の(株)フレームマン・FMエキシビションサロン銀座で、日本写真家協会(JPS)主催による「平成30年7月豪雨被災者支援チャリティー写真展」を開催した。

これは本年7月に発生した豪雨によって被災した西日本、中部、および多くの地域における被災者を支援するために開催した会員作品によるチャリティー写真展で、作品の売上金は諸経費を除いた全額が、日本赤十字社を通じて、被災地に送られる。

日本写真家協会では、これまでにも2001(平成13)年9月11日のアメリカ合衆国における同時多発テロ事件の発生に際して、犠牲者となった写真家の家族を救援するための写真展示即売会を開催。また、2004(平成16)年10月23日の新潟中越地震、2011(平成23)年3月11日の東日本大震災の発生に際しても、チャリティー写真展を開催し、売上金を寄付し、復興支援をしてき

公益社団法人 日本写真家協会主催

平成30年7月豪雨 被災者支援

チャリティー写真展

平成30年9/26水～10/2火 10:00～19:00(最終日15時まで)

木村 寿一	齊藤 康一	奈良原一高	芳賀日出男	鶴江 英公
<small>(以上名前省略)</small>				
相澤 正	櫻井 悅子	小池 美幸	平 寿夫	松倉 広治
青山 昌弘	老川 良一	後藤 刚	高野 陽一	マツミスズム
秋田 好恵	大石 芳野	小林みのる	高橋 渉	松本 徳摩
芦川 仁	大久保勝利	小平 尚典	高村 達	丸田あつし
浅井 秀美	大高 明	小松 健一	田口 梶明	丸山伸二郎
浅尾 省五	大津 茂巳	小松 好雄	宅間 國博	水越 武
足立 寛	大津 茂亮	酒井憲太郎	立木 寛彦	水谷 華人
足立 喜	大西みづぐ	坂井田富三	谷 泰宏	三郷 雪舟
君江 幸	大屋 徳亮	坂井田富三	田沼 武斎	宮澤 正明
新井 幸章	小川 泰祐	柳原 透輝	都留 雅人	宮本 博文
荒牧敬太郎	沖田 寛	作野 岩史	永崎サトシ	持田 昭俊
有馬 清徳	奥田 充亮	桜井 秀	中島 佳彦	森 明彦
安藤 豊	梶山 修明	佐藤 健治	佐藤 喬一	久 勤
安念余志子	勝山 基弘	佐藤 寿一	中津川隆康	諸河 久
鶴島 幸永	加藤 雅昭	佐藤 昭一	並木 隆	柳川 勤廣
飯田 丽明	叶 悠真	佐藤 秀明	野口 純	山口 純子
飯塚 明夫	川上 卓也	佐藤日出夫	野沢 敏次	山口 純子
生原 幸良	川村 容一	佐藤 遼子	野町 仁喜	山村善太郎
池上 直哉	神崎 順一	佐藤 仁重	ハービー山口	山本俊介夫
石川 梵	菊池 哲男	三田 崇博	秦 達夫	山本 一紀
石田 研二	紀 善	柴田 明蘭	美 伸三	植木 裕司
石橋 義美	木下 渡	柴田 誠	原田 寛	吉岡 一紀
磯村 浩一	木村 信郎	島内 治彦	平塚音四郎	吉永 一
伊藤 勝敏	木村 正博	島田 広義	広瀬 明代	若井 昭夫
今井 孝弘	工藤 裕之	清水 啓朗	尚敬	和田 直樹
今村 拓馬	久保田信	廣田 尚敬	正造	渡辺 幹夫
岩崎 和雄	熊切 伸介	福島 美文	福田 龍也	渡部 曜也
宇井真紀子	大輔	杉本祭々重	福永 一興	
内堀タケシ	桑原 吏成	鈴木 是清	藤田 智弘	
梅本 隆	小池 江	鈴木 康一	藤田 修平	

会場：FMエキシビションサロン銀座



チャリティー写真展の案内

た。

今回の写真展では、協会会員147名から合計382点の作品が展示され、会場となった1階、2階の壁面を作品が埋め尽くした。

会員から寄せられた作品は、人物、風景、動物、静物、時事、アブストラクトなど、被写体は非常に多岐にわたりながらどの作品も仕上がりのクオリティーは非常に高く、8×10サイズという写真展での展示にはやや小ぶりな作品の展示ではあったものの、艶やかな作品の数々が、来訪者の心を魅了していたように見受けられた。作品の募集が会員に告知されたのは、7月19日のことで、写真展の開催までは二ヵ月余りしかなかつたが、チャリティーに賛同した各会員の熱意が、作品のクオリティーにも現れた恰好となったのである。

■写真展の企画進行中にも続発した災害

開催初日となった9月26日は、午前10時の会場のオープン前から来場者が列を作る盛況を見せ、開館の10分後には作品が売れ始めるという好調な滑り出し



写真展初日。会場にはオープン前から来場者の列ができた。



1F写真展会場風景



2F写真展会場風景



販売作品の梱包も会員の手で行なわれた。

となった。

時おり雨が降る中をいち早く会場に訪れた来訪者は、誰もが展示作品にじっと見入っていた。作品の掲載は、撮影者の名前五十音順となつたが、当然のことながら、撮影者ごとに作風は異なり、そこから醸し出される雰囲気は、作品1点ごと、あるいは数点ごとに、がらりと変わってゆく。それは作品を見る者にとっても、息を抜くことができないという副次的な効果を生んでおり、オムニバス的な作品展示の効用となつたようだ。その一方で、作品を眺めながらの、来訪者と会員間での写真談義も隨時始まり、これはどの写真展の会場でも見ることができる、心安らぐ情景となつた。

今回出展された作品の販売価格は、10,000～50,000円となっており、これは出展者が任意で設定したものによる。販売は会場での即売形式で行われ、作品購入の購入希望者は、お気に入りの作品を壁から外し、2階に設けられたキャッシャーで支払いを行い、梱包された作品

をその場で受け取って持ち帰るというシステムである。もちろん、代金の受け取り、梱包の作業も会員によって行われている。この作業が行われる間にも、作品を購入した来訪者と会員の間で写真談義が交わされることもあり、会員自らが会場に出向くことのアドバンテージが活かされた恰好となっている。会話の相手が誰であっても、そしてそれがどのように短いものであっても、それぞれが写真について語りあうことは、必ずやフォトグラファーにとって、次の創作活動につながる糧となるはずだ。このような機会が生まれることも、写真展を開催することの大きな意義があるに違いない。

そして、来訪者の中には、1度に数点の作品を購入する人もおり、これも作品のクオリティーの高さゆえであるに違いない。銀座という場所がらもあってのことか、会場には常に来訪者がいることも心強いものとなつた。

(構成／出版広報委員：池口英司、
撮影／池口英司、山口勝廣)

●平成30年7月豪雨被災者支援「チャリティー写真展」報告

写真展準備期間中にも、9月4日に台風21号の直撃による猛烈な風雨と記録的な高潮により、関空滑走路の水没、避難停泊中のタンカーが関空島連絡橋に衝突、3000人が孤立状態に。また、9月6日には北海道胆振東部を震源とする震度7の地震が発生、広範囲にわたって多数の犠牲者と甚大な被害が出るなど、従来とはけた違ひの豪雨被害が相次ぎ息をのむ惨状が続いた。

会期中9月30日には台風24号が関東に接近、首都圏のJR各線は午後8時ですべて運休となるなど、街から人の姿が消え、深夜には暴風雨が吹き荒れた。

翌10月1日天候は回復したものの前日の台風の影響か、会場を訪れる人は極端に少なく、2日午後3時、予定通り「7月豪雨チャリティー展」を終了した。

今回のチャリティー展ではいくつかの課題や反省点が抽出された。急遽の委員会構成、その発足時期の見極めや人員の確保、経費捻出、会場確保や条件等、被災支援とはいえ、善意だけでは安易にスタートできない活動である。

作品出品いただいた皆様と合わせ、実行委員の特段の努力と献身的協力がなければ、なしえなかつた支援活動であった。

ご協力いただいたすべての皆様に心から厚く御礼申し上げます。

(記／山口勝廣)

会期：2018年9月26日(水)～10月2日(火)7日間

時間：10:00～19:00(最終日15:00まで)

会場：FMエキシビションサロン銀座

出品作家：147名 出品点数：382点

販売価格：10,000円～50,000円(額表代含む)

販売方法：お買い上げ作品をその場でお持ち帰り

販売：124点 販売金額：1,880,000円

経費：738,901円(会場代、額表代、通信費他)

会場の募金：15,027円

寄付金額：1,156,126円(会場の募金を含む)

寄付：日本赤十字社

実行委員会委員：山口勝廣(委員長)、足立寛、安藤豊、飯塚明夫、池上直哉、内堀タケシ、大屋徳亮、小川泰祐、小野吉彦、加藤雅昭、木村正博、小池汪、小林みのる、小松好雄、佐藤昭一、高村達、中津川隆康、平塚音四郎、藤田修平、松倉広治、宮沢あきら、山縣勉、山口規子、吉岡一紀、和田直樹、渡部晋也

平成 30 年度「報道写真論」講座報告

主催：専修大学、公益社団法人日本写真家協会

平成 23 年度から始まった専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での「報道写真論」の講義に、30 年度は公文健太郎と竹沢うるまの両氏に講師をお願いした。

専修大学のジャーナリズム学科開設趣旨は「学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうこと」を方針としている。この講座には平成 23 年度は桑原史成氏、24 年度は長倉洋海、英伸三各氏、25 年度は宮嶋茂樹、樋口健二各氏、26 年度は大石芳野、山本皓一各氏、27 年度は清水哲朗、石川文洋各氏、28 年度は桃井和馬、石川梵の各氏、29 年度は宇井真紀子、広河隆一両氏を派遣し講義を行った。

専修大学のジャーナリズム学科開設趣旨は、学生たちの真実を見抜く 30 年度の講義内容のレポートを報告する。会場は川崎市多摩区の専修大学生田キャンパス。

●公文健太郎

平成 30 年 4 月 10 日～5 月 29 日(7 回)

「報道写真論」というタイトルの授業において、僕が講義をさせていただく意味を考えました。それは僕自身が普段、報道という言葉をそう意識せずに写真活動を行っているからです。特に報道メディアなどへの就職希望者が多いクラスと聞いていましたので、役に立つことができるのかと自問しました。その結論として授業の中で「写真を通して社会と関わること」「写真が自分に関わっているということ」を見直し、その面白さを感じてもらうことを目的に据えました。

まずははじめに行ったのは、隣人のことを知り、それを人に伝えてみるというワークショップです。当たり前なのかもしれません、同じ教室の中には、関わったことのない人がたくさんいました。無作為につくったペアでお互いをインタビューし、相手のことを聞き出す。聞いたことを自分なりにまとめ、全員の前で発表する。ゴールはクラス全員がインタビュー相手のことを印象深く知ることです。ありきたりの質問ではなく、その人の個性を魅力的に、強烈に伝えることができる質問をするコツや、それをどう構成して発表すれば聴く人たちに伝わるかを皆で考えました。技術的なことはもちろんですが、同じ教室にいるのに、知らない人がいるの



キャンパスで講義中の公文健太郎氏



はもったいなかったという感想は嬉しいものでした。写真を撮る、社会に関わるということはこれがスタートだと思います。どんな土地の人でも、どんな職業の人でも、まずは興味を持ってその人のストーリーを引き出すことでつながりが生まれ、学ぶことができるからです。

写真だからこそできる表現の面白さも体感してもらいました。自然光を使い、光の方向を変えるだけで被写体の見え方が大きく変わること。人工的にライトを使い演出すること。35mm 判と中判、一眼レフとミラーレス、携帯電話のカメラといった機材のフォーマットを変えることで、写真を撮る人間がどう変わり、表現が違

公文 健太郎(くもん・けんたろう)

1981 年生まれ。写真家。学生時代にネパールを訪ねたことをきっかけに写真をはじめる。自由学園卒業後本橋成一氏に師事。ルポルタージュ、ポートレートを中心に雑誌、書籍、広告で幅広く活動。同時に国内外で「人の営みがつくる風景」をテーマに作品を制作。近年は日本全国の農風景を撮影し『耕す人』と題して写真展・写真集にて発表。2012 年『ゴマの洋品店』で日本写真協会新人賞受賞。写真集に『大地の花』『BANEPA』『耕す人』、写真絵本に『だいすきなもの』、フォトエッセイに『ゴマの洋品店』などがある。

ってくるか。簡単にではありましたが、体験してもらうことでより深く知りたいという人が出てきたり、たとえ携帯電話で写真を撮るとしても少し考えてシャッターを切るようになると良いなと思いました。

一番学生が興味を持ったように見えたのは、画像の修正加工の話でした。身の回りにある写真にはこういう後処理が施されている可能性がある。加工は悪なのではなく、目的とモラルが大事であるという話をしました。報道のジャンルにいみると加工修正はご法度のように感じていたようですが、そもそも写真を撮って2次元に焼き付けること自体がディフォルメされている、というのも知っておくことで写真に囲まれた世の中の見え方が変わるのでないかと思いました。

写真と関わらずには生きていけないこの時代。写真の持つ可能性や危険性をすこしだけ意識しつつ、社会に関わることの価値と面白さを感じてもらえる授業になっていたら嬉しいです。

●竹沢うるま

平成30年6月12日～7月24日(7回)

専修大学文学部ジャーナリズム学科にて「報道写真論」の講義を全7回で受け持った。報道写真論の前に勝手に「私的」という言葉をつけ、私的報道写真論として講義を進めていった。

現在、カメラ機能が搭載されたスマートフォンの普及、SNSなどの個人媒体と呼ぶべきメディアの普及で、誰しもが私的に報道できる時代になっている。それは客観的な事実の報道でもあり、主観的な世界の報道でもある。それらの私的報道が現在、世界には溢れかえっており、そのなかで自身を発信するということはどういうことなのか、ということを7回に分けて話した。

講義の軸になったのは私が2010年から2012年にかけて世界各地103カ国を巡ったときの旅の話。毎回、写真を多く紹介し、あまり堅苦しくならないように、学生たちに興味を持ってもらえるように旅のエピソードを話し、そこから写真論へと展開した。

第一回目は南米の国々を巡った旅の話をし、「風景と私の関係性」というテーマを軸とした。第二回目はアフリカ大陸の国々



キャンパスで講義中の竹沢うるま氏



を巡った旅の話をして「他者と私の関係性」。第三回目はユーラシア大陸の国々を巡った旅の話を中心に「旅と私の関係性」を展開した。いずれの回も「私」という存在と外界との関係性の見出し方、もしくは表現における「私」の重要性を伝えた。

第四回目はチベット文化圏における「祈り」について話し、目に見えるものと目に見えないもの、物質社会と精神社会、その比較の中から、目に見えるものを捉えながら目に見えないものを表現しようとする写真の考え方をテーマとした。

第五回目はゲストスピーカーとして、ジャーナリズムの世界で活躍する写真家の渋谷敦志さんにお越しいただき、私では伝えることのできない経験的な報道写真論を展開してもらうことにより、講義内容に幅を持たせた。

学生たちには毎回、リアクションペーパーを講義の終わりに提出してもらい、それによって成績の評価を行った。学生たちは講義中は反応に鈍く、あまり興味を持っていないのかと思ったが、毎回どの学生もリアクションペーパーにきちんとした自身の言葉で考えや思いを綴っており、しっかりと伝わっているのだという実感を得た。

学生たちにとって勉学としてはあまり役にはたたなかつかもしれないが、それでも同時進行する世界の多様な価値観や文化を写真を通じて知り、少しでも世界の広さを感じる機会となったのであれば、この講義における目的は達成されたのだと考えている。

(写真提供／専修大学、構成／小池良幸)

竹沢 うるま(たけざわ・うるま)

1977年生まれ。同志社大学法学部法律学科卒業。在学中、アメリカに一年滞在し、モノクロの現像所でアルバイトをしながら独学で写真を学ぶ。帰国後、ダイビング雑誌のスタッフフォトグラファーとして水中撮影を専門とし、2004年よりフリーランスとなり、写真家としての活動を本格的に開始。2010年～2012年にかけて、1021日103カ国を巡る旅を敢行し、写真集『Walkabout』と対になる旅行記『The Songlines』を発表。2014年には第三回日経ナショナルジオグラフィック写真賞受賞。近著にチベット文化圏をテーマとした写真集『Kor La』(小学館)や『旅情熱帶夜』(実業之日本社)がある。

平成 29 年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告

写真の楽しさ、面白さを伝える

-協力：富士フィルムイメージングシステムズ株-

平成 17(2005)年より、毎年レンズ付きフィルムカメラによる小学生を対象とした「写真学習プログラム」を、小学校 35 クラスで実施している。

デジタルカメラは勿論のこと携帯電話の普及によって手軽に写真が撮れ、インターネットでの情報提供のツールとして写真が活用されているのが現状である。写真の原点ともいえるフィルムによる写真撮影が大幅に減少するなか、あえてフィルムを使っての「写真学習プログラム」は、単に写ったという喜びだけでなく、児童だからこそ必要とされている「事物の観察、物事を注意深く見る、凝視することの大切さ」を写真を通じて会得し体験してもらうことに意義を見いだしている。このことは写真という優れた記録媒体を使っての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。

「写真学習プログラム」は、協会の教育事業として 13 年間に延べ 641 人の会員による指導で、22,588 人の児童に、「写真学習プログラム」の授業を実施して、「写真への興味を喚起すること」を体験してもらっている。

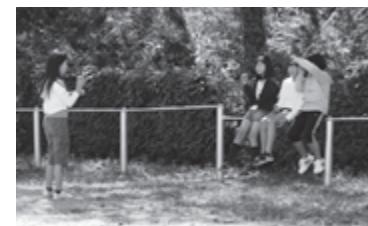
また、多くの方々にこの児童たちの作品を見ていただこうと、「写真学習プログラム」参加児童の作品を特別企画「PHOTO IS 小学生の眼」として、富士フィルム(株)・富士フィルムイメージングシステムズ(株)が主催する「PHOTO IS」想いをつなぐ「50,000 人の写真展」で展示している。写真愛好家や一般客からは、展示された小学生の作品をみて、素直で力強い感性だと驚きの声が寄せられていた。



【2017 年 4 月～2018 年 3 月実施分】

No.	実施校	県名
1	江田島市立大古小学校	広島県
2	三原市立大和小学校	広島県
3	八頭町立郡家東小学校 1 組	鳥取県
4	八頭町立郡家東小学校 2 組	鳥取県
5	横浜市立池上小学校 1 組	神奈川県
6	横浜市立池上小学校 2 組	神奈川県
7	大子町立依上小学校	茨城県
8	多賀城市立多賀城八幡小学校 1 組	宮城県
9	多賀城市立多賀城八幡小学校 2 組	宮城県
10	那須町立那須高原小学校	栃木県
11	勝浦市立郁文小学校	千葉県
12	対馬市立豊小学校	長崎県
13	吉野川市立上浦小学校	徳島県
14	新座市立栄小学校 1 組	埼玉県
15	新座市立栄小学校 2 組	埼玉県
16	みやま市立二川小学校	福岡県
17	新座市立八石小学校 1 組	埼玉県
18	新座市立八石小学校 2 組	埼玉県

No.	実施校	県名
19	福山市立戸手小学校 1 組	広島県
20	福山市立戸手小学校 2 組	広島県
21	大川市立大野島小学校 5 年生	福岡県
22	大川市立大野島小学校 6 年生	福岡県
23	新潟市立江南小学校 1 組	新潟県
24	新潟市立江南小学校 2 組	新潟県
25	那須塩原市立青木小学校	栃木県
26	阿智村立阿智第二小学校 4 年生	長野県
27	阿智村立阿智第二小学校 5 年生	長野県
28	成蹊小学校北・南組	東京都
29	成蹊小学校東・西組	東京都
30	庄原市立比和小学校	広島県
31	青梅市立第三小学校 1 組	東京都
32	青梅市立第三小学校 2 組	東京都
33	青梅市立第三小学校 3 組	東京都
34	世田谷区立池之上小学校 1 組	東京都
35	世田谷区立池之上小学校 2 組	東京都



【平成 29 年度実施校児童の作品から】



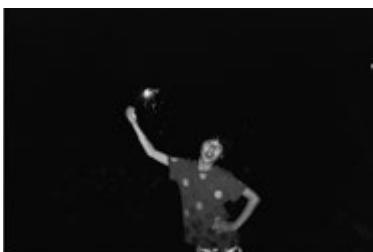
江田島市立大古小学校生の作品



三原市立大和小学校生の作品



八頭町立郡家東小学校生の作品



横浜市立池上小学校生の作品



大子町立依上小学校生の作品



多賀城市立多賀城八幡小学校生の作品



那須町立那須高原小学校生の作品



勝浦市立郁文小学校生の作品



吉野川市立上浦小学校生の作品



新座市立栄小学校生の作品



新潟市立江南小学校生の作品



那須塩原市立青木小学校生の作品



阿智村立阿智第二小学校生の作品



成蹊小学校生の作品



庄原市立比和小学校生の作品

平成 30 年度高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」

写真力を伝える、極める

–協力：(株)ニコンイメージングジャパン、エプソン販売(株)–

全国高等学校文化連盟写真部と共に平成 30 年度第 12 回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」を、6 月 17 日高知、7 月 21 日富山で開催した。実施に当たってはエプソン販売(株)と(株)ニコンイメージングジャパンの協力で行った。

いま、写真撮影の多くはデジタルカメラの時代。デジタルフォトをどう制作するかという点を技術面も含めて指導することが必要で、顧問の先生方もこの流れに遅れまいとカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を習得しようと約 7 時間の講習を熱心に体験された。

1回目：平成 30 年 6 月 17 日(日)

会 場：高知県高知市 国民宿舎桂浜荘

講 師：山口勝廣、和田直樹

補 助：小倉隆人、高橋正徳

坂本龍馬像が立つ高知市の桂浜にある国民宿舎桂浜荘で開かれたデジタル写真講座には、高知県内の高校の教員約 20 人が参加した。山下順生・高知県高文連写真専門部理事の挨拶に続き、講師を担当する JPS の山口専務理事、和田常務理事、補助役の JPS 小倉隆人と高橋正徳両会員がそれぞれ挨拶をした後、さっそく座学が始まった。

まず冒頭で、この日の参加者に用意されていたニコン D750 について、ニコンイメージングジャパンの畠和宏氏が基本的な使い方や設定方法などについて説明。デジタル一眼レフをオートプログラム以外で使ったことのない教員も数人いたことから、講師や補助も教員たちの間を回りながら、丁寧に説明していった。

その後、観光名所の桂浜に徒歩で移動。この日は、梅雨の合間に強い日差しが照りつける晴天となり、真夏のような暑さの中、水分補給をしながら撮影実習に挑んだ。高校生モデル 2 人を被写体に、上級者グループを山口専務理事が担当、初心者グループを和田常務理事が担当した。各講師は、モデルのポーズの付け方や生きた表情の引き出し方、レフ板の使い方、光の位置、露出などについて丁寧に教員たちに伝えていた。

昼食後は、ニコンイメージングジャパンの畠氏が撮



強い日差しの中、桂浜にてモデル撮影(高知会場)

影後の処理講座を開き、パソコンソフトの使い方などを解説。その後、エプソン販売の池田達也氏が、A3 ノビ対応プリンター SC-PX5V II を使ってプリント方法を説明。各教員は、この日撮った写真の中から自信の作品をセレクトして、プリントしていった。

高知県では、平成 32 年度に「蒼海の知 緑樹の感 陽光の志 いま、南国土佐に集うとき」をテーマに「第 44 回全国高等学校総合文化祭高知大会」が開かれるところから、写真専門部で生徒たちを指導する教員たちは、最後まで熱心に耳を傾けていた。

当日配布したアンケートを集計すると、「デジタル一眼レフカメラで撮影体験されて如何でしたか?」という質問では、「撮影会が楽しかった」「基本の見方がよくわかつてよかったです」といった好意的な感想が多かったものの、「思ったより難しい」と答えた教員が半数以上にのぼり、初心者にわかりやすく伝えることの難しさが浮き彫りになった。

主だった感想としては、「D750 が使いやすかった」「フルサイズの高精細な絵に驚いた」「プリンターが非常によかったです」といった機種に対する好評価のほか、「試行錯誤できてよかったです」「講師の方々が丁寧」「写真のおもしろさがよくわかった」といった講座に対する好意的な感想、また「ポートレート以外の撮り方も知りたい」「分からぬ言葉が多かった」「プリントだけの講座がほしい」といった要望や意見もあった。

(記／高橋正徳、撮影／小倉隆人)



パソコンを操作して作品のセレクトとプリント作業(高知会場)



作品1枚1枚に講評を実施(高知会場)

2回目：平成30年7月21日(土)

会 場：富山県高岡市 高岡第一高等学校

講 師：松本徳彦、小池良幸

補 助：青山清寛、安念余志子

高岡市内の高岡第一高等学校で開催された「デジタル写真講座」は、気温が34～35度という猛暑の中で行われ、21日午後4時頃には高岡市内を走る路面電車アイトラムが、連日の暑さでレールが膨張し脱線するという事故が起きニュースとなった程であった。

当日は富山県内高校の教諭18名が参加、高岡第一高校・梅木宏真先生の挨拶に続き、JPSから講師と補助役の会員、機材メーカーの担当者が紹介され、当日のスケジュール説明と座学がスタートした。

参加者に手渡された使用カメラは、ニコンD750に24～85mm標準ズームが付く。まず始めに、ニコンイメージングジャパンの畠和宏氏が基本的な使い方や設定方法などについて説明、普段はコンデジ使用の参加者もいてカメラの設定を熱心に確認していた。

撮影実習は、車で5分ほどの市内金屋町に移動して行った。参加者の多くが自家用車での来場であったため数台の車に分乗して移動。風情のある町並みや铸物工場跡を散策、女子高校生モデル1名によるポートレート撮影の実習を铸物工場の廃屋の中で行うなど、猛暑の日中の撮影に神経を使いながら、短時間で撮影を終わらせるよう配慮された。

当日は猛暑で外での撮影はどうなることかと心配でした



铸物工場が残る金屋町の街並みで撮影(富山会場)

が、無事終了することができた。高岡の金屋町は撮影の場所としては被写体がたくさんあり、面白い場所であった。猛暑でなければ、もう少しゆっくりと撮影できたらよかったかなと思う。

お手伝いさせていただいたことはまず、私立の高校の先生は異動も少なく継続して顧問をしていらっしゃるのでベテランの先生が多いのと対照的に公立の高校の先生は学校間の異動もあり、顧問といえども必ずしも写真が得意としていらっしゃる先生ばかりではないので、写真の基礎の部分でまだまだ不確かな部分があるように見受けられた。短時間ではとても無理だと思うが、正直言ってこの状態で生徒にどう指導されているのか不安を感じた。しかし、写真の基礎などはあまりわからないままでも、さすが多分絵的感性のすぐれた先生が携わっておられるからか、出来上がった作品はまづまづのものが多く感心した。

今後JPSとしての地域へのかかわりをもう少し考えていく必要があるように思い、各カメラメーカーを集めてのミニ展示会やセミナーなどもあれば、実際カメラを手にすることがなかなかできない地方においても写真人口の活性化ができるのではないかと思う。

最後にお世話いただいた高岡第一高校梅木先生、高文連事務局相野先生、機材提供のニコンイメージングジャパン、エプソン販売の皆様、指導と講演をしていただいた講師の方々に感謝申し上げる。

(記／安念余志子、撮影／小池良幸)



ニコン畠氏によるカメラ操作の説明を熱心に聞く受講者(富山会場)



松本副会長による「撮影のルールとマナー」講話をを行う(富山会場)

ケンコー・トキナー

メガネ式ルーペ 「YUI(ユイ)ルーペ」

手元のものを見るとき、両手をふさがずメガネのようなスタイルでかけるルーペです。撮影に関するシーンでは、例えば取扱説明書を見るとときや、カメラの背面液晶でライブビューを確認するときや、メニュー設定のときなど、手元がハッキリ見えるとありがたい・・・といったケースがあります。

ケンコー・トキナーは、メガネレンズ専門メーカーであり、国内シェアナンバーワンを誇る「東海光学株式会社」とタッグを組み開発。

眼鏡を知り尽くしたメーカーと共同開発したレンズを使用し、見やすく快適にご使用いただけます。

YUI ルーペの特長として、レンズが脱着式であることが挙げられます。1.6倍レンズのルーペと1.6倍ルーペに1.89倍の交換レンズがセットとした製品があり、倍率を変えて使うことができます。

視野が広く、眼鏡の上からかけることも可能。ブルーライトもカットします。

ケンコーの YUI ルーペは、1.6倍のものが 8,510円、1.6倍に1.89倍の交換レンズセットが 10,670円（ケンコー・トキナー中野サービスショップ価格）。

ぜひ、写真撮影や日常生活にご活用ください。

株式会社ケンコー・トキナー

【製品に関するお問合せ先】

広報・宣伝課 田原 栄一

TEL : 03-6840-2970

FAX : 03-6840-2962

メール : etahara@kenko-tokina.co.jp

<http://www.kenko-tokina.co.jp/>



ニコンイメージング ジャパン

新次元の光学性能を追求した「ニコン Z マウントシステム」誕生 フルサイズミラーレスカメラ「ニコン Z7」「ニコン Z6」を発売

株式会社ニコンの子会社、株式会社ニコンイメージングジャパンは、大口径の新マウントを採用したフルサイズ（ニコンFXフォーマット）ミラーレスカメラ「ニコン Z7」とNIKKOR Z レンズを9月28日に、「ニコン Z6」を11月下旬に発売します。



「Z7」「Z6」は、像面位相差AF 画素搭載の新開発裏面照射型ニコンFXフォーマットCMOSセンサーと、新画像処理エンジン「EXPPEED 6」を搭載しています。

「Z7」は、有効画素数4575万画素という高画素と、常用感度ISO 64～25600を達成したモデルです。NIKKOR Z レンズとの組み合わせで、画像の周辺部まで圧倒的な高解像感を実現します。「Z6」は、有効画素数2450万画素、ISO 100～51200の幅広い常用感度域を実現したオールラウンドモデルです。優れた高感度性能や全画素読み出しのフルフレーム4K UHD動画対応により、暗所での撮影や動画撮影などさまざまなニーズに応えます。

NIKKOR Z レンズの詳細については、以下のURLをご覧ください。

URL : http://www.nikon.co.jp/news/2018/0823_nikkor-z_02.htm

株式会社ニコンイメージングジャパン

【製品に関するお問合せ先】

ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル

TEL : 0570-02-8000

<http://www.nikon-image.com>

ヴァイテック イメージング

社名が変わりました

2018年4月より、マンフロット株式会社からヴァイテックイメージング株式会社に、社名変更いたしました。

取扱ブランドも従来の Manfrotto、Gitzo、Lastolite、Avenger、National Geographicに、Lowepro、JOBY が加わりました。

製品群も、三脚一脚、雲台、スタジオ用品、ライティング機材、カメラバッグ、レンズフィルターと写真・動画機材アクセサリーを拡充中です。

バーツ修理のお問合せ :

<https://www.manfrotto.jp/>

上記 URL より一番下のサービス&修理をクリックして確認ができます。また、品番からバーツ検索可能になっています。

動画の依頼が増えてきた、動画を始めたい等のご相談等は、カスタマーサービスにお願いします。

TEL : 03-5404-6871

（月～金 10:00～17:00）

メール : info@manfrotto.jp

「JPS会員」とお伝え下さい。カタログ送付も受け付けております。



光村印刷

日本写真保存センター写真展

「後世に遺したい写真」-写真が物語る日本の原風景-

日本写真保存センターでは、先人が遺した写真原板から、大正、昭和の大衆文化、戦争への足音、空襲、被爆から敗戦と過酷な体験を経て、復興、経済発展へと歩んできた、日本人の歴史を約100点の写真で振り返ります。ご遺族や、写真家ご本人から寄贈を受けた写真原板が、再び印画紙に焼き付けられて甦りました。

さらに、今回は品川区ゆかりの写真家笹本恒子、若田幸平、諸河久をはじめ、品川歴史館所蔵の中村立行作品の展示もいたします。わが国の文化財の記録、日本人の暮らしの記録を、貴重な写真でぜひご覧ください。

*光村印刷は、日本写真保存センターの活動と写真展の趣旨に賛同し、本展を共催いたします。

[展覧会概要]

会期:2018年10月25日(木)~11月24日(土)

(日曜日休館)

開館時間:11:00~19:00(祝日・土曜日は17:00まで)

会場:光村グラフィック・ギャラリー(MGG)
東京都品川区大崎1-15-9

入場料:無料

主催:公益社団法人日本写真家協会・日本写真保存センター

共催:光村印刷株式会社

後援:品川区、公益財団法人品川文化振興事業団

協力:一般社団法人日本写真著作権協会



原節子 撮影:名取洋之助、昭和11年

光村印刷株式会社

問い合わせ先担当:両角・和田

TEL:03-3492-1181(光村印刷代表)

FAX:03-3492-4990

<http://www.mitsumura.co.jp/>

キヤノンマーケティングジャパン

光学の可能性を広げる新イメージングシステム“EOS R システム”が誕生
カメラ・レンズで構成する「EOS システム」がさらに拡大

キヤノンは、レンズ設計の自由度を高め、光学の可能性を広げる、カメラ・レンズで構成する新たなイメージングシステム“EOS R システム”を立ち上げます。キヤノンマーケティングジャパンは、ミラーレスカメラ“EOS R”と、

“RF レンズ”4 機種、マウントアダプター 4 種を10月25日より順次発売します。



“EOS R システム”は新たに開発した“RF マウント”を採用し、レンズ設計の自由度を高める大きなマウント径とショートバックフォーカス、レンズとカメラボディー間の新マウント通信システムでさらなる高画質化と利便性の向上を実現しています。

ボディーは、新マウントの特長を生かすため、ミラーレス方式を採用。撮像面位相差オートフォーカス技術「デュアルピクセル CMOS AF」をはじめ、電子ビューファインダー (EVF) を生かした新システムならではの撮影機能を搭載しています。専用のマウントアダプターで、従来の豊富な「EF レンズ」や「EF-S レンズ」が使用できるため、レンズ資産を生かすことができます。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

【製品に関するお問い合わせ先】

キヤノンお客様相談センター

TEL:050-555-90002

<https://canon.jp>

カールツァイス

新賛助会員のご挨拶

ドイツ東部にある古くからの大学町イエナで顕微鏡職人カール・ツァイスが1846年に設立した工房がカールツァイス社の始まりです。

今日では顕微鏡に加え、カメラレンズ、双眼鏡、眼鏡レンズ、手術用顕微鏡を中心とする医療機器、工業用測定器等を製造しています。カールツァイスの歴史は光学技術革新の歴史といつても過言ではありません。

ZEISS の写真部門は100年以上の長い歴史があり、ZEISS のカメラレンズはデジタル全盛の現在に至るまで優れた描写性能(色再現性や立体性)で世界をリードしてきました。1969年7月20日、アメリカの有人宇宙飛行船「アポロ11号」が人類初の月面着陸に成功したとき、二人の宇宙飛行士の胸にはハッセルブラッドのカメラにカールツァイスのレンズがセットされており、2時間にわたる月面探査の様子

が詳しく記録されました。その後 NASA によって公開された画像はあまりにも有名です。

現在では比類なき高性能レンズ群であるSLR 用の Otus, Milvus, Classic およびレンジファインダーカメラ用 ZM レンズシリーズ、ミラーレスカメラ用 Batis, Loxia, Touit レンズシリーズをラインナップしており、これらのレンズは妥協を許さない品質と性能により世界中の写真家から熱烈な支持を獲得しています。

カールツァイス株式会社は、ドイツに本社を置くこのカールツァイス社の100% 子会社である日本法人であり、コンシューマー＆プロフェッショナルディビジョンは、上記の写真用レンズに加え、映画や CM 等で使用されるシネレンズ、双眼鏡や単眼鏡、ライフルスコープ等の製品を取り扱いさせていただいております。

2018年7月より賛助会員としてJPSに入会させていただき、賛助会員の活動を通じて、日本写真家協会の発展に寄与すべく力を尽くしてまいりますので会員の皆様のご支援ならびにご指導をよろしくお願い致します。



カールツァイス株式会社

【製品に関するお問い合わせ先】

カメラレンズディパートメント

TEL:03-3355-0334

FAX:03-3359-6760

メール:info.lenses.jp@zeiss.com

<http://www.zeiss.co.jp/photo>

※(構成 / 出版広報委員:川上卓也)

「賛助会員トピックス」への寄稿ご案内

賛助会員の皆様には、会報に「賛助会員のページ」を設け、トピックスやお知らせなどの記事を掲載しています。貴社のトピックスやお知らせなどがございましたら、紙面の都合上あまり多くの文字数はとれませんが、貴社のニュース並びにお知らせなどをご寄稿下さいますようご案内申し上げます。

2018年第14回「名取洋之助写真賞」決まる

公益社団法人日本写真家協会は、新進写真家の発掘と活動を奨励するために、主としてドキュメンタリー分野で活躍している35歳までの写真家を対象とした「名取洋之助写真賞」の第14回選考審査会を、過日、飯沢耕太郎(写真評論家)、広河隆一(フォトジャーナリスト)、熊切圭介(写真家)の3氏によって行いました。応募者はプロ写真家から大学在学中の学生までの29名29作品。男性23人、女性6人。カラー18作品、モノクロ6作品、混合5作品で、1組30枚の組写真を厳正に審査し、最終協議の結果「名取洋之助写真賞」に鈴木雄介「The Costs of War」と「名取洋之助写真賞奨励賞」にやどかりみさお「夜明け前」の受賞が決まりました。

○二次審査通過者

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 中条 望 | 「GENEVA ~忘れられた人々~」 |
| やどかりみさお | 「夜明け前」 |
| Takumi Wada | 「Devil's Gold ~黄金に魅せられた者たち」 |
| 鈴木 雄介 | 「The Costs of War」 |

○最終審査通過者

- | | |
|---------|--------------------|
| 鈴木 雄介 | 「The Costs of War」 |
| やどかりみさお | 「夜明け前」 |



審査会の様子。写真左から飯沢耕太郎、熊切圭介、広河隆一の各氏

■ 2018年第14回「名取洋之助写真賞」受賞



鈴木 雄介 (すずき・ゆうすけ) 1984年 千葉県生まれ。34歳。

- | | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2011年 | New England School of Photography 卒業。
同年よりボストン地元紙やロイター通信でフリーランスとして活動したのちニューヨークに拠点を移す。
ハーバード大学主催 Pluralism Project Photo Contest 大賞。 |
| 2013年 | WPGA Annual Pollux Awards ドキュメンタリー部門1位。 |
| 2014年 | ボストン報道写真家協会カレッジコンテスト ピクチャーストーリー部門1位。
エディ・アダムスワーカショップに選出される。 |
| 2015年 | 7th Pollux Awards ドキュメンタリー部門1位。 |
| 2016年 | Professional Photographers of the year of the Pollux Awards 受賞。
ベルリンフォトビエンナーレ 新人賞受賞。ニューヨーク在住。 |

受賞作品 「The Costs of War」(カラー・モノクロ 30枚)

作品について 「本当に戦争を無くしたいのであれば、もっと戦争に向き合わなければいけない」と思い、「戦争」を主軸に撮影をしている。今のこの歪な世界の源は戦争にあると思っている。現代の戦争とはどんなものか、戦争が何を生み出し、私たち人間や世界にどう影響しているか。ビジュアル化して伝えた作品。

受賞者のことば 名取洋之助写真賞を頂く事ができ光栄です。私の写真が、世界で起きている戦争やそれに起因する諸問題に対して興味を持つきっかけとなり、ここに写っているような人々の境遇が少しでも変わればと思います。我々日本人が平和を求め、世界や後世に伝えていきたいならば、今まさに起きている戦争とも向き合い、学び直す必要があると思います。見て、感じて、心を寄せる。それが何かを変えるきっかけになると信じています。

■ 2018年第14回「名取洋之助写真賞奨励賞」受賞



やどかりみさお (やどかり・みさお) 1983年 東京都生まれ。35歳。

- | | |
|-------|--------------------------------------------------------|
| 2007年 | 千葉大学教育学部養護教諭養成課程卒業。
同年より公立小学校の養護教諭として勤務。 |
| 2011年 | 写真家古賀絵里子に師事。 |
| 2015年 | フリーランスの写真家として活動を開始。
ポートレイトスタジオ Fish Photo 所属。東京都在住。 |

受賞作品 「夜明け前」(カラー 30枚)

作品について 妹が双極性障害で入院した。作者も同じ病をかかえていた。躁と鬱。同じところを繰り返しているかのように見える病だ。しかし、螺旋階段を登っているかのように、少しずつ、今いる場所は変わっている。妹の心は、まだ暗闇の中だが、「夜明け前」であるだけだ。写真を撮ることで彼女が前進していることを可視化しようと思った。自身の夜明けをも見つめた作品。

受賞者のことば 素晴らしい賞を頂けたのは、妹をはじめ、今まで私に写真を撮らせてくださった全ての方々のおかげです。妹が双極性障害を発症してから、妹と、かつての自分を見守りながら、シャッターを切っていました。写真を通して、繰り返しと思える絶望の日々の中にも、夜明けに向かって流れる時間を感じることができました。今回の受賞で、その時間が報われた思いです。それぞれに苦しむ方のところに、この作品を届けたいです。発表の場を頂けたことに感謝致します。

2018年 第14回「名取洋之助写真賞」総評

熊切 圭介(写真家・公益社団法人日本写真家協会会長)

今回の名取賞には、男性と女性合わせて29名の応募があり、現在の世界情勢や社会の動きに強い関心を持っている人が大勢いることを示している。名取賞の鈴木雄介さん「The Costs of War」は社会の動きや人間模様中で、世界各地の政治活動が複雑にからみ合い、混乱した姿を見せる中で、戦争とは何か、何が原因で戦争が起きるのかなどをリアリティーある取材活動を積極的に行い、同時に細やかな眼差しで世界各地の社会や政治の動きを追って、戦争の実態を撮っている。作者は21歳の時にアフガニスタンで初めて体験した戦争に大きな影響を受け、改めて戦争と平和について深く考えるようになったという。その後、戦争の実態をより深く知るため、シリア、イラク、ギリシャ、アメリカ、ヨルダンなどの各地を経て、それまで想像していた戦争とは異なるリアルな体験をし、改めて戦争と平和について、伝えようとしている。

現在、世界が抱いている厳しい姿をリアルに描いている名取賞に対して、奨励賞のやどかりみさおさん「夜明け前」は、人間の生き方について身近な妹の姿を通して、深い眼差しで捉えたヒューマンドキュメントで、極めてプライベートな世界に目を向けている。テーマ、内容とも重い作品で、真摯に作品と向き合うことになる。妹の心は未だ暗闇の中に居るが、少しづつ夜明けに近づいているのを、シャッターを切りながら感じたようだ。

飯沢 耕太郎(写真評論家)

今年の名取洋之助写真賞は、応募点数はそれほど多くなかったが、充実した内容だった。

特に名取賞を受賞した鈴木雄介さんの作品「The Costs of War」のクオリティーの高さは特筆すべきもので、満場一致で選出されたのも当然といえるだろう。アメリカ・ニューヨーク在住で、既にフォト・ジャーナリストとして数々の賞を受賞している彼の写真のあり方は、プロフェッショナルとしての意識の高さと相まって、他の応募者たちとはひと味違うものだった。「戦争」という非日常的な状況が、むしろ世界中で日常化しているという現実を直視する視点も搖るぎない



ものがあり、今後の活躍がさらに期待される。

奨励賞を受賞したやどかりみさおさんの作品「夜明け前」は、鈴木さんとはまた違った意味で印象に残るものだった。近親者(妹)の精神的な疾患を受けとめ、見守りつつ撮影された写真群には、距離感の近さと切実さで見る者の心を揺さぶる力が備わっている。比較的明るいトーンで全体をまとめたのも、とてもよかったと思う。やどかりさんも、ぜひ自分なりのドキュメンタリー写真の方向性を切り拓いていってほしい。

今回は他にもいい作品がいくつかあった。次回もさらなる力作、意欲作を期待したい。

広河 隆一(フォトジャーナリスト)

ジャーナリズムの作品は、うまい、へたを超える、より深く大きな視点でしか評価できないが、撮影対象の輪郭もわからないまま、撮りましたと応募してくれる人もいる。迷いは当然あると思う。名取洋之助賞の応募者には、これまで恐る恐る応募してきた人が多かった。しかし漠然とそう感じているままシャッターを切るなら、心象記録として日記に落ち葉を貼り付けるようなものだ。それはジャーナリズムでもないし、ドキュメンタリー作品でもない。



ところが今回の受賞作品である鈴木雄介さんの作品「The Costs of War」は、一段と深く、そして激しく、この世界を伝えてくれるという意味で、優れた作品だ。被災者の側から記録するこの作品こそフォトジャーナリズムの王道の仕事であり、今後の名取賞応募者にとつても、大切な目標ができたことをうれしく思う。

やどかりさんの作品「夜明け前」は、現在の日本が直面している深く重い問題をとらえている。妹さんを撮ったものだが、明るい色調で、希望を写し取りたいというポジティブなまなざしさえ感じる。躁鬱病として知られていた病気に、撮影者である姉がなり、そして妹が同じ病気になったとき、記録することで苦しみと希望のなか、光に向かって歩みだそうとした。写真に新しく大切な意味合いを与え、それを糧に2人は息をのむような、いのちの世界で光を見ようとしている。この背景には、鬱屈とした出口がないように見える今の日本がある。撮影者と被写体の2人を心から応援したい。

「名取洋之助写真賞」について

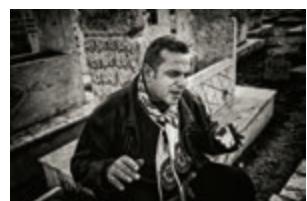
公益社団法人日本写真家協会(JPS)は、社会に貢献する事業として「JPS展」や「日本写真家協会賞」の表彰並びに顕彰を行っています。2005年からは「名取洋之助写真賞」を創設しました。

名取氏は、1950年の協会設立初期から写真企画展への助言。更に、写真著作権の重要性を進言されるなど、さまざまな面で協力を頂いています。没後、名取洋之助が関わった日本工房、サンニュース、岩波写真文庫の創設に関してわが国のフォトジャーナリズムの発展に大きく貢献されたことを顕彰し、主として若いフォトジャーナリストの育成に役立つことを望み、この写真賞を創設しました。

●名取洋之助(1910～62年) ドイツに留学していた名取洋之助は23歳の若さで、1930年代ヨーロッパで勃興していたフォト・ルポルタージュをわが国に導入し、木村伊兵衛らと33年「日本工房」を興す。その後、土門拳、藤本四八、亀倉雄策らと『NIPPON』を創刊し、フォト・ジャーナリズムを確立する。戦後は47年に『週刊サン・ニュース』を創刊。50年に『岩波写真文庫』を創るなど、写真家であると同時にすぐれた企画・編集者でもあった。

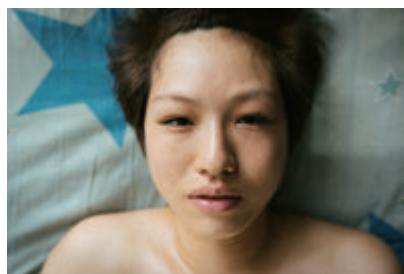
■ 2018年第14回名取洋之助写真賞

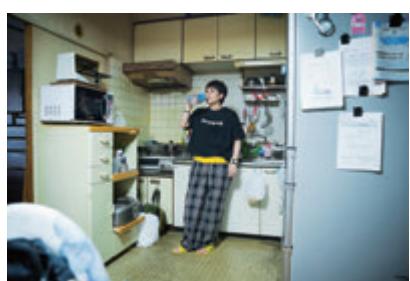
鈴木 雄介 「The Costs of war」 (カラー 17 枚、モノクローム 13 枚)



■ 2018年第14回名取洋之助写真賞 奨励賞

やどかり みさお 「夜明け前」 (カラー 30 点)





おめでとうございます

— 受賞おめでとうございます。カメラの開発・生産に参入した経緯をお聞かせください。

石塚：この度はこのような名誉ある賞をいただき、ありがとうございます。特にレンズ交換式一眼カメラについては2006年の「a 100」に始まり、イメージセンサー、画像処理エンジン、レンズを自社開発して研鑽を積み重ねて参りましたので、日本を代表する写真家の皆様に選んでいただけたことを、私自身はもちろん社員一同大変嬉しく思っています。

弊社はもともと、映像制作や放送局様向けのプロ用カメラ・ビデオ機器を長く手がけておりましたが、その中で1981年に世界初の電子式スチルカメラの試作機「MAVICA（マビカ）」を技術発表しました。これは、撮った画像をその場で再生・確認でき、さらに通信機器を使って伝送できる、といった現在のデジタルスチルカメラの原型となる画期的な技術開発でした。1996年にはコンパクトカメラの「サイバーショット」を発売して、本格的に民生用のスチルカメラ事業を開始しました。常にその時点の最先端の技術を投入して、小型・軽量化、イメージセンサーの高画素化、画像処理エンジンの進化、高性能レンズや手ぶれ補正機能の搭載など、徹底的に性能の向上に注力して、デジタルイメージング市場自体の拡大を牽引してきたと自負しております。その後、2006年に初めてのレンズ交換式デジタル一眼カメラ「a 100」を上市し、続いて2010年にはレンズ交換式カメラで圧倒的な小型軽量を実現したミラーレス一眼カメラを商品化しました。当時小型のイメージセンサーが主流だったミラーレス機にAPS-Cサイズのイメージセンサーを採用して、高い描写力や美しいボケ味といった豊かな表現を実現し、“ミラーレス一眼カメラで妥協のない高画質性能を追求する”という、今の市場の方向性に先鞭をつけたと考えています。

— フルサイズミラーレスカメラ開発の動機、やりがい、などについてお聞かせください。

石塚：ミラーレス一眼カメラの初号機を出した頃から既に、いつかはフルサイズイメージセンサー搭載のカメラを作りたい、という想いがエンジニアたちの間にはありました。しかしながら、それを望まれるような小型で実現するには非常に高い技術的なハードルがありました。試行錯誤を重ね、画質に妥協することなく、他社に先駆けて小型ボディに凝縮させることができたのは、カメラ本体だけではなく基幹部品のイメージセンサーを自社開発しているソニーならではだと考えています。さらに、フルサイズのイメージセンサーから得られる膨大なデータをリアルタイムに扱う画像処理エンジン、

高画素化に応えることができる描写力と美しいボケ味を求める交換レンズ群を実現するための高度な非球面レンズ等の光学技術も自社で磨いてきたことが欠かせませんでした。そしてイメージセンサー、画像処理エンジン、レンズがそれぞれ最大限にその性能を引き出せるようにすり合わせて設計できるのが私たちの強みであり、やりがいもあります。

— 写真表現とデジタルカメラの進化の関連性をどのように考えていますか。

石塚：写真表現として「より精緻に描き出したい」「今まで見えなかったものを見せたい」「より忠実に再現したい」などのニーズに対して、デジタルカメラはフィルムによる写真が進化してきたスピード以上の速さで「高画素化」「高感度化」「高ダイナミックレンジ化」などで応えてきたのではないかと思います。そして、クリエイターの皆様がたがそのカメラを駆使して次々と新しい表現を紡ぎ出されています。双方が刺激しあってカメラと表現の未来が生まれていくという良好な関係にある時代だと言えるのではないか。

— 今後のデジタルカメラ関連の開発計画や理念はいかがですか。

石塚：AFスピード・高速連写といったスピード性能や、今まで撮影が許されていなかった場所での撮影を可能にした無音で撮影できる機能、瞳AFなどにより、新しい表現、新しい撮影体験の可能性を広げたことで高い評価をいただいた「a 9」のようにこれからも新しい提案を込めた商品を展開ていきたいと思います。中でもレンズは写真にとって表現の豊かさと、撮影領域の広がりに重

要な役割を果たします。Gマスターレンズの描写性能には世界中で高い評価をいただいており、デジタル対応設計のフルサイズレンズのラインナップの充実も感じていただけるようになってきた実感を持っています。今後さらにレンズラインナップの充実を図っていきたいと思っています。

— JPS会員へのメッセージをお願いします。

石塚：カメラやレンズを開発することだけでなく、プロフォトグラファーの皆様の制作活動を支援する「ソニー・イメージング・プロ・サポート」、作品発表の場をご提供する「ソニーイメージングギャラリー銀座」、世界へ作品を発信していただける「ソニーワールドフォトグラフィーアワード」など、クリエイターの皆様の活動のサポートも整えてきました。これからもハード、ソフトの両面でクリエイターの皆様と一緒に歩んでいくソニーであります。

（平成30年9月6日 ソニー本社にて、聞き手／担当理事・小池良幸、

聞き手・撮影／出版広報委員・桃井一至）

第44回日本写真家協会賞

ソニーイメージングプロダクツ
&ソリューションズ（株）



石塚 茂樹 さん

（ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ（株）代表取締役社長）

JPS2018年新入会員展

「私の仕事」

東京

アイデムフォトギャラリー「シリウス」

2018年

7月12日(木)～7月18日(水)

大阪

富士フィルムフォトサロン大阪

2018年

8月10日(金)～8月16日(木)



化石となった歯車

石引 まさのり



長崎県端島炭鉱と居住地跡

磯村 浩一



Hunting Red Fox

大竹 英洋



ハノーファーの
クリスマスマーケットにて

大鶴 緯宣



一技一 象彦・几帳詩絵硯箱

小笠原敏孝



アザラシの赤ちゃん

小原 珍



浅田真央
氷上の涙
貝塚 太一



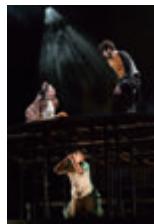
降りそそぐ光
加藤恵美子



無我 鍵田真由美 フラメンコ曾根崎心中
2006.11.28 ル・テアトル銀座
川島 浩之



雨ニモマケズ
紅林 敏明



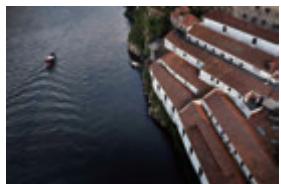
劇団青年座「ブンナよ、木から
おりてこいー2」(演出=磯村純)
小林 万里



猫
酒井 充



神々の色いろ
琵琶湖白鬚神社
坂本 憲司



悠久の流れ
～ポルト～
四方 伸季



多摩川
杉能 信介



音取 (Netori)
シテ 倉本雅
瀬野 匠史



静寂
高橋 康資



保存鉄道と冬の空
高橋 渉



よこどり

高本 雅夫



誕生

田中 雅美



Teenage Girl

堤 博之



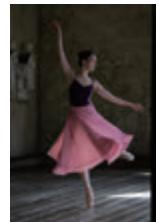
日本海展望風呂
(料理宿やまさき / 福井県)

中島 雅彰



三遊亭王楽

原田 圭介



踊り子

富樂 和也



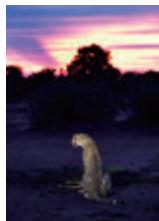
2016kobehanabi

前田 博史



Perényi Miklós

参川 修穂



夜の訪れ

山形 豪



採石場跡
茨城県笠間市

山口 保



Sumire
ファーストコンサート

吉澤 士郎



吊り上げ救助

吉野 悠



住み慣れた家で暮らす
～訪問リハビリテーションのお楽しみ～
和田 茅衣

展示作品各自 2 点から編集部で
セレクトした 1 点を 50 音順に掲
載しました。
(構成：小池良幸)



(株)アイデム相談役 比留間洋氏による
乾杯の挨拶 (撮影：吉澤士郎)



東京展会場風景 (撮影：吉澤士郎)



大阪展示会場 (撮影：四方伸季)



7月12日 東京展オープニングパーティー記念撮影 (撮影：吉澤士郎)

JPS 2018 年 新入会員展 実行委員会：
磯村浩一 (委員長)、吉澤士郎 (副委員長)、石引まさのり、大鶴倫宣、富樂和也、山口 保

セミナー研究会レポート

◆平成30年度第1回技術研究会報告◆

シリーズ：デジタル時代のモノクロプリント その3 ラボ編・ラムダプリント

平成30年6月6日（水）

JCIIビル6F会議室 参加者56名

講師：瀧井 誠、中村隆介（株式会社写真弘社）

「デジタル時代のモノクロプリント」と題してセミナーを過去2回行なったが、シリーズの最後として3回目は我々に最も馴染み深いプロラボではどの様に取り組んでいるのか紹介する事として、賛助会員である株式会社写真弘社に業務用プリンターとして名高いラムダプリントを中心に話していただいた。

ラムダはイタリアの引き伸ばし機で有名な Durst 社が製造販売していたデジタルプリンター。1996年に販売を開始、すでに2011年に生産終了している。現在約30台が国内で稼働していると言われている。

引き伸ばし機は電球の光をネガに透過させて印画紙に露光をかけるが、ラムダはデジタルデータを専用の印画紙にレーザーで露光をかける。印画紙を使う事でインクジェットとは違う、より写真らしい仕上がりとなり、製造終了した今でも一定の需要がある。本来ラムダはカラー専用機であるが、イルフォード社製のモノクロ専用紙を使用する事で色転びのないモノクロプリントが可能となった。

印画紙なので露光後はアナログと同じように現像・停止・定着の処理が必要となる。ネガを使用しないデジタルデータからのレーザー露光なので仕上がりがシャープ。また手焼きと違い露光ムラが無く、常に一定の仕上がりが期待できる。同じ写真を大量にプリントする際に非常に便利である。また保存性、耐光性が既存の印画紙と同一なので銀塩プリントを基準とした美術館やギャラリーにも対応している。

後半は、中村氏によるインクジェットプリントとラムダプリントの違いを説明して貰った。既に生産が終了しているラムダと比べて、現在でも進化し続けているインクジェット。データを紙の上に再現する性能としてはインクジェットが上回っている部分があり、耐久性も全く変わらないレベルである。最終的には印画紙プリントのラムダと、印画紙プリントに限りなく近いインクジェットプリント、どちらにも長所短所があり一概にどちらが良いとは言えず、適材適所、個人の嗜好に委ねる部分である。そのあたりも相談しながら進める事ができるのがラボへのプリント発注の利点であろう。

（記／片桐寿憲、撮影／熊切大輔）

◆平成30年度第2回国際交流セミナー報告◆

インドネシア撮影情報セミナー

—ジャワ島・コモド島・フローレス島の絶景—

平成30年6月18日（月）

日本アセアンセンター アセアンホール 参加者43名

講師：芳賀日向、天神木健一郎、高嶋ちぐさ（JPS会員）

国際交流委員会の海外撮影情報セミナー8回目となる今回はインドネシア。今年は日本インドネシア国交樹立60周年に当たり、セミナーは外務省管轄、同記念委員会の認定事業として開催した。セミナー内容は、インドネシアの興味深い撮影ポイント2カ所の紹介を中心に、同国的基本情報、最新事情、フライト情報等を提供した。

インドネシア共和国観光省ビジットインドネシア ツーリズムオフィス
高橋直美氏からは、同国概要及び今年のイベント情報が提供された。6月



23日～7月21日の第40回パリ・アートフェスティバルでは、パリ島及び国内外からのダンサーや演奏者によるパフォーマンス、写真撮影会など。8月18日～9月2日にはジャカルタ（ジャワ島）・パレンバン（スマトラ島）で、第18回アジア競技大会を開催。パリ島では10月にヌサドゥア地区で行われる国際通貨基金（IMF）と世界銀行年次総会関係で、10月5日～20日頃まで南部の宿泊施設は既に満室状態、道路通行止めも予想されるため、その間の同島訪問は避けた方が無難とのこと。

レクチャー1は、芳賀日向会員によるイジェン山のブルーファイア及び周辺地域の写真上映。イジェン山はジャワ島東部の火山群の1つで、標高2,443mの活火山。美しいが猛毒の緑の水を湛える火口湖とともに、ここは世界の危険な絶景ベスト5に入る。

レクチャー2は、高嶋ちぐさ会員によるインドネシア東部のコモド国立公園及びフローレス島ラブハン・バジューの写真上映。世界絶滅危惧種に指定されている肉食オオトカゲ、コモドドラゴンが棲息するコモド・リンチャ・パダールの3島は、コモド国立公園としてユネスコ世界自然遺産に登録されている。

レクチャー3は天神木健一郎会員による、イジェン及びパダール、フローレス島の空撮動画上映。ドローンによる空からの映像は、地上からの静止画像とは、ひと味違った印象を受けた。インドネシアでは都市部や空港付近を除き、ドローンの撮影規制は緩やかだが、コモド島のドラゴン撮影は有料とのことだった。

最後は日本－インドネシア間に直行便を就航中の航空会社2社のプレゼンテーション。ガルーダ・インドネシア航空からは国際線及びインドネシア国内線の路線紹介、フルサービスエアラインの特徴とメリット。LCCのエアアジアXからは路線紹介の他、LCCの価格が安い理由として、コスト削減方法が説明された。 （記／高嶋ちぐさ、撮影／池上直哉）



ミラーレス一眼カメラ登場から10年を振り返る

「ミラーレス10年史」

この数年、レンズ交換式一眼カメラの出荷が動きを見せている。

残念ながら、カメラ全般の出荷台数は減少傾向だが、一眼レフとミラーレスに大別されるレンズ交換式一眼カメラは、ミラーレスの国内出荷台数が一眼レフを上回った。

カメラ映像機器工業会（CIPA）の統計によると、2018年1-6月の国内累計、国内出荷台数は一眼レフが246,150台（前年同期比75.1%）、ミラーレスが292,269台（前年同期比109.1%）と、一眼レフの落ち込みに比べてミラーレスの元気の良さが光る。

海外出荷では、一眼レフ3,222,138台、ミラーレス1,748,815台と一眼レフ優勢だが、金額ベースでは一眼レフ（147,694,801）に対して、ミラーレス（107,811,221）が猛追を見せ、一眼レフが前年同期比96.5%に対して、ミラーレスは108.2%の伸びを見せている。（金額：千円）

◆構造の違いとこれまでの流れ

改めて一眼レフとミラーレスの違いを簡単に説明すると、長年親しんできた一眼レフは、レンズを外すと傾斜のついたミラーが見える。このミラーを通じてファインダーより被写体を確認。シャッターボタンを押すと同時にミラーが跳ね上がり、撮像センサーへ光が届き、画像処理を経て、写真ができる。オートフォーカスの測距はミラーを透過した光を専用センサーに届けて、ピント合わせを行う方式だ。

一方、ミラーレスは文字通りミラーがなく、レンズを外せば、すぐに撮像センサーが見える。この撮像センサーで画像になる光を受け止めるほか、オートフォーカス用センサーも兼任。ファインダー像は電子映像で、背面モニターやファインダーにて確認する仕組みだ。

両者一長一短あるものの、ミラーレスはミラーがないぶん軽量コンパクトに仕上がり、動画にも対応しや

すい構造などから、次世代のカメラとして、徐々に人気を上げてきた。そのミラーレスカメラが、今秋で登場から満10年を迎える。

世界初のミラーレスカメラは、2008年9月に登場のパナソニック LUMIX DMC-G1。従来から同社の一眼レフに搭載していた4/3型センサーを踏襲した新規格マウント、マイクロフォーサーズを使用した小型ボディはエポックメイキングで、次世代カメラとして、色々と記憶に新しい。

追いかけるようにして2009年6月に登場したオリンパス PEN E-P1もマイクロフォーサーズ規格のマウントを採用。同社のハーフサイズ一眼レフで人気を博したPEN Fをモチーフにした外装を武器に、増えつつあった女性ユーザーを中心に爆発的大ヒット。女性誌までもカメラを取り上げ、ミラーレス人気を不動のものにした。

その波に乗るように、ソニーも2010年5月にAPS-Cサイズセンサー搭載のソニー NEX-5、NEX-3を発表。ペンタックスも2011年6月には1/2.3型センサー搭載のペンタックス Q、2012年2月には一眼レフ用レンズをそのまま使う変わりダネのペンタックス K-01と追った。

堅調な一眼レフを横目にニコンは2011年10月に1インチセンサーのニコン1を投入。2012年2月には富士フィルムより、ファインダーのハイブリッドとも言うべく光学／液晶切替式ファインダーでAPS-Cサイズセンサー採用のX-Pro1。2012年6月にはキヤノ



2008年9月12日、パナソニックG1からミラーレスカメラの歴史が始まった。



オリンパスE-P1は、増えつつあった女性ユーザーにキュートな外装が大ヒット。



Samsung NX1。2420万画素のAPS-Cセンサー採用。防塵防滴、位相差AFなど意欲的な製品。

ンから新マウントでAPS-Cサイズセンサー採用のEOS Mが仲間入り。2016年2月にはシグマより、同社独自のFoveonセンサー搭載(APS-C)のシグマsd Quattroと続き、国内主要カメラメーカーのミラーレス機が出揃った。

◆すでに撤退した海外メーカーも

このまま一段落するかのように見えたが、2013年10月にソニーがAPS-Cモデルと同一のEマウントでソニーα7およびα7Rを投入。ユーザー待望のフルサイズセンサー搭載機は、一躍人気モデルに成長して、国内外でソニーのシェアを大きく伸ばすきっかけになった。

海外メーカーでは2014年4月にAPS-CセンサーのライカT、2015年10月にはフルサイズセンサーのライカSLが登場。さらに2016夏にはハッセルブラッドより、中判ミラーレスのハッセルブラッドX1D。同秋には富士フィルムGFX50Sと、より大型のセンサーモデルもミラーレス化へ動きを見せた。

一方、日本では発売されなかったが、2010年春に韓国の大手電気メーカー、Samsung(サムスン)もミラーレス一眼を発売。自社グループで主な電気部品が調達できる強みを活かして、フラッグシップモデルSamsung NX 1を揃えるまで注力しながら、2015年冬にはカメラ事業から早々の撤退。虹色に見えたミラーレス市場も、一眼レフ同様に日本メーカーの壁は厚く、後発メーカーには厳しい現実もあった。

◆上級機はフルサイズミラーレス移行！？

そして2018年夏、一眼レフ二強のニコンとキヤノンが相次いでフルサイズミラーレスに参入。ニコンは2450万画素のZ6と4575万画素のZ7の2機種。キヤノンが3030万画素のEOS Rを発表した。

プロやハイアマチュアの間で根強い人気を持つフルサイズモデルが一眼レフの二強から登場したことで市場は大きく湧いたが、追い打ちをかけるように9月にドイツ・ケルンにて開催されたフォトキナでは、ライカがフルサイズ機で採用していたマウントを基軸にライカ、パナソニック、シグマの三社協業を発表。レンズ



2013年10月、フルサイズミラーレスとしてソニーα7と高画素モデルα7Rが共に登場。

交換式カメラの新マウントはレンズラインナップの品揃えが急務だが、一社独立では時間がかかる。そこで三社の力を合わせて、展開して行く試みだ。

これまでの例では、ソニーがミラーレス用のEマウントを無償公開して、レンズメーカーから賛同を募りシグマ、タムロン、トキナー、カールツァイス、コシナなどから商品化されている。

フルサイズミラーレスで後発のニコン、キヤノンの両社は、現時点で発売決定しているレンズは少ないが、豊富な一眼レフ用レンズを資産として、純正マウント変換アダプターを用意。さらに自社一眼レフユーザーがスムーズにミラーレス化が図れるよう、発売予定のレンズロードマップも公表して追いかける。

ミラーレスカメラ登場から10年目にして、フルサイズ化の大波が押し寄せてきた。登場当初はセンサーサイズが小さく、小型化できる特性を活かして世界最小最軽量を謳った製品が多数登場したが、進化の著しいスマートフォンとの差別化や高画質の要望、収益向上などの観点から、フルサイズ化へ動きを見せたようだ。しかしながら、センサーサイズに比例して、当然レンズボリュームも拡大する。来るべき8K動画や高画質化に応じて、進化してきたミラーレス一眼だが、この動きが恒常的なものか、はたまた振り戻しで小型化の動きも見られるのか、目の離せない状況がこの先も続きそうだ。

(記・撮影／出版広報委員：桃井一至)



2018年9月フォトキナにて、パナソニックがミラーレス10年目にしてフルサイズ機Sシリーズ発表。



シグマは既存レンズ14本のLマウント化とさらに新レンズを増やし、来年にはフルサイズミラーレス機を出す。



2018年9月フォトキナで、マウント共用によるライカ、パナソニック、シグマの三社協業が発表された。

2018JPS展 報告

担当常務理事 足立 寛

1976年第1回JPS展（一般公募は第2回目から開始）より数えて43回目を迎えた2018JPS展。昨年より応募枚数は減少したが、18歳以下部門の応募者数が昨年より増加したことは、若い世代への写真文化の浸透を感じられ、いい兆候であった。

JPS展は、東京、名古屋、関西で毎年開催され、協会事業の中でも多くの会員の参加によって運営されている。各会場での展示構成から講演会、イベントなど、各地域の会員による趣向を凝らした演出も人気となっている。ここ3年ほどは各地域で毎年使用している会場が改築や耐震工事などの関係で別会場になることが続いたが、本年度で終了した。会場の確保や開催時期など支障なく開催できたことは、関係する会員の尽力によるものである。

東京展（東京都写真美術館B1F）5月19日（土）～6月3日（日）は、一昨年リニューアルオープンした会場で、LED照明を使った均一光で写真鑑賞には申し分ない空間であった。

名古屋展（名古屋市民ギャラリー矢田第1～3展示室）6月19日（火）～6月24日（日）は、毎年行っていた愛知県美術館が耐震工事のため急遽決定した会場であり、名古屋展実行委員会会員各位の努力により開催することが出来た。来場者数は、昨年より約四割減となつたが、会場変更という致し方ない事であった。

関西展
(京都市美術館別館)



東京展イベント（撮影・曾根原昇）



文部科学大臣賞の田中容之さんと記念撮影（撮影・小林みのる）



表彰式（5月19日東京都写真美術館ホール、撮影・小林みのる）

7月10日（火）～7月15日（日）。昨年耐震工事等で使用出来なかった、京都市美術館別館に戻り、見やすい広い会場での展示であった。今夏の異常気象による猛暑の影響もあり、2割減の来場者であった。

毎年各会場で行っていた講演会は、三会場共通で「肖像権」「著作権」をテーマに行った。題名は、「写真の著作権がわかれれば肖像権なんか怖くない！」。講演者は佐々木広人（『アサヒカメラ』編集長）、近藤美智子（弁護士・虎ノ門総合法律事務所）、加藤雅昭（写真家、JPS著作権担当理事、日本写真著作権協会理事）の3氏で、日本写真著作権協会との共催事業であった。

昨今、写真愛好家の間で話題となっている写真を撮る際の「肖像権」「著作権」について、撮る立場の写真家、使う立場の編集者と法律的解釈を説く弁護士により、実例写真を投影しながらそれぞれの立場からの意見を語るパネルディスカッション形式のセミナーを行った。質疑応答では、「肖像権」「著作権」についての鋭い質問もあった。

各会場と聴講者数は、東京都写真美術館ホール約190名、名城大学ナゴヤドーム前キャンパス南館DSホール約250名、京都市国際交流会館イベントホール193名で、合計600名を超える聴講者があった。



東京展講演会（撮影・小林みのる）



東京展展示会場（撮影・木村正博）

第43回 2018JPS展の報告

作品受付：2017年12月10日（日）～2018年1月15日（月）
 作品審査：2月3日（土）
 審査員：熊切圭介（審査員長）、今森光彦、ハービー・山口、水谷草人、佐々木秀人（『日本カメラ』編集長）
 後援：文化庁ほか
 総展示数：607枚（公募269名、491枚、会員作品53名、106枚、ヤングアイ10校10枚）
 総入場者数：6,290名
 入場料（各展共通）：一般700円（団体割引560円）、学生400円（団体割引320円）、高校生以下無料、65歳以上400円（関西展、名古屋展は65歳以上無料）
 ※団体割引は20名以上
 応募総数：1,841名、6,104枚
 （一般：1,694名、5,799枚、18歳以下：147名、305枚）
 入賞・入選者総数：269名、491枚

一般部門：240名、442枚（文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選210名）
 18歳以下部門：29名、49枚（最優秀賞1名、優秀賞9名、入選19名）

入賞者氏名：

文部科学大臣賞

田中容之 里の生活 5枚組 カラー
 東京都知事賞
 河田和子 竹林のにぎわい 5枚組 カラー
 金賞 藤野治雄 「暮らしの中の祈り」 単 カラー
 銀賞 國安里香 15の春 3枚組 カラー
 銀賞 真館忠嗣 肢体 3枚組 カラー
 銅賞 立花久光 祈願 5枚組 モノクロ
 銅賞 小野賢治 大地とアスリート 単 モノクロ
 銅賞 吉田雅宏 最後の春 単 カラー
 （奨励賞以下略）

18歳以下部門

最優秀賞 星 啓人 雨上がりの後に 単 カラー
 （18歳以下部門優秀賞以下略）

会員作品：53名 106枚

企画展示「ヤングアイ」

公益社団法人日本写真家協会会長賞：学校法人 Adachi 学園 ビジュアルアーツ専門学校 「Street beyond Border」
 鈴木拓也、陳捷、内田斗磨

ヤングアイ奨励賞：九州産業大学 芸術学部 「向こうの向こうまで」 豊永茜、鎌田拳伍

参加校：10校

現代写真研究所、東京工芸大学 芸術学部 写真学科、学校法人吳学園 日本写真芸術専門学校、日本大学芸術学部 写真学科、東京綜合写真専門学校、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科、学校法人 Adachi 学園 ビジュアルアーツ専門学校、学校法人 日本写真映像専門学校、大阪芸術大学 芸術学部 写真学科、九州産業大学 芸術学部 写真映像学科

【東京展】

後援：文化庁、東京都 共催：東京都写真美術館
 会場：東京都写真美術館 B1F
 会期：5月19日（土）～6月3日（日）10:00～18:00（木・金は20:00まで）、月曜休館（祝日の場合、翌平日休館）



名古屋展展示会場（撮影・松原 豊）

表彰式・講演会：5月19日（土）東京都写真美術館 1Fホール 13:00～14:30 表彰式、参加者数：230名（ロビーでのモニター観覧50名を含む）、15:00～16:30 講演会 参加者数：約190名
 祝賀パーティー：5月19日（土）17:00～19:00 ビヤスター シヨン恵比寿 参加者数：194名
 イベント：5月26日（土）「大三元ズームレンズを体験しよう！」 参加者：31名 協力：オリンパス株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社ケンコー・トキナー、株式会社シグマ、ソニーイメージングプロダクツ＆ソリューションズ株式会社、株式会社タムロン、株式会社ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、リコーイメージング株式会社
 協力（会場モニター提供）：パナソニック株式会社
 入場者数：14日間 3,892名

【名古屋展】

後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

会場：名古屋市民ギャラリー矢田 第1～3展示室

会期：6月19日（火）～6月24日（日）9:30～19:00（最終日17:00閉館）

作品講評会・講演会：6月23日（土）名城大学ナゴヤドーム前キャンパス南館 DSホール 13:00～13:50 作品講評会
 講評：山口勝廣専務理事、14:00～15:30 講演会 参加者数：約250名

入場者数：6日間 1,008名

【関西展】

後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

会場：京都市美術館別館

会期：7月10日（火）～7月15日（日）9:00～17:00

作品講評会・講演会：7月14日（土）京都市国際交流会館 イベントホール 14:00～15:00 作品講評会 講師：松本徳彦副会長、15:15～16:45 講演会 参加者数：193名

入場者数：6日間 1,390名

【講演会】3会場共通

テーマ：「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」
 講師：佐々木広人（『アサヒカメラ』編集長）、近藤美智子（弁護士・虎ノ門総合法律事務所）、加藤雅昭（JPS著作権担当理事、日本写真著作権協会理事）

共催：日本写真著作権協会

第43回 2018JPS展

写真展事業担当理事：足立 寛

委員長：今井孝弘 副委員長：川村容一

委員：大津茂巳、木村正博、小室貴義、杉本奈々重、曾根原昇、鷹羽金藏、根岸亮輔、吉永陽一

名古屋展実行委員長：松原 豊 副委員長：三澤武彦

委員：小玉亘宏、鈴木一生、谷 泰宏、塚本伸爾、中川幸作、花卉知之、原田佐登美、村山直章

関西展実行委員長：柴田明蘭 副委員長：二村 海

委員：植村耕司、内牧依子、越智信喜、金城泰哲、クキモトノリコ、辻村耕司、永野一晃、米川浩二



関西展展示会場（撮影・中島雅彰）

第44回 2019 JPS 展案内

写真展事業委員会

第44回 2019JPS 展では、例年どおり会員部門の作品を募集します。今回は「PROFESSIONAL EYE」と銘打って JPS 展各会場にて展示紹介いたします。作品は1人1点、展示スペースの都合で50名50点の作品を予定しており、エントリーの先着順となりますのでご了承ください。

●会員作品部門「PROFESSIONAL EYE」

作品テーマ：自由

展示作品：1人1枚

エントリー締め切り：平成30年11月15日（木）
募集人数：50名、定員になり次第締め切り

出展決定後の提出物：見本プリント（作品集の原稿になります）六つ切りまたはA4サイズ（カラー・モノクロ、銀塩・デジタルを問わず）。原板（半切伸ばしに耐えるクオリティであること）
出展料：10,000円（展示プリント制作、額装、展示費用）

※出展が決まった方には改めて展示までの流れを書面にて郵送いたします。

●公募部門

前回に準じます。応募規定は右枠内を参照。

■イベント等

講演会、セミナー、撮影会を開催予定。

■作品集

展示作品を写真集として発刊、販売。

■メールマガジン

JPS 展メールマガジンを配信しています。下記アドレスから登録できます。

<http://www.jps.gr.jp/jps-ten-magazine/>

第44回 JPS 展の応募チラシが出来上りました



写真教室などの講師をされている会員の皆様、ぜひ生徒さんへの配布にご協力ください。

また、店舗やギャラリー等で配布していただける方は事務局までお知らせください。

<公募：一般部門、18歳以下部門 応募規定>

●応募資格：アマチュア、プロフェッショナル、年齢、性別、国籍を問いません。ただし、JPS会員は除きます。

●応募部門：一般部門 年齢を問いません。
18歳以下部門 2000年4月1日以降生まれの方

●テーマ：自由

●応募プリント（用紙）サイズ：A4 または六つ切 8×10インチ（203×254mm）。カラー、モノクロ共プリントのみ。デジタル加工も可。ただしデジタル加工・合成等の欄に印を入れること。作品は、必ず応募者本人が撮影したものであること。

●出品点数：単写真＝制限はありません。組写真＝5枚までを1組の制限として何組でもかまいません。組写真は、左より順に並ぶように構成して番号を付けてください。ただし、写真と写真は貼り付けないこと。また台紙にも貼らないで応募してください。

●受付手数料：

★一般部門：1枚につき2,200円（組写真の場合も1枚2,200円）

★18歳以下部門：1枚につき600円（組写真の場合も1枚600円）郵便局より下記郵便振替口座へ2019年1月15日（火）までにお振り込みください。

通信欄に応募枚数、ご依頼人の郵便番号、住所、氏名、氏名フリガナ、電話番号を必ずご記入下さい。

★作品の中に受付手数料を同封することは厳禁とします。応募作品返却希望者は、返却料2,000円を加算してお振りください（海外からの応募の場合は返却できません）。

郵便振替口座番号 00110-5-651936

口座名 日本写真家協会 JPS 展

●受付及び締切：郵送または宅配便に限ります。

（持参は受付いたしません）

2018年12月10日（月）から2019年1月15日（火）まで。

最終日消印有効。

●審査員：熊切圭介（審査員長）、榎並悦子、大西みつぐ、清水哲朗、藤森邦晃（『フォトコン』編集長）
(審査員の都合により変更することがあります)

●審査結果：2019年3月中旬頃、応募者全員に文書を送付。ホームページ（URL：<http://www.jps.gr.jp>）とメールマガジンでも発表します（電話でのお答えはいたしません）。

●展示用作品：入賞・入選作品は、後日指定する期日までに各自にて半切に引伸し、再提出していただきます。なお上位入賞作品については大型サイズになる場合があります。

●展示及びパネルの製作費：入賞・入選作品は、当協会特注のパネルにて展示しますので、一般部門は1枚につき8,400円、18歳以下部門は1枚につき4,200円を指定の日時までに納入していただきます。入賞・入選の辞退はできません。

●賞（一般部門）：

文部科学大臣賞 1名（賞状、盾、賞金50万円、副賞）

東京都知事賞（予定）1名（賞状、盾、賞金30万円、副賞）

金賞 1名（賞状、盾、賞金15万円、副賞）

銀賞 2名（賞状、盾、賞金10万円、副賞）

銅賞 3名（賞状、盾、賞金5万円、副賞）

奨励賞 5名（賞状、盾、賞金2万円、副賞）

優秀賞 20名程度（賞状、盾、副賞）

入選 200名程度（賞状、記念品）

（18歳以下部門）

最優秀賞 1名（賞状、盾、副賞）

優秀賞 10名程度（賞状、記念品、副賞）

入選 10名程度（賞状）

●展示会場・会期

東京都写真美術館…2019年5月18日～6月2日（予定）

愛知県美術館…2019年6月（予定）

京都市美術館別館…2019年7月（予定）

●作品集：第44回 2019JPS 展作品集の刊行を予定。

●応募先・お問い合わせ：〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303 公益社団法人日本写真家協会 第44回 2019JPS 展 TEL.03-3265-7453 FAX.03-3265-7463

J P S ブック レビュー

協会に寄贈された会員の出版物を到着順に掲載致します。
(2018・3月～8月)
①発行所 ②発行年月
③サイズ (タテ×ヨコ)、頁数
④定価 ⑤寄贈者
⑥電子書籍ストア



時代を語る 林忠彦の仕事

林 忠彦、監修・林 義勝

①光村推古書院 ②2018年4月
③21.2×15cm、408頁 ④3,800円
⑤発行所



世界の山と世界の屋根を滑る 1967-2017

水谷章人

①JCII フォトサロン
②2018年5月 ③24×25cm、35頁
④1,000円 ⑤発行所



屋久島 Rainy Days

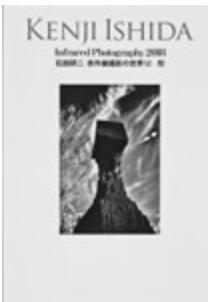
秦 達夫

①風景写真出版 ②2018年6月
③18.2×25.7cm、104頁
④2,750円 ⑤発行所



たんぽぽ仙人「風のたより」No.9
ドラマ 80×240 百々海岸
八木祥光

①やるき出版 ②2018年3月
③29.7×21cm、52頁
④-円 ⑤八木氏



Infrared Photography 2018
赤外線撮影の世界 VI - 形

石田研二

①石田研二 ②2018年3月
③25.7×18.2cm、25頁
④-円 ⑤石田氏



近藤龍夫が記録した昭和Ⅱ ありふれた日々の暮らし
近藤龍夫が記録した昭和Ⅲ 戦争の時代と子どもたち
近藤龍夫、監修・近藤誠宏

①岐阜新聞社 ②2018年4月
③25×18.2cm、116頁、108頁
④1,852円 ⑤近藤誠宏氏



creation:

前川貴行

①新日本出版社 ②2018年6月
③37.3×24.7cm、124頁
④7,200円 ⑤前川氏



瞬間の顔 Vol.10 639
山岸 伸

①山岸伸写真事務所
②2018年3月 ③21.5×21.4cm、140頁
④2,315円 ⑤山岸氏



東京定点巡礼
富岡畦草

①日本カメラ社 ②2018年4月
③23.5×18.2cm、128頁
④2,200円 ⑤発行所



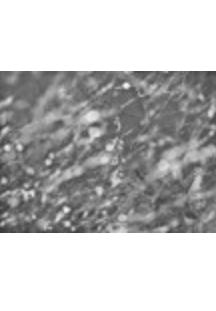
空鉄の世界
空から見つめた鉄道情景
吉永陽一

①日本写真企画 ②2018年5月
③21×14.7cm、63頁 ④1,000円
⑤吉永氏



2016-2018 IBI ONO
谷 泰宏

①岐阜新聞社 ②2018年5月
③14.8×21cm、60頁 ④2,315円
⑤谷氏

			
<p>吉野信的アフリカ 写真家が旅して感じた17のストーリー 吉野 信</p> <p>①天夢人 ②2018年7月 ③21×14.8cm、175頁 ④1,800円 ⑤発行所</p>	<p>素顔の田中角栄 密着! 最後の1000日間 山本皓一</p> <p>①宝島社 ②2018年7月 ③17.3×11.6cm、240頁 ④1,000円 ⑤山本氏</p>	<p>屋久島 神々からの伝言 堀江重郎</p> <p>①南方新社 ②2018年7月 ③19.8×22cm、120頁 ④2,500円 ⑤堀江氏</p>	<p>日本産カエル大鑑 解説・松井正文 写真・前田憲男</p> <p>①文一総合出版 ②2018年8月 ③30.4×22.5cm、272頁 ④27,000円 ⑤前田氏</p>
			
<p>マングローブの木の下で 写真・文 横塚眞己人</p> <p>①小学館 ②2018年6月 ③26.7×21.6cm、34頁 ④1,300円 ⑤発行所</p>	<p>写真で振り返る JR ダイヤ改正史 結解 学、渡部史絵</p> <p>①飛鳥出版 ②2018年7月 ③29.7×21cm、128頁 ④1,300円 ⑤発行所</p>	<p>うたかた 安念余志子</p> <p>①風景写真出版 ②2018年8月 ③18.2×25.7cm、80頁 ④1,900円 ⑤安念氏</p>	<p>①長崎文献社 ②2018年7月 ③21×15cm、118頁 ④1,600円 ⑤松尾氏</p>
			
<p>民族曼陀羅－中國大陸 小松健一</p> <p>①みずき書林 ②2018年6月 ③31×23cm、264頁 ④12,000円 ⑤発行所</p>	<p>彩の記憶 ニュージーランド 梶山博明</p> <p>①日本写真企画 ②2018年3月 ③20×22.4cm、88頁 ④2,000円 ⑤梶山氏</p>	<p>THE BIG APPLE 佐藤仁重</p> <p>①日本カメラ社 ②2018年9月 ③30.3×23cm、144頁 ④2,800円 ⑤発行所</p>	<p>①OFFICE NATORI ②2018年9月 ③29×21.6cm、98頁 ④2,315円 ⑤荒川氏</p>

			
<p>刹那 東京で 熊切大輔</p> <p>①日本写真企画 ②2018年7月 ③20×22.4cm、76頁 ④2,000円 ⑤熊切氏</p>	<p>長崎・天草 潜伏キリシタン祈りの里 池田 勉</p> <p>①朝日新聞出版 ②2018年7月 ③27×27cm、216頁 ④4,300円 ⑤池田氏</p>	<p>ニッポン 畦島の祭り 箭内博行</p> <p>①グラフィック社 ②2018年9月 ③25.7×19cm、184頁 ④2,200円 ⑤発行所</p>	<p>軽便風土記 諸河 久</p> <p>①JCII フォトサロン ②2018年9月 ③24×25cm、35頁 ④800円 ⑤発行所</p>

寄 贈 図 書

山口 保殿	時軸
勝山基弘殿	浅草ロック座 昭和末年、STRIPTEASE
足立君江殿	カンボジア はたらく子どもたち、カンボジア 子どもたちの肖像
根岸亮輔殿	ピエール・エルメが教える チョコレートのお菓子 ピエール・エルメが教える ヴィエノワズリー
	・懐石料理の調理技術
	・ハローキティ & ピエール・エルメ イスパハン レシピブック
吉竹めぐみ殿	ARAB
池田 勉殿	仏道の行
廣田一雄殿	大須遊歩
近藤誠宏殿	加藤明美、監修・近藤誠宏・Japanese monkey
西寺キサブロウ殿	路傍 ACCIDENS
gallery a M 殿	鏡と穴-彫刻と写真の界面
JAGDA 殿	JAGDAと地元デザイナーによる地域活性実現への道
JCII フォトサロン殿	吉田謙吉・満洲風俗・1934年 金丸重嶺 VS 名取洋之助 -オリンピック写真合戦 1936
	・小川照夫・望郷の岐阜・愛知- 1963-69
	・井桜直美・明治 150年記念 幕末・明治の古写真展「建物にみる江戸東京」
キヤノンマーケティングジャパン(株)キヤノンフォトサークル殿	Canon Photo Annual 2018
	武蔵野美術大学 美術館・図書館
	・大辻清司 アーカイブフィルムコレクション 2 人間と物質
	アマナ殿
	・浅間国際写真フェスティバル 2018

受賞おめでとうございます。今後ますますの活躍をご期待申し上げます。



■「ネイチャーズベストフォトグラフィーアジア2018」Landscape部門 HighlyHonored 受賞 平成30年7月31日
受賞者: 岩本圭介 (2016年入会)
作品「由布川峡谷」に対して。

Message Board

◆吉野雄輔（2001年入会）

今「ギンボ・カエルウオ」の本を作る準備をしています。日本産は、現在87種が確認されていて、80種は、ストックとして持っています。残りの数種を撮るために、今年の夏は、1ヵ月沖縄本島恩納村に滞在して、タイドプールで、それだけを撮るのに集中しました。その間3回の台風に遭遇。浅いところなので、一番撮影に影響する



ので、大変でした。撮ってきた写真を整理して、どのように組むか制作へ、まだまだ時間がかかりそう～です(笑)。

（東京都世田谷区在住）

◆小橋健一（1979年入会）

人・建築・都市を記憶するフレーズの写真展「100人の本郷」撮影会イベントに参加を呼びかけられ、話をきく。さっそく事務局に問い合わせ、エントリーをしました。

やってきた開催当日は、早朝から30度を超えた。会場は、東京大学赤門をくぐりキャンパスの一角に用意された大教室に入った。定刻9時前ではほぼいっぱい。暫くして諸説明がありそれぞれに本日の主役レンズ付きフィルム「写ルンです」が手渡された。さあ手にしたがこの27枚撮りでテーマをどうまとめるか。昼までの2時間が勝負だとまずカメラに触れ馴染ます。

暑い中、東大構内の建物、銅像、三四郎池など撮り歩いた後、カメラを返却した。このイベントの感想は、率直に楽しめた。日常ハードな撮影なので「写ルンです」カメラのシンプルな機能はパチパチと撮れで暑さを吹き飛ばエンジョイできた。

（東京都江戸川区在住）

◆松尾順造（2006年入会）

「天空の十字架」

2018年7月に『天空の十字架 -世界遺産 長崎・天草の潜伏キリスト教遺産』という写真集を長崎文献社から出版しました。これは7月にユネスコの世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリスト教遺産」の構成資産12カ所を撮影



したものです。2000年に東京から長崎に移住して以来、ライフワークとしている「長崎のキリスト教文化」「長崎の教会群とステンドグラス」の撮影の中から生まれたものです。長崎は250年もの間の禁教令の中を、守り続けられてきたキリスト教の歴史があり、多くの教会堂があります。潜伏キリスト教の組織ごとに教会があるといつても良いでしょう。長崎、平戸、五島列島等の小さな島々にひっそりと建つ小さな教会堂を一つ一つ巡っています。

（長崎県長崎市在住）

◆三穂雪舟（1991年入会）

6月、照葉狭の新緑を撮りに行った時、車のバッテリーが上がってエンジンがかかるなり、この場所は、携帯の電波も届かないところで、結局、遭難してしまった。通りがかりの車にバッテリーコードを繋いでもらっても、かからず、その車の人に、町に出てたらJAFに連絡して来て頂ける様、依頼しました。30℃の暑い中5時間後JAFが来て助かりました。どなたかは分かりませんがここで御礼申し上げます。大感謝しています。

（東京都狛江市在住）

◆安藤清吾（1969年入会）

昨年8月から1年間マンション広報誌の表紙制作を行った。人と季節との触れ合いをテーマに簡単なキャプションも付けることにした。毎号季節感を先行させる為に、ストック画像と新撮影画像で纏め上げた。大型でポジ撮影が主体だった私にとってデジタルは初心者レベル。難しい事はカメラに委ねて、四季に恵まれた日本の有り難さを満喫した1年間でした。

（千葉県千葉市在住）



◆吉川信之（1999年入会）

「最近、テレビの音楽放送のときに曲の著作者名を表示することが少なくなりました。著作者が代替わりして、うるさく言わなくなった結果、商習慣が変わったのです」と東洋大学教授の安藤和宏先生。第1回著作権研修会「契約書の読み方講座」では契約書の読み方や作成、トラブルなく相手と内容を交渉する方法などを教えていた。著作権法には氏名表示権が明記されているが、著作者名を表示させるには指示が必要。かつての音楽業界では多くの著作者が氏名の表示を厳しく求めて

いたため、指示がなくても表示することがテレビ業界の常識となっていたという。私の記憶でも昔の歌番組では作曲家や作詞家名が大きく表示されていた。しかし、うるさく言う人が少なくなると、この商習慣は変化してしまったという。これは私たちの仕事でも起こりうる問題であろう。普段、トラブルを生まないよう権利や条件に目をつぶることがあるが、みんなが目をつぶり続けていれば、いつの間にか当たり前になり、商習慣が変わってしまう。日々の自覚が大切だと改めて実感した。

（東京都足立区在住）

◆佐藤仁重（2004年入会）

THE BIG APPLE とは NY のニックネーム。私が NY を初めて訪れた時、まだ地下鉄は落書きだらけ、街にはゴミが落ち、危険な香りが漂っていました。芸術・流行・経済の先端、その刺激的な街の魅力に惹かれ、長年通い続けています。様々な出会いを、テーマである光と影を求めて撮影を重ね、写真集『THE BIG APPLE』（日本カメラ社）の出版に至りました。写真家としての私を育ててくれた街、それが NY です。

（東京都千代田区在住）



◆由木毅（2003年入会）

21世紀。葛飾北斎の絵画が、世界的に最も優秀な作品と称賛された。日本の四季というが、12ヵ月上旬、中旬、下旬に分ければ、実に36旬にもなる。列島に折り成す彩りは、千差万別に変貌し、民族もまた、季節の移ろいに感性を研ぎ澄まされてきた。日本人特有の繊細にして豊かな創造性は、庭園、食文化、文学、芸術などにも見て取れる。列島の厳しい自然に培われてきたが、創造性豊かな写真は、撮れているのかとここにきて悩む。

（和歌山県和歌山市在住）

◆荒川好夫（1981年入会）

2010年「ジオフォトサロン写真展「北海道冬 C62 62光の記録」から8年経った今、一部内容を変えた写真集『C62重連最後の冬』を作って頂きました。鉄道業界ではC62と言う蒸気機関車は今でも、反響が多いそだらかのことと、自らも印刷物としても残しておきたかったことからなのです。今からおおよそ50年前の記録をハードカバーの一冊にして頂き感

謝です。すべてモノクロームですが一枚一枚にあの頃の記憶が現実となつて蘇つてきました。1日の殆どを氷点下の中で列車を待っていたこと、ダッキングマシーン、リズミカルな入鉄、ホームのアナウンス、発車の気笛、転むブレーキ、車体にタブレットが当たるなどそれぞれの本来は聞こえる筈のない音までが、私には聞こえてきます。もう少しオーバーに表現すると煙の匂いでも匂つてきます。今日とくの昔に忘れていたことも。「記録とは素敵なことだ!」と再確認しております。

(東京都杉並区在住)



◆根岸亮輔 (2015年入会)

『懷石料理の調理技術』の料理本では、季節感を大切にしたいとのことでしたので、1年以上の時間をかけて旬の素材を使いながら撮影を行いました。

お皿に盛りつけられた料理をナチュラルな表現で美味しそうに撮影するには、撮影技術はもとより、調理人とのコミュニケーション能力が大切です。

料理が出来上がるタイミング、撮影出来るタイミングが一致した時に美味しい料理写真が撮影出来ると思っています。

このような技術本では、盛りつける器や盛りつけられた料理の隅から隅まで表現することが求められ、したがって全体にピントを合わせる必要があります。料理の撮影では近接撮影が一般的であり、深度が浅い状態で全体にピントを合わせることは技術的に大変ですが、撮影機材の進歩で、タイミングを見逃さず撮影することが出来ました。

(東京都世田谷区在住)



◆堀江重郎 (2010年入会)

世界屈指の降雨量を誇る屋久島は、年間雨量が山間部では10,000mmに達し、半端ない豪雨で猿や鹿など、動物及び植物も命を落とすことがあります。人々は降



りやまぬ雨に嘆きながらも、恵の雨に感謝しながら日々を過ごしています。雨、すなわち水は年間降雨量から5億トンが屋久島にあるとも言われています。その水の島で2000年から2014年まで、水は海から始まり海に返るという循環を、四季を通して追いかけました。そうした中で水は様々な命を育む一方、音色は癒しにもなるが、悪魔にもなるということを思い知らされます。特に豪雨の撮影では近くに落雷があり、屋久島の神々から自分も試練を与えたのだだと感じながら命がけの撮影もありました。今回、14年間の集大成で屋久島の水に関するドキュメントをまとめた『屋久島 神々からの伝言』を刊行することができました。

(鹿児島県屋久島町在住)

◆小城崇史 (2000年入会)

2年ぶりに個展を開催します。前回個展(2016年12月)の作品は全てデジタル一眼レフによる撮影でしたが、今回の展示は全てミラーレスカメラを使い、Profoto B1Xによるライティングで様々なスポーツを撮り下ろしました。ミラーレスカメラが10年前に産声を上げたとき「まさかこれでスポーツを撮るなんて」と思ったのですが、作品の方向性を考えたらむしろ積極的にミラーレスカメラを選択することになりました。技術の進歩と革新には驚くばかりです。東京展は既に終了していますが、2019年1月に大阪展を開催します。トークイベントも予定していますので、ぜひお越しください。

小城崇史写真展「Exciting Moment of Sports Vol.1」オリンパスギャラリー大阪
2019年1月18日(金)～24日(木)10:00～18:00 最終日15:00まで トークイベント 2019年1月19日(土)14:30～
(東京都港区在住)



◆山本皓一 (1975年入会)

世界の大河の中で本流が7つの国と地域を滔々と流れるのはメコン河だけだ。いま、その大河に嵌っている。ここ3年ほど間に4回も流域を「漂流」した。長期間、無目的に歩き回ると眼が洗われるような事象が見えてくる。異なる民族の言語、宗教、風俗、生活そして文化などの価値観の落差だ。それらが歴史を超えて共存し均等に大河の恵みを受けている。

すでに老骨に至り足腰も弱ってきたが、人生の黄昏



に向かういま、少年の頃から夢を見続けた「秘境」その想いがメコンに象徴されているようだ。私のメコン漂流はまだまだ続きそうな予感がする。

(東京都板橋区在住)

◆結解 学 (2004年入会)

日本国有鉄道が解体され、JRの旅客会社6社と貨物会社に分割されてから31年が経った。国鉄という言葉は40代以上の人でないとピンとこないだろう。

今回その31年間のJRの動きをダイヤ改正毎にまとめた本を出版するに至った。国鉄の末期から日本の鉄道を振り歩き、JRになってからも日本中の鉄道と向かい合って、今改めてみると、日々刻々と鉄道が変わる様子がうかがえる。新幹線が延びるにつれ夜行列車が廃止になり、古い車両に変わって新しい車両も続々と生まれてきた。古いポジフィルムを引っ張り出すと、撮影した当時の想い出が蘇り、当時新車だったが今では引退の時期を迎えている車両もあった。写真はその時代を映す鏡であることに違いない。

(神奈川県相模原市在住)



◆矢島公雄 (1977年入会)

「会報に苦言」

会報160号35ページに掲載の「記録メディアを賢く使いこなすポイント」という記事の中で「容量いっぱいまで使い切らないことも、記録メディアを長く使う秘訣になります。」と記載されましたので、これは新情報だと思い多くの写真愛好者にお伝えしてきたのですが「それはありえない。デマ情報だ!」と指摘されてしまいました。JPSが取材したサンディスクに問い合わせたところJPSの記事は誤解です。ということでした。

会報担当者様には毎号ご苦労なことだと存じますが誤解を与えるような記事を掲載しないでください。

(東京都世田谷区在住)

※ 会報160号掲載の「記録メディアを賢く使いこなすポイント」の記事の中で、誤解を招く表現がありました。ご指摘を受けてサンディスク広報に確認したところ、「容量いっぱいまで使って問題になるのは、寿命ではなく撮影後のパフォーマンスの低下です」との回答でした。

ここにお詫びして訂正します。

(記／出版広報委員会)

ドナルド・キーンのまなざし（表紙写真）——宮澤正明

「第六十二回神宮式年遷宮」にて正式記録写真家として撮影した記録写真集『遷宮』の推薦文をドナルド・キーン氏（コロンビア大学名誉教授）に提供していただいた出会いから始まり、ときには書斎で、ときには新潟柏崎の地で、そして英国の旅の道中でも、シャッターを切り続けた2年間の集大成の作品展を、旧古河邸 公益財団法人 大谷美術館の築100周年を記念して開催しました。（写真展「旧古河邸+庭園築100周年記念〈ドナルド・キーンのまなざし〉」）

ribbon 01（表4写真）——安 珠

大きなリボンが印象的な岡本太郎作「傷ましき腕」（1936年制作、1949年再制作）へのオマージュとして制作。「傷ましき腕」は戦時下の暗い作品だが、私は腕の皮膚が剥けた傷ましさより、顔のない頭につけられたリボンの生命力に釘付けとなつた。そのときに思うのである。『リボン』は「無限」の記号と同じカタチ。「無限」を頭に飾るのは「少女」の特権。少女の永遠性と生命力を『リボン』に託し、シリーズ化して撮影する第一号。（写真展「ビューティフルトゥモロウ～少年少女の世界～」）

◆ JPS ギャラリー

子猿を抱く少年——足立君江

2005年、シェムリアップの郊外にあるアキラ地雷博物館で出会った少年、ヴィチャエット君。内戦後、兵士であったアキラ氏が自分で埋めてきた地雷を撤去するための活動を続け、博物館として公開し、被害を受けた子どもたちと生活を共にしていた場所です。施設が40キロ先に移転した際、彼は村に帰り消息は不明とのこと。内戦時にカンボジアで使用された地雷は35種類と言われ、昨年も被害が出ています。

刹那 東京で——熊切大輔

人が生み出す瞬間を切り撮りたい。そんな思いで街をスナップしながら歩いている。思わぬ瞬間は突然訪れる訳ではない。何かが起こる予感を感じながら街を観察すれば、予測の上で起こる偶然を捉える事ができるのだ。イベントが行われている台場では様々な格好の若者がうろついている。派手な男と黒尽くめの女の出会いは写真の中だけで、ランデブーはすれ違って過去のものとなっていく。そんな刹那に起こるドラマを撮り続けていきたい。

長浜大橋——上岡弘和

日本各地に約50橋ほどもある「可動橋」。その存在は、実はあまりよく知られていません。そこで今回は、「可動橋の今」を求めて、日本全国を巡りました。

かつて開いていた橋、また、今も尚、地域のシンボルとして可動している橋たちを、大型カメラによるフィルム撮影にて、丁寧にかつ、ダイナミックに表現しています。

ここだよー——叶 悠真

日本中でシャンシャンフィーバーが巻き起こっています。

シャンシャンを観覧するには開園（9時30分）前から2～3時間、行列に並ぶのは当たり前の状況でした。観覧は、1日1回のルール付きで観覧時間が30秒制限と屋外部分に高さ2メートル超のガラス柵に戸惑いました。2月21日～6月20日まで毎日欠かさずシャンシャンを撮り続けました。

一妻多夫——前田憲男

ここは6月初旬の伊豆天城山中、この年も繁殖シーズンに恵まれた。この場所のモリアオガエルは綺麗な斑紋が出る個体が多い。モリアオガエルの繁殖は樹上で行われることが多く、メスが産卵に適した場所に移動を開始すると、オスが次々と集まつてくる。複数のオスにしがみつかれながら、木の枝が水面上に張り出した気に入った所に来ると産卵が始まる。集まつたオスが後ろ足で白い産泡を搔き回し、その中に卵が産みつけられる。

黄葉輝く——梶山博明

「ビクトリア女王が暮らすのにふさわしい美しい街」と呼ばれるクイーンズタウンはニュージーランドの南島ワカティプ湖のほとりにある小さな街。世界中の多くの人が暮らしたいと望む素敵な場所だ。一歩郊外に出るとポプラ並木で仕切られた羊の牧場が現れた。午後の斜光に輝く黄葉の前を羊たちが気持ちよさそうに行進していた。ポプラの配置と羊たちの動きのバランスを考えながらシャッターを押した。

◆ FUJIFILM X ギャラリー

Blue Drifting——大野雅人

今年、フランスで開催された「アルル国際フォトフェスティバル」でサテライト展示された「Blue Drifting」から一枚。

日本には「青春」という言葉がある。人生において、勉学、運動、出会い、別れ、異性との交流などの経験を、氾濫する情報の中で、若く未熟でありながらも、元気で生命力にあふれた気持ちで過ごす時期や時代を示す言葉だ。「青」の表現は、若さや未熟さを示す色として用いる場合がある。

ダージリン リシーハット茶園——松岡誠太朗

新芽の産毛や細かく碎かれた茶葉が揺すられて空中に舞うので、マスク代わりに布を巻いた女性たちが、茶葉がまとまらないように網の上にまんべんなく広げて、茶葉が選別されやすいように作業している様子。

ガタガタと網の上を乾燥した荒茶が揺すられて、細かい茶葉ほど下の網棚へと落ちてゆく。メッシュの大きさが違う棚が何層にも重なって揺らしながら茶葉の等級を選別する作業を、「ソーティング」といいます。

新緑映える——落井俊一

日本最大の貯水量を誇る岐阜県の徳山ダムでは、ダム湖の自然や生態系を大切にするため、年に2、3回参加者を募り自然観察の為の船を出してその啓蒙をしている。

この作品は、その船に乗り機会を戴き船上から撮影したもので、静寂な湖面に立ち枯れがユラユラと映っていた。新緑とのコラボにより老いやく哀愁と新たな生への輪廻を感じた。

受賞・出版・写真展 2017年・日本写真家協会会員 (1月~12月)

作品による会員の動きを記録する意味から年1回受賞・出版・写真展をされた方々の記録を掲載しております。資料は会員のアンケートの回答をもとに作成しておりますので掲載もれもあることと思いますがご了承下さい。

■受賞

会員名	受賞名	時期	理由
伊藤 勝敏	伊豆賞	2/10	伊豆の海の魅力を発信し続けて活動し、功績を残した海中写真家として
宇井 真紀子	第1回篠本恒子写真賞	12/13	25年以上にわたって、日本の先住民族アイヌの人たちの生活と文化を記録し続けた姿勢を評価
大塚 勝久	石垣市政功労賞<文化部門>	7/10	多年にわたり、写真家活動をとおし石垣市の自然・文化の発信に努められ、市政の進展に大きく貢献された功績に対して
大西 みつぐ	日本写真協会賞作家賞	6/1	近年では写真集『川の流れる町』や映画制作など、新たなテーマの映像化を試み、その広がり続ける長年のライフワークに対して
近藤 誠宏	岐阜県芸術文化顕彰	3/27	芸術文化の分野において、すぐれた業績をあげ、文化振興に多大なる貢献をしたことに対して
杉山テルゾウ	文化功労賞 (モンゴル国より)	10/13	モンゴル国宝、首都ウランバトルを永年記録し歴史を残したことに対して
福田 俊司	原始のロシア	1/20	海外から招待された唯一の作家であり、ロシア自然写真家協会会員に推薦された。
細江 英公	旭日重光賞	11/3	長年の写真界への業績に対して
丸田 あつし	第68回全国カレンダー展銀賞	1/	パナソニック株式会社 2017事業カレンダー

■出版 (写真集・写真関係著書・電子書籍・CD-ROM・DVD・ビデオ等)

会員名	著書名	発行所	発行/	定価
青木 勝	Hello,Goodbye	イカロス出版	1/20	3,800
青木 純二	冬季オリンピック報道の世界～1984 サラエボから 2014 ソチまで～	アフロ		—
青木 純二	クライアントワーク Part1	アフロ	12/13	1,400
あがた・せいじ	On Stage	あがた・せいじ	7/8	—
阿部 俊一	瞬光が描く美瑛の大地	Photo Stage ACE	10/28	3,500
荒川 好夫	鉄ぶらブックス019 国鉄広報部専属カメラマンの光跡	交通新聞社	3/7	1,500
荒牧 万佐行	1967中国文化大革命	集広舎	11/22	2,500
飯島 幸永	暖流	彩流社	11/3	6,800
池口 英司	残念な鉄道車両たち	イカロス出版	10/10	1,700
泉谷 玄作	夜の絶景写真 花火編	インプレス	7/14	2,000
伊藤 孝司	記憶します～日本軍慰安婦にされた韓国・北朝鮮の女性たち～	アルマ出版社	3/31	—
岩橋 崇至	北アルプス花	日本写真企画	4/28	2,315
宇井 真紀子	アイス、100人のいま	冬青社	5/15	3,704
うえだこうじ	あした、どこかで。3 (共著)	alive	10/30	1,400
梅川 紀彦	梅川紀彦写真集 50 YEARS OF THE PHOTOGRAPHER LIFE 1963-2015	梅川スタジオ	6/1	7,800
海野 和男	海野和男の蝶撮影テクニック	草思社	12/20	1,800
枝川 一巳	写真で残そう…「日野の人びと」	枝川写真事務所	5/1	—
(故)大竹 省二	PASSAGE -旅の行方-	JCII フォトサロン	1/5	800
おちあいまちこ	青いろノート -空と海と魚たち	いのちのことば社	4/1	1,400
小野 吉彦	ライト式建築 (共著)	柏書房	7/10	2,800
小野 吉彦	お屋敷拌見 新装版 (共著)	河出書房新社	8/30	1,600
勝田 尚哉	建設中。	グラフィック社	9/25	1,900
川口 邦雄	光・山・憧憬	日本カメラ社	12/10	3,500
北川 季次	百年先の笑顔へ	智書房	8/15	1,111
(故)木之下 晃	石を聞く肖像	JCII フォトサロン	10/3	800
木村 芳文	白山自然態系 手取川 (共著)	北國新聞社	7/1	2,000
金城 真喜子	野に漂う	北斗社	11/	1,500
熊切 圭介	三都物語り -ウイーン・プラハ・ブダペストの鉄-	熊切圭介	3/	—
桑原 史成	清溪川 (チヨンゲチヨン)	ヌンビ出版	4/	—
桑原 史成	英伸三 / 桑原史成ドキュメンタリー 100 (共著)	現代写真研究所出版局	7/6	1,000
源明 輝	鉄道で巡る日本の絶景	ジーウォーク	6/29	1,667
越信 行	生涯一度は行きたい春夏秋冬の絶景駅 100 選	山と渓谷社	11/25	1,600
小城 崇史	プロの現場から学ぶ Photoshop Lightroom CC/6 RAW 現像と管理&補正入門	技術評論社	7/30	2,340
小西 貴士	倉橋惣三を旅する 小さな太陽 (共著)	フレーベル館	7/12	1,300
小松ひとみ	みちのく色語り	クレオ	10/25	2,800
近藤 晃	“羽田の空”100年物語	交通新聞社	2/15	900
齊藤 嶽堂	フクロウとコミズク	彩流社	3/7	1,944
櫻井 寛	列車で行こう！JR全路線図鑑	世界文化社	8/1	3,200
櫻井 寛	世界鉄道切手夢紀行	日本郵趣出版	8/15	1,700
鷗田 忠	雪の妖精 シマエナガ	銀河出版	12/5	1,500
清水 薫	琵琶湖を巡る鉄道 湖西線と10路線の四季	サンライズ出版	5/15	2,200

会員名	著書名	発行所	発行/	定価
清水 哲朗	うまたび	玄光社	11/30	2,000
周 剣生	世界遺産 BRICS 全集	青島出版社	8/1	4,900
周 剣生	世界遺産全集中国巻	青島出版社	9/1	30,000
鈴木あやの	2018 ドルフィンスイムカレンダー	ハゴロモ	10/9	1,800
高砂 淳二	LIGTH on LIFE	小学館	8/5	2,400
高橋喜代治	ラブリーパード PART4	創英社	9/1	2,000
宅間 國博	ベンキのキセキ	雷鳥社	11/20	1,600
竹内トキ子	2018 カンガ - こころの富士	辰巳出版	9/	1,050
田中 博	東京トンボ日記	自費出版	3/9	2,000
谷 泰宏	2018 カンガ - 記憶に残したい原風景	サンメッセ	11/1	-
田沼 武能	ふる里懐々 武蔵野日記 PART II	田沼武能	1/6	2,000
田沼 武能	東京わが残像 1948-1964	クレヴィス	10/31	2,315
辻本 勝英	PROMETHEUS プロメテウス	日本カメラ社	11/30	3,000
徳永 克彦	蒼空の視覚 Super Blue 3	廣済堂出版	3/7	12,500
富塚 晴夫	四季の富士山 vol.3	ファンック	10/1	-
トム 岸田	DVD 振、刀装具の美 高山一之の世界	テレビせとうちクリエイト	10/	8,000
中川喜代治	菊川英山	太田記念美術館	11/2	2,500
長倉 洋海	フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼 -地を這い、未来に駆ける	クレヴィス	3/10	2,130
中田 昭	京都 和モダン庭園のひみつ (共著)	ウェッジ	10/20	1,600
長野 良市	ゼロの阿蘇 vol.4	九州学び舎	1/20	500
長野 良市	熊本地震・益城町寺泊 Vol.1	一般社団法人九州学び舎	2/15	500
長野 良市	ゼロの阿蘇 500日の記録 (書籍とDVD)	九州学び舎	12/25	各2,000
中村 征夫	永遠の海	クレヴィス	8/17	2,000
中村 征夫	極夜	新潮社	12/25	1,600
奈良原 一高	HUMAN LAND 人間の土地	復刊ドットコム	8/20	8,000
西野 嘉恵	鯨と生きる	平凡社	6/23	4,500
西村 豊	よつごのこりすシリーズ③ あっくんのおくりもの	アリス館	2/26	1,400
野沢 敬次	大阪府の鉄道 昭和~平成の全路線	アルファベータブックス	7/5	2,400
ハービー・山口	良い写真とは? 摂る人が心に刻む 108のことば	スペースシャワーブックス	3/31	1,600
ハービー・山口	You can click away of whatever you want:That's PUNK	スーパーラボ	5/	3,800
ハービー・山口	The Beginning of a Journey: Project Polinir	バルコ出版	7/15	3,500
ハービー・山口	Timeless In Luxembourg 1999 ~ 2017	スーパーラボ	11/27	3,800
芳賀日出男	写真民俗学 東西の神々	KADOKAWA	3/27	2,500
芳賀日出男	写真で巡る折口信夫の古代	KADOKAWA	12/25	1,560
蓮野日出男	郵便ポストのある風景	蓮野日出男	8/17	-
英伸三	英伸三 / 桑原史成ドキュメンタリー 100 (共著)	現代写真研究所出版局	7/6	1,000
樋口 健二	忘れられた皇軍兵士たち	こぶし書房	6/30	2,000
鴻学敏	中國印象	中国国家観光局	6/	-
鴻学敏	貴州印象Ⅱ	貴州観光局	10/	-
福田 俊司	鶴鳩	文一総合出版	9/13	3,700
福田 豊文	柴犬 よみがえる縄文犬 (共著)	河出書房新社	11/28	2,200
前川 貴行	動物写真家という仕事	新日本出版社	9/10	2,600
増田 彰久	見に行ける 西洋建築 歴史さんぽ (共著)	世界文化社	4/20	1,700
増田 彰久	イギリスの産業遺産 (共著)	柏書房	5/25	20,000
水越 武	最後の辺境 -極北の森林、アフリカの氷河	中央公論新社	7/25	1,050
水野克比古	京都西陣 うたを紡ぐ (共著)	大垣書店	9/23	2,200
三好 弘一	明日もいい日に	アイノア	7/18	1,000
持田 昭俊	東京のでんしゃのいちにち	小峰書店	1/27	1,200
本橋 成一	バオバブのことば	ふげん社	10/10	2,300
森井 紹	東海道五十三次 祭り旅	ダイコロ	8/1	3,500
森田 敏隆	日本の原風景 城 (共著)	光村推古書院	6/7	2,800
諸河 久	モノクロームの東京都電	イカロス出版	12/30	2,200
八田 公子	博多祇園山笠 夏の風	日本写真企画	6/20	2,500
箭内 博行	ニッポン とっておきの島風景	パイインターナショナル	7/12	1,900
山岸 伸	瞬間の顔 Vol.9	山岸伸写真事務所	3/17	1,852
山岸 伸	靖國の桜	徳間書店	6/21	4,200
山本 治之	ぶな林彷徨 -美しきぶな林の四季-	オノウエ印刷	9/30	2,800
横塚眞己人	ふれあい写真えほん どこにいるの イリオモテヤマネコ	小学館クリエイティブ	2/26	1,400
吉田 昭二	TRANSPARENCY	日本カメラ社	1/15	3,000
吉野 雄輔	月刊「たくさんふしぎ」通巻391号「海のかたち ぼくの見たブランクトン」	福音館書店	10/1	667
吉村 和敏	MORNING LIGHT	小学館	3/6	3,000
吉村 和敏	錦鯉 Nishikigoi	フォトセレクトブックス	5/15	3,700
吉村 和敏	RIVER 木曽川×発電所	信濃毎日新聞社	6/1	2,500
米美知子	桜もよう	文一総合出版	3/15	3,500
和田 光弘	青森はいつも美しい (美景周遊)	東奥日報社	10/22	1,800
渡辺 千昭	聖山 永遠のシャングリラ	日本カメラ社	2/20	4,500

■写真展 (一門展・巡回展・常設展などの写真展は省略させていただきました)

会員名	写真展名	会期	会場
青木 勝	YS-11 機伝説	6/10 ~ 7/9	所沢市・所沢航空発祥記念館
青木 紘二	冬季オリンピック報道の世界 - 1984 サラエボから 2014 ソチまで -	11/30 ~ 2/3	キヤノンギャラリー S
青木 紘二	青木紘二クライアントワーク Part1	12/14 ~ 12/26	キヤノンギャラリー銀座
青山 清 寛	古稀燐燐	12/15 ~ 12/17	富山県民会館 A ギャラリー
あがた・せいじ	On Stage	7/8 ~ 7/16	小平市・シラヤ アートスペース
秋田 好 恵	白い音	12/18 ~ 12/23	中央区・Gallery 風
浅井 秀 美	東京下町日和 / 競馬と共に 50 年	5/20 ~ 6/4	埼玉県・ムクゲ自然公園 森の美術館
阿部 俊 一	瞬光が描く美瑛の大地	11/8 ~ 11/20	リコーアイメージングスクエア新宿 ギャラリー II
阿部 典 子	思い出のノーサイド GO	1/12 ~ 1/17	札幌市・道新ぎゃらりー
荒川 好 夫	井の頭線の変遷と高井戸付近の昔	10/7 ~ 10/8	杉並区高井戸地区民センター
荒牧 敬 太郎	里山賛歌	8/11 ~ 8/13	調布市文化会館たづくり 2F 南ギャラリー
安 珠	Invisible Kyoto - 目に見えぬ平安京 -	3/11 ~ 6/8	京都市・ライカギャラリー京都
飯田 秀 雄	妙義点描 さくらの里 40 年のあゆみ	2/9 ~ 2/14	高崎市・高崎 NTT ユーホール
飯田 裕 子	安房国ノ情景	2/20 ~ 2/28	コミュニケーションティガーデンリーフ&ルート
飯田 裕 子	光の道 長崎	8/2 ~ 8/20	中央区・教文館 3階ギャラリーステラ
池田 勉	潜伏・長崎かくれキリシタン今昔	11/15 ~ 11/21	銀座ニコンサロン
石橋 瞳 美	和風抄	1/19 ~ 1/25	キヤノンギャラリー梅田
石橋 瞳 美	熊野・神々の大地	11/25 ~ 12/11	キヤノンオープングallery 1
井田 宗 秀	BREAKINGSCAPE	8/23 ~ 8/29	銀座ニコンサロン
伊藤 勝 敏	素顔の海	6/29 ~ 10/10	伊東市・池田 20 世紀美術館
猪井 貴 志	鉄景漁師	6/22 ~ 8/8	キヤノンギャラリー S
井ノ元 浩 二	Contact(触れあい)	11/22 ~ 11/27	渋谷区・Space Jing
今泉 潤	キタキツネの大地	2/17 ~ 2/22	富士フィルムフォトサロン札幌
今森 光 彦	琵琶湖の便り、里山からの贈り物	3/8 ~ 5/18	江東区・ギャラリーエーカワッド
今森 光 彦	写真&ベーパーカット展 楽園の昆虫たち	6/12 ~ 9/1	中央区・ノエビア銀座ギャラリー
岩崎 和 雄	重要文化財 自由学園 明日館 講堂	5/5 ~ 5/11	ギャラリー・アートグラフ
岩橋 崇 至	北アルプス	4/25 ~ 5/28	松本市・上高地インフォメーションセンター
岩橋 崇 至	大地の貌	4/28 ~ 6/4	長野県・安曇野市農科近代美術館
岩橋 崇 至	北アルプス花	9/13 ~ 9/25	リコーアイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II
宇井 真 紀 子	アイヌ、100 人のいま	6/8 ~ 6/14	キヤノンギャラリー銀座
内山アキラ(最)	白鳥賛歌 - 命の輝き -	11/7 ~ 11/12	中央区・藤屋画廊
宇納 敏	フォトレーション花	4/19 ~ 4/24	町田市フォトサロン
海野 和 男	蝶・舞う	3/31 ~ 4/5	オリンパスギャラリー東京
海野 和 男	海野和男 見虫写真名作展	8/5 ~ 9/3	小諸市立小諸高原美術館
枝川 一 巳	写真で残そう…「日野の人びと」	5/31 ~ 6/4	日野市・ひの棟瓦ホール
榎並 悅 子	109 歳園長☆未来へのバトン	2/10 ~ 2/16	富士フィルムフォトサロン東京
大石 芳 野	黒川龍の里 庄内にいだかれて	10/11 ~ 10/28	ギャラリー「分の 1」
大石 芳 野	「フクシマ」土と生きる人びとは、いま	11/1 ~ 11/5	宮城県立美術館 県民ギャラリー 2
太田 有 美 子	森の言葉	12/6 ~ 12/11	逗子市・zushi art gallery
大西 み つ ぐ	川の流れる町で	3/21 ~ 4/8	コミュニケーションギャラリーふげん社
大沼 英 樹	幸福の種まき桜	4/20 ~ 4/28	キヤノンギャラリー仙台
大山 謙 一郎	Pigalle	12/22 ~ 12/27	オリンパスギャラリー東京
小倉 隆 人	'16 ~ '17 吉野川源流 - 剣山系から	12/24 ~ 1/28	吉野川市・喫茶 花杏豆
越智 信 喜	京・四季彩	12/5 ~ 12/17	京都市・レティシア書房
おちあいまちこ	今日もいいことありますように	6/25 ~ 6/30	福岡市・Sony Store 福岡天神 2F
織 作 峰 子	Reminisce my Aotearoa	4/28 ~ 5/10	富士フィルムフォトサロン東京
勝田 尚哉	建設中。出版記念展	11/28 ~ 12/4	渋谷区・アメリカ橋 Gallery
金井 杜 道	WOOD NOTE/GELATIN SILVER + PLATINUM	2/4 ~ 3/5	世田谷区・Monochrome Gallery RAIN
叶 悠 良	会津	9/29 ~ 10/5	富士フォトギャラリー銀座
上山 益 男	写真人生 50 年 +1 年	8/3 ~ 8/31	岩手県・花巻市立大迫図書館
刈田 雅 文	ハコモリ	11/24 ~ 12/1	フォトギャラリーアルティザン TOKYO
川口 邦 雄	光・山・憧憬	11/17 ~ 11/23	フレームマン エキシビションサロン銀座
川隅 功	雨・霧・雪の情景	2/9 ~ 2/14	富士フィルムフォトサロン仙台
川畑 秀 樹	Descent of the Bodhisattva - 菩薩降臨図 -	4/14 ~ 4/27	ソニーイメージングギャラリー銀座
菊池 哲 男	アルプス星夜	1/6 ~ 1/11	富士フィルムフォトサロン福岡
菊地 晴 夫	日本で最も美しい大地 - 美瑛 丘のある風景	5/19 ~ 5/25	富士フィルムフォトサロン名古屋
木村 芳 文	厳かに高まる白山	10/14 ~ 10/29	白山市・市民工房うるわし 2 階
木村 芳 文	天と地と白山	10/17 ~ 10/29	金沢 21 世紀美術館 市民ギャラリー B
金城 真 喜 子	女ともだち そして 私	11/8 ~ 11/20	リコーアイメージングスクエア新宿 ギャラリー I
ワキモトノリコ	恋する天使と涙の惑星	9/15 ~ 9/28	オリンパスギャラリー大阪
熊切 圭 介	Caoagahan	1/28 ~ 3/20	あーすぶらぎ 3 階 企画展示室
熊切 圭 介	三都物語り ウィーン・プラハ・ブダペストの鉄	3/2 ~ 3/8	キヤノンギャラリー銀座
熊切 大 輔	東京動物園	9/29 ~ 10/5	ギャラリー・アートグラフ
公文 健 太 郎	耕す人	1/5 ~ 1/18	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
公文 健 太 郎	英さんのバラ - 愛され続けた家と庭 -	7/4 ~ 7/15	渋谷区・ピクトリコギャラリー表参道
桑原 史 成	激震・韓国 - 分断国家の苦悩 -	1/27 ~ 2/6	豊島区・床屋ギャラリー
桑原 史 成	チヨンゲチョン	4/27 ~ 7/30	ソウル市・清溪川博物館

会員名	写真展名	会期	会場
河野 英喜	伝承の技 石見神楽面	11/28～12/11	ニコンプラザ新宿 THE GALLERY1
小澤 太一	COLORS - LAOS, DON DET	6/30～7/6	富士フォトギャラリー銀座
小城 崇史	つなぐ音つむぐ人	7/6～7/25	NAAアートギャラリー
小西 貴士	森のようちえん～森の子どもダイアリー～	7/15～9/18	アクリアマリン福島
小林 恵	潮路の譜	3/29～4/11	銀座ニコンサロン
小林みのる	おはよう、横浜。～港の見える丘の朝～	2/23～2/28	横浜市・山手234番館
小林みのる	旅晴れ。～南よりの風、風力1～	10/4～10/14	EIZO ガレリア銀座
小松ひとみ	みちのく色語り	9/29～10/5	富士フィルムフォトサロン東京
小山貴和夫	その時シャッターを押した－私が写した歴史の断片－	10/3～10/8	中央区・Roonee247 fine arts
近藤晃	羽田の空100年物語	8/21～9/4	羽田空港第一ターミナルビル6階展示スペース
近藤誠宏	東風の吹く	5/4～5/9	岐阜市・ロイヤルホール ロイヤル劇場ビル3F
桜井秀	ノスタルジックな道 ルート66	3/14～4/24	キヤノンオープングallery-1
笹本恒子	篠本恒子写真展	11/11～11/19	鎌倉市・鎌倉芸術館1F ギャラリー1
佐藤尚	47ぼくのより道～ガイドブックにないニッポン探訪	3/3～3/9	富士フィルムフォトサロン東京
佐藤仁重	NIKKO～出会いのとき～	7/3～7/29	千代田区・LUMIX CLUB PicMate PHOTO GALLERY
三田崇博	～「こんにちは」は世界をつなぐ～ "Hello"Unites the World -	1/4～1/19	フジフィルムスクエアミニギャラリー
三田崇博	世界で出会った景色33	3/20～3/26	生駒市・東生駒ギャラリー宗
三田崇博	「四季奈良」FOUR SEASONS IN NARA	4/28～4/30	香港・走馬燈
三田崇博	MYANMAR TIME	6/16～6/20	佐世保市・アルカス SASEBO 交流スクエア
三田崇博	世界三十六景	7/12～7/17	名古屋市・愛知芸術文化センター アートスペースH
三田崇博	Earth Color FURANO × WORLD	10/27～18/10/	北海道・フローラ亭留ギャラリー
柴田明蘭	小さな京都の物語	11/15～11/25	EIZO ガレリア銀座
渋谷利雄	知られざる能登の奇祭	8/7～8/27	輪島市・輪島市民ギャラリー「いろは蔵」
島内治彦	新・播磨国風土記	6/23～6/28	オリンパスギャラリー東京
島田聰	市場	6/23～7/5	大韓民国仁川広域市・写真空間「ペダリ」
清水淳	UNDERWATER PHOTOGRAPHER	11/3～11/8	オリンパスギャラリー東京
清水哲朗	Anchin	11/24～11/29	オリンパスギャラリー東京
下瀬信雄	つきをゆびさすII	1/19～1/25	大阪ニコンサロン
周劍生	周劍生 BRICS 世界遺産写真展	8/30～9/2	中国・北京保利博物館
周劍生	アモイ BRICS 会議国世界遺産写真展	9/3～9/10	中国・アモイ・コロンス島
白井厚	僕	9/21～9/27	キヤノンギャラリー銀座
杉本恭子	阿智村の里～彩と風～	7/20～7/26	キヤノンギャラリー名古屋
杉本恭子	阿智村～やさしい風の吹く里～ PART1	8/25～8/31	富士フォトギャラリー銀座
杉本奈々重	-シチリア島を旅して-	4/1～4/28	Nikon 新宿 フォト・プロムナード
杉山テルゾウ	モンゴル国宝・秘宝／ウランバートル 1983～2016	10/13～10/23	モンゴル国立・ザナバザル記念造形美術館
鈴木あやの	イルカと泳ぐ～Swim with Wild Dolphins～	5/9～5/20	EIZO ガレリア銀座
鈴木あやの	ドルフィンスイムカレンダー出版5周年記念写真展	11/1～12/31	永田町オーラン
鈴木智明	木曾の冬	12/21～12/28	名古屋市・フォトサロン サン・ルウ
須田一政	IN A FLASH	2/18～4/1	横浜市・ギャラリー・パストレイズ
平寿夫	Forest of Nature Worship 自然崇拜の森	6/1～6/30	京都市・JARFO 京・文博
平寿夫	砂曼荼羅	8/27～9/8	奈良町資料館
平寿夫	イエメン ソコトラ島の貌	11/8～11/22	京都市・サターミナル キョウト
高砂淳二	- Dear Earth -	7/29～10/1	高岡市・ミュゼふくおかカメラ館
高砂淳二	Light on Life	8/14～9/4	ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1・2
高橋与兵衛	諸仏巡礼	3/24～4/2	新潟市・砂丘館、胎内市美術館
高屋力	山陰を行く「黒い瑞風」	4/25～5/30	福知山市・福知山市観光ギャラリー
宅間國博	Kind of Blue+	6/20～6/25	港区・Spiral Garden
竹沢うるま	旅情熱帶夜	8/3～8/10	キヤノンギャラリー銀座
竹田武史	バーシャ村の一年	1/4～1/13	コニカミノルタプラザ ギャラリーC
田中達也	螢の写真展	4/21～4/27	富士フィルムフォトサロン大阪
田中博	東京トンボ日記	3/9～3/15	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
田沼武能	ふる里悠々 武蔵野日記 Part II	1/6～1/18	ポートレートギャラリー
田沼武能	時代を刻んだ貌	2/23～4/9	練馬区・練馬区立美術館、薩摩川内市
田沼武能	練馬ゆかりの文化人	2/23～4/9	練馬区・石神井公園ふるさと文化館分室
田沼武能	子どもは時代の鏡	10/31～11/20	ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1・2
田村仁志	うつろいの中に～京都府立植物園の四季～	6/19～6/29	佛教大学四条センター
田村仁志	時の流れのままに	9/20～9/26	京都祇園ぎゃらりい西利
塚本伸爾	風の向こう側	10/22～10/29	高山市・ギャラリー遊朴館
テラウチマサト	あなたに贈るニューヨーク	6/21～7/23	リコーイメージングスクエア銀座
富井義夫	世界遺産×富井義夫-地球への讃歌	6/10～7/23	富岡市・ミュゼふくおかカメラ館
富塚晴夫	富士浪漫	9/29～10/5	富士フィルムフォトサロン名古屋
中川十内	風に吹かれてードゥンムリ村 29の家族の肖像-	11/27～12/6	中央区・ギャラリー403
中川十内	Passages of Pure and Beautiful Souls	11/28～12/16	港区・ギャラリーイー・エム西麻布
長倉洋海	フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼 地を這い、未来へ駆ける	3/25～5/14	東京都写真美術館
永嶋サトシ	Color Stream III City of TOKYO	7/19～7/29	EIZO ガレリア銀座
長野良市	ゼロの阿蘇からの一歩 「ゼロの阿蘇」から歩き始めた故郷	4/26～5/1	熊本市・アートスペース大宝堂
中村征夫	海への旅	4/22～5/8	東川町文化ギャラリー
中村征夫	永遠の海	8/9～8/21	中央区・松屋銀座八階イベントスクエア
奈良原一高	奈良原一高の愛したヴェネツィア	2/16～5/15	島根県立美術館4室
奈良原一高	華麗なる闇 漆黒の時間	3/10～4/24	キヤノンギャラリーS

会員名	写真展名	会期	会場
西沢 千晶	横浜トワイライト Season5	3/28 ~ 4/28	横浜市・ブリリア ショートショートシアター
西 村 豊	八ヶ岳 生きもの ものがたり	7/1 ~ 12/3	清里フォトアートミュージアム
野 口 健 司	大いなる大地Ⅱ -アフリカの野生動物	8/9 ~ 8/13	文京区・文京区シビックセンター1階アートサロン
野 口 翼	lighthouse V 明治期の保存灯台	7/7 ~ 7/13	富士フィルムフォトサロン東京
秦 達夫	The Master's hands	9/1 ~ 9/6	オリンパスギャラリー東京
ケア・リュウ(英 隆)	パリの肖像 1976-2016	1/18 ~ 1/31	銀座ニコンサロン
浜崎 さわこ	Rose	4/22 ~ 5/21	福岡市・hit マリナ通り住宅展示場内 谷川建設モデルハウス
林 喜代 種	響Ⅱ	4/20 ~ 5/9	武蔵野市民文化会館展示室
林 義 勝	文学のふるさとを巡る	2/27 ~ 3/10	中央区・J-POWER 本店 1F ロビー
原 田 寛	古都のかたち	2/28 ~ 3/5	鎌倉市生涯学習センター 市民ギャラリー
原 田 寛	鎌倉 四季彩光	11/1 ~ 11/6	鎌倉市・禪居院 梅洲庵
原 横 春 夫	降るほど 平林寺	5/17 ~ 5/29	リコーアイメージングスクエア新宿
H A R U K I	熱い風。	10/20 ~ 10/25	オリンパスギャラリー東京
樋 口 健 二	「原発安全神話の闇・毒ガス棄民」	3/11 ~ 4/10	ドイツ デュッセルドルフ市、イギリス
日 野 文 彦	新たなる試み	6/10 ~ 6/15	渋谷区・GALLERY ZAVA
馮 学 敏	福建・烏龍茶の故郷	7/1 ~ 7/8	京都宇治市黄葉萬福寺
馮 学 敏	茅台酒の故郷 -馮學敏貴州風情写真展	10/14 ~ 10/29	日中友好会館美術館
平 塚 音 四 郎	水の魅力	8/22 ~ 8/27	武蔵野市・アートギャラリー絵の具箱
広瀬 慎 也	森の記憶 京都美山・芦生原生林の四季	3/24 ~ 3/29	京都市・AMS 写真館ギャラリー 2
広瀬 慎 也	里のうた 京都北山里季香	3/31 ~ 4/5	京都市・AMS 写真館ギャラリー 2
深 澤 武	沖縄・八重山諸島～黒潮に育まれた生命	2/3 ~ 2/15	富士フォトギャラリー調布
福 田 俊 司	鴫鳩 世界でもっとも美しいカモ	9/14 ~ 9/20	キヤノンギャラリー銀座、宇都宮
藤 田 庄 市	「ひもろぎ」から 伊勢神宮第六十二回式年遷宮	10/25 ~ 10/31	銀座ニコンサロン
伏 見 行 介	Toward the Landscape -見える時、見えない時-	10/13 ~ 10/26	ソニーイメージングギャラリー銀座
藤 村 大 介	世界のまがとき 第1部 街	6/2 ~ 6/15	フジフィルムスクエアミニギャラリー
藤 村 大 介	世界のまがとき 第2部 水辺	9/22 ~ 10/5	フジフィルムスクエアミニギャラリー
ブルース・オズボーン	「ブルース・オズボーンと親子写真」～2017年『親子の日』に出会った親子～	9/15 ~ 9/20	オリンパスギャラリー東京
増 田 彰 久	アジアの近代建築遺産	1/28 ~ 4/9	横浜市・横浜ユーラシア文化館
松 原 豊	青森	4/14 ~ 4/30	三重県・gallery0369
松 原 豊	郷	7/21 ~ 8/6	三重県・gallery0369
松 原 豊	Local public bath	12/1 ~ 12/12	大阪府・gallery176
水 咲 奈 々	ひとひづり ふたつふわり～クラゲと金魚の水族館～	6/21 ~ 7/1	EIZO ガレリア銀座
水 谷 章 人	信濃路	1/5 ~ 1/11	キヤノンギャラリー梅田
水 谷 章 人	輝きの一瞬	4/15 ~ 6/4	高岡市・ミュゼふくおかカメラ館
水 本 俊 也	小鳥の家族写真展 2017	12/22 ~ 12/27	鳥取市・中電ふれあいホール
南川 三治 郎	イコンの道	4/1 ~ 5/14	山形県・白鷹町文化交流センターあゆーむ
三 好 和 義	印度眩光 -マハラジャの歳月 -	7/25 ~ 8/13	ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1・2
村 上 昭 浩	馬とはたらく	11/24 ~ 11/26	仙台市・Artgallery 杜
村 山 嘉 昭	石木川のほとりにて - 13家族の物語	9/1 ~ 9/30	新宿・BERG
茂 手 木 秀 行	星天航路	1/14 ~ 1/23	コニカミノルタプラザ ギャラリー B
本 橋 成 一	在り処	4/15 ~ 7/17	入江泰吉記念奈良市写真美術館
本 橋 成 一	本橋成一写真絵本『バオババのことば』刊行記念展	10/10 ~ 11/4	中央区・コミュニケーションギャラリーふげん社
桃 井 一 至	VORIES TIME	11/2 ~ 11/7	早稲田スコットホールギャラリー
森 田 雅 章	妖精たちの小宇宙VI	1/27 ~ 2/2	富士フォトギャラリー銀座 スペース 3
森 田 雅 章	夢幻草花	8/30 ~ 9/11	リコーアイメージングスクエア新宿
諸 沢 久	モノクロームの国鉄蒸機 形式写真館	7/20 ~ 7/26	キヤノンギャラリー銀座
八 田 公 子	博多祇園山笠 夏の風	8/21 ~ 8/29	キヤノンギャラリー福岡
山 岸 伸	瞬間の顔 vol.9	3/17 ~ 3/22	オリンパスギャラリー東京
山 岸 伸	KAO'S2	6/13 ~ 6/29	キヤノンSタワー 2階キヤノンオープンギャラリー 1・2
山 口 典 利	「風ゆらり」風景模様	1/27 ~ 2/2	富士フィルムフォトサロン名古屋
山 本 健 紀 夫	「ボーダーライン」まだ見ぬ世界へ	5/31 ~ 6/6	京都府・ぎゃらりい西利
山 本 治 之	ぶな林彷徨 -美しきぶな林の四季-	10/4 ~ 10/16	リコーアイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II、大阪
山 本 学	Japanesque	6/15 ~ 6/21	キヤノンギャラリー銀座
横 山 聰	S・nap ~その重なるイメージ	9/15 ~ 9/21	富士フォトギャラリー銀座
吉 竹 めぐみ	シリアル沙漠のベドウイン	6/10 ~ 7/17	豊島区・古代オリエント博物館
吉 永 陽 一	路 (第一部～第三部)	8/19 ~ 10/15	いわき市・ギャラリー・コールピット
吉 村 和 敏	MORNING LIGHT	3/15 ~ 3/27	リコーアイメージングスクエア新宿
吉 村 和 敏	Pond & RIVER 錦鯉×発電所	12/15 ~ 12/28	ソニーイメージングギャラリー銀座
米 美 知 子	桜もよう	3/9 ~ 3/15	キヤノンギャラリー銀座
米 田 堅 持	1000トン型巡視船を追った日々	8/11 ~ 8/17	フレームマン エキシビションサロン銀座
米 屋 こ う じ	Hello Goodbye	6/22 ~ 6/28	キヤノンギャラリー銀座
鷺 津 敬 之	NORIYUKI WASHIZU MYANMAR 黄／緑／赤	10/4 ~ 10/29	中央区・72Gallery
渡 辺 千 昭	聖山 永遠のシャングリラ	8/31 ~ 9/6	ポートレートギャラリー
渡 辺 幹 夫	フクシマ 無窮 -避難区域のいま	3/10 ~ 3/16	ギャラリー・アートグラフ

物故展 (常設展は省略させていただきました)

(故)天野 尚 NATURE AQUARIUM 展

11/8 ~ 1/14 文京区・Gallery AaMo

会員名	写真展名	会期	会場
(故)飯島忠津夫	四季巡る富士	5/24 ~ 6/29	山梨県・岡田紅陽写真美術館企画展示ホール
(故)井上隆雄	自然 おのずから しからしむ	4/28 ~ 6/11	京都市・真宗本廟参拝接待所ギャラリー1階
(故)井上博道	季 4seasons・20	11/16 ~ 12/26	木津川市・Gallery 幡
(故)入江泰吉	心の原風景 奈良大和路	1/4 ~ 3/22	FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館
(故)大竹省二	PASSAGE -旅の行方-	1/5 ~ 1/29	JCII フォトサロン
(故)木之下 晃	石を聞く肖像	10/3 ~ 10/29	J C I I フォトサロン
(故)高野 潤	高野潤を偲ぶ写真展	1/24 ~ 2/4	渋谷区・在日ペルー大使館 オーディトリアム「マチュピチュ」
(故)高村 喧	写真で見る 昭和の千駄木界隈	11/1 ~ 11/5	文京区・旧安田楠雄邸庭園
(故)土門 拳	土門拳の原点 1935-1945	1/23 ~ 3/24	中野区・写大ギャラリー
(故)藤井秀樹	写真家 藤井秀樹展	7/12 ~ 7/16	渋谷区・Space Jing
(故)渡辺英明	PEN-F を通して見たパリ	8/25 ~ 8/30	オリンパスギャラリー東京
(故)渡辺義雄	写真家 渡邊義雄-建築も、風景も、舞台も、人物も-	8/8 ~ 9/10	三条市歴史民俗産業資料館

グループ展（会員中心のものを掲載させていただきました）

グループ展名

sd Quattro x 5Photograpers

フォトジェニック

第37回JPSメンバーズ東海会員展

第12回東海メンバーズ展「HEART -心-」

ドキュメンタリー二人展

JPS2017年新入会員展「私の仕事」

4人展

20世紀に活躍した貌

会員数

会員5名

会員102名

24名

26名

桑原史成、英伸三

29名

会員4名

会員18名

1/5 ~ 1/14

1/13 ~ 1/19

2/2 ~ 2/10

7/4 ~ 7/9

7/6 ~ 7/12

7/13 ~ 7/19

8/11 ~ 8/17

11/21 ~ 11/27

EIZO ガレリア銀座

富士フィルムフォトサロン大阪、京都

名古屋市・セントラルギャラリー

名古屋市・ノリタケの森ギャラリー

ポートレートギャラリー

アイデムフォトギャラリー「シリウス」、大阪

富士フィルムフォトサロン大阪

ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1・2

日本写真家協会（JPS）入会のご案内

■申込時期：2018年12月～2019年1月

■入会日：2019年4月

●協会は1950年の創設以来、写真家の職能と地位確立著作権の擁護、啓発活動を行っています。

●わが国の写真表現の歴史を綴った「写真100年展」「現代写真史展」などを通じて、写真表現の変遷を内外に広める活動を行ってきました。最近では「日本のこども60年」「おんな」「生きる」と写真の社会性に富んだ写真展、写真集を発行しています。さらに一般公募の「JPS展」と「名取洋之助写真賞」の実施、写真界に特段の功績を上げられている方々に「日本写真家協会賞」を贈るなどを行い、「写真美術館の創設活動」、写真原板の保存収集・データベース化をする「日本写真保存センターの設立」運動など様々ななかたちでの文化活動に寄与しています。

●正会員の入会資格は、職業写真家として3年以上の活動実績のある方。正会員2名の推薦、保証が得られ、うち1名は本会在籍5年以上の正会員の推薦理由書を提出できる方で、入会申込書と資料を添えて1月に提出。入会が内定後、4ヶ月の新入会員説明会に出席することで正会員となります。

●「入会申込書」は1部1,000円で配布中。

問い合わせ先：協会事務局 03-3265-7451



Topics

“The 14th Yonosuke Natori Photographic Prize”, 2018

Since 2005, Japan Photographers Society (JPS) has awarded “Yonosuke Natori Photographic Prize”. The award has been established for young and up-and-coming photographers (under 35 years old) who have photographed in documentary fields.

The judges were Mr. Kotaro Iizawa, Mr. Ryuichi Hirokawa and Keisuke Kumakiri, JPS President. The “Yonosuke Natori Photographic Prize” was given to Mr. Yusuke Suzuki’s “The Coast of War”. The “Yonosuke Natori Photographic Encouragement Prize” was given to Miss Misao Yadokari’s “Yoake-mae”, translated as “Before Dawn”.

The work of Mr. Suzuki focused on “war” that is the unusual circumstance, but we face up to reality that it has become non-daily situation in the world. He tries to show the reality of the international societies in 21st century that has been becoming more and more complicated.

The work of Miss Yadokari focused on her sister who became mental disease. Miss Yadokari had accepted seriously her sister and had looked closely through her lens. The close and deep distance between the photographer and her subject is appealing to our minds.

The 14th Yonosuke Natori Photographic Prize photo exhibition:

From January 18 to 24, 2019 at Fuji Film Photo Salon, Tokyo.

From February 15 to 21, 2019 at Fuji Film Photo Salon, Osaka.

“The 44th Japan Photographers Society Award”, 2019

Since 1967, JPS awarded “Japan Photographers Society Award” to an individual or an organization that has significant contribution for the developments or inventions on culture of photography or technologies of photography.

In this year, JPS awarded “The 44th Japan Photographers Society Award” to “Sony Imaging Products & Solutions Inc.”. The company has innovated on photographic expression through the development of the CCD image sensors. Their CCD has advanced techniques on the digital cameras by high resolution, high sensitivity, and high speed processing. Also, the company has been developing the advanced mirrorless cameras that have given photographers, benefits of the activities by stimulating their creativity with the new areas.

By Naoki Wada, Director, International Relations

About the Japan Professional Photographers Society

The Japan Professional Photographers Society was established in 1950. Through its activities it strives to define the role of the professional photographer and secure copyright protection while working to develop photographic culture. In 2001 it received recognition as an Incorporated Body from the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, in March 2011 it was officially recognized as being a Public Interest Incorporated Association by the Prime Minister's office, and since April 1 of that year it has been active under the title, Japan Professional Photographers Society, Public Interest Incorporated Association.

Since its foundation, the society has succeeded in receiving an extension for the period of copyright protection (to 50 years after the death of the artist), held numerous exhibitions concerning photographic history and expression (A Century of Japanese Photography, History of Japanese Contemporary Photography, Sixty Years of Japanese Children, Women, etc.), and published numerous books on photographic history and collections of photographs. In order to contribute to the promotion and development of photographic culture, it holds the JPS Exhibition as an open exhibition, presents a nationwide Photography Study Pro-

gram for elementary school students, the Photo Forum that aims to develop photographic expression, Digital Photography Lectures for the advisors of high school photographic clubs, and presents the Yonosuke Natori Photographic Award to uncover and foster new talent. At the same time, it carries out a wide range of activities to contribute the development of photographic culture, such as: cultural exchange with overseas photographers, PR through publishing and information dissemination via the Internet.

Furthermore, it presents the Japan Professional Photographers Society Award in recognition of individuals or organizations who have achieved notable achievements in the development of photographic technology, education, or critique.

The Japan Professional Photographers Society has devoted itself to the establishment of photographic museums, such as the Tokyo Metropolitan Museum of Photography, and is currently actively working towards the creation of the ‘Japan Photographic Preservation Center’ (archive) for the collection and preservation of original photographs.

Japan Professional Photographers Society

JCII Bldg. #303, Ichibancho 25, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

Tel: +81-3-3265-7451 Fax: +81-3-3265-7460

E-mail: info@jps.gr.jp Web site: <http://jps.gr.jp/int/index-e.html>



森永 純 正会員

平成 30 年 4 月 5 日、逝去。80 歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
(昭和 41 年入会)

W.Eugene Smith 時代の思い出
写真集『Japan...a Chapter of image』

ユージン・スミスに電話をかけると、六本木交差点そばにある喫茶店アマンドの前で待つようにと言われた。しばらくすると半洗坂の方から、黒のコートを着た森永純さんがやって来た。これが森永さんとの最初の出会いである。昭和 37 年 2 月、ユージン・スミスに会い、翌日から Mr. Smits(そのように呼んでいた)の助手を務めることになった。

仕事場である暗室は、芋洗坂を一ノ橋の方へ下り、籠板を上った、四階建てのビルの最上階にあった。暗室には三台の引伸機があり、そのうちの一一台オメガは西山雅都さんが使い、森永さんはパロイを使っていた。この二台は、はっきりしないがスミスが持ってきたものだと思われる。私は、森永さんが自宅から持ってきた富士 B を使った。私も学生時代に使っていた LUCKY を持てて来たが、これはユージン・スミスが使っていた。

仕事は大変ハードで徹夜が日目も続き、あまり家へ帰ることはなかった。そのようなわけで食事は暗室での自炊が多かった。ある時、森永さんとアサリの味噌汁の美味しい作り方について論じたことがあった。森永さんは、アサリは水から煮るのが美味しいと。私は、沸騰したお湯に一気に入れられた方がアサリも苦みが短くよいと言った。実際、どちらの方が美味しいのかは試してはいない。

仕事が一段落したときなどは、写真の話をよくしたものだ。森永さんは、当時ドア河を撮っていたが、あるとき靴を磨いていたところ、こんな汚い靴は磨けないと難磨きに断られたと話してくれた。そのドア河は後年、写真集『河・累影』にまとめられた。

もうあれから半世紀が過ぎてしまった。数年前、当時の縁の場所へ行ってみたが、もう記憶の中の光景はすっかり消えてしまっていた。

森永純さん、安らかにお休みください。

平川 幸児



青木 信二 正会員

平成 30 年 5 月 30 日、逝去。73 歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
(昭和 53 年入会)

青木信二さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます

齋藤 康一

東京の下町、押上で生まれ育った青木信二さんは立教大学を卒業し、児童書を出版するフレーベル館に入社した。本づくりをする中で、狂言師の野村万歳師に出会い、すっかり師の芸と人柄の魅力にとりつかれてしまったらしい。それ迄は在学中に在籍したワンドーフォーゲル部で記念写真程度しか写真を撮ることもなかった信二氏だが、万歳師からの話を伺いたがために「写真」と言うことになってしまった様だ。思い掛けない事から写真の道に入り、最初の写真展は当時、西麻布にあったベンタックスギャラリー。無論、野村万歳師を被写体とした作品で好評だった。

私が青木さんを知ったのは、その写真展をした頃と記憶している。眞面目で穏やかな印象だった。もっとも彼の夫人である三江さんは編集者で私とは度々仕事を一緒にしていたし、その兄上の名取稔氏は何十年も仕事をした仲だった。青木さんは国立劇場の職員となり、その傍ら写真を撮る様になった。その彼の著作『狂言-野村万歳の世界』をはじめ能・狂言・文楽・雅楽に関する著作は私の知っているだけでも『美しき雅楽装束の世界』『文楽人形の美桐竹紋壽写真集』『あらすじで読む 名作・文楽 50 選』『文楽をゆく』『文楽手帖』『吉田義助写真集』『狂言面礼識』『演目別にみる能装束』等々を出版している。

元気だった彼が 15 年前に食道ガンを患い一応は平常に戻ったが、昨年心臓と肺に水が溜まり、その後退院後軽い脳梗塞を発症、三江夫人の話によると、意識が朦朧となるなか枕元で二人のお子さんが声を掛けると何となく「解っているよ」と言った様子だったとのことだった。

享年 74 歳。ご家族皆様のご悲嘆いかばかりかとお察し謹んでお悔やみ申し上げます。



清宮 由美子 正会員

平成 30 年 6 月 22 日、心筋梗塞のため逝去。
83 歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
(昭和 38 年入会)

格好いい先輩、清宮由美子さんの死を悼む

中谷 吉隆

清宮由美子さんの詳報に接し、深い記憶をたどり思い出を記し、供養したい。



この写真は、「ミッチャー・ブーム」を引き起こす平民の正田美智子さんが、皇太子(現天皇陛下)妃に決定し、ご成婚を挙げる母校の聖心女子大の同窓会に出席され、その取材の合間に私に話しかける清宮さんの姿で昭和 34 年 3 月 15 日の一枚である。

昭和 30 年に東京写真短期大学(現東京工芸大学)を卒業した清宮さんは、ある出版社を経て、皇太子殿下の結婚があれこれと話題となる昭和 33 年に週刊誌「女性自身」に移る。マスコミの中でも女性誌各社は大わらわで、清宮さんも皇室係要員として引き抜かれるが、殿下の妹で婚期を迎える「おスタちゃん」の清宮(すがのみや)内親王と、読み方は違うが漢字では同じのもの、要員となる要素だったとのエピソードもあった。

雑誌社の女性カメラマンとしての草分け的存在で、皇室係とはいえ、つわもの男たちに混じって取材に明け暮れるのは並大抵ではなかったと思う。私も昭和 32 年に新聞社のカメラマンとなり、美智子さん取材で五反田の正田邸前などで、清宮さんに会う機会が増える。スラリとした背丈で、いつも何かを予測するかの清宮さんのカメラマン姿は格好良く、たまに情報を耳打ちしてくれ後輩思いの頼れる姉貴分的存在だった。

その後に会う機会はなく、美智子妃誕生と昭和の記憶 プリンセスに密着した女性カメラマンの 1000 日』が 2008 年に講談社から出されたもの知らず、この本を紐解きながら取材合戦の話が出来なかったのは残念でならない。ご冥福を祈ります、安らかにお休み下さい。合掌。



浜口 タカシ 正会員

平成 30 年 8 月 11 日、大腸がんのため逝去。
85 歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
(昭和 41 年入会)

報道写真ひとすじ 50 年

西村 建子

1975 年、写真学校と称し横浜の自宅を教室にした小さな学校ができた。私は東京渋谷から 3 日通い始めたのが浜口先生との出会いでした。

3 年間通いましたが全くわからない世界でした。東京の仕事を辞め、浜口タカシ写真教室を手伝う事になりました。毎日撮影した作品の整理、フィルムの整理をするなかで、写真への強い思いが込められた記録と執念に満ちた撮影の日々は、私にとって今までに経験のない難しく根気のいる仕事であることを思い知らされました。

中国残留孤児が来日した頃は、代々木のセンターまで毎日通い初回から全員を記録し続け、すべての方の作品集としてまとめました。

2016 年 5 月 27 日広島、オバマ大統領初めての慰霊訪問、広島を写さなければ強い思いで私を同伴して新幹線に乗りました。一刻も早く大腸がんの手術をと病院に予定日を入れてあったのに。「大丈夫!」「これが僕の原点だから」と一言。

横浜から広島は遠い、気の遠くなるような体の痛みが続いていたでしょう。しかし翌日オバマ大統領と安倍首相の歓迎をしっかりと撮っていました。戦後 71 年歴史的な訪問がありました。

今まで記録し続けた写真は、その都度作品集として全てまとめていました。その作業に携わることが出来たことは写真を学ぶ私にとって幸せなことでした。信念の強い方がまことに。過ぎてみれば 40 年。まだ学ぶことが沢山あるのに……。ありがとうございました。

著書 =『記録と瞬間』『大学闘争 70 年安保へ』『ドキュメント・視覚』『戦慄の成田空港』『阪神大震災瞬間証言』『北海に生きる』『報道写真家の目 - ドキュメント戦後日本「歴史の瞬間」』『北海歌謡』『祖国に生きる: 中国残留孤児帰国者自立生活の記録』『富士山天地』『報道写真家 浜口タカシが見た! 2011.3.11 東日本大震災の記録』『私の祖国』『宝石の海』他多数

経過報告(2018年4月～2018年9月)

○4月16日「笹本恒子写真賞」選考会

AM10：30～15：00 JCII会議室 7名

○選考・椎名誠、大石芳野、熊切圭介、推薦候補者・9名、第2回「笹本恒子写真賞」・足立君江

○4月23日 第41回公益社団法人日本写真家協会理事会

PM2：00～3：50 JCII会議室 14名、欠席6名、監事3名

○第1号議案：平成29年度事業報告書案承認の件、第2号議案：平成29年度決算報告書案承認の件、第3号議案：名譽会員推挙の件、第4号議案：第44回「日本写真家協会賞」承認の件、第5号議案：平成29年度会費滞納による正会員資格の喪失の件、第6号議案：平成30年度第19回定期会員総会内容決定の件、その他：報告・第2回「笹本恒子写真賞」の件、他

○4月25日 日本写真保存センター第1回訪問委員会議

PM1：30～3：00 JCII会議室 17名

○4月25日 日本写真保存センター第1回支援組織会議

PM4：00～5：00 JCII会議室 支援組織会員10社1団体13名、JPS6名

○4月27日 出版広報座談会

PM3：30～5：30 ホテルグランドアーチ半蔵門・2階「さくら」 7名

○5月19日～6月3日 第43回2018JPS展(東京)

東京都写真美術館B1F 入場者3,892名

○5月19日表彰式、祝賀会、講演会「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」イベント「ギャラリートーク」「大三元ズームレンズを体験しよう！」

○5月28日 平成30年度(第19回)定期会員総会

PM2：30～4：00 大阪国際交流センター2階大会議室「さくら東」 本人出席者103名、代理委任0名、議決権行使書996名、計1,099名、監事1名、賛助会員9社16名

○決議事項：第1号議案：平成29年度事業報告及び決算承認の件、第2号議案：「公益社団法人日本写真家協会定款」一部変更の件、第3号議案：「役員の報酬並びに費用に関する規程」一部変更の件、第4号議案：名譽会員推挙承認の件
報告事項：「平成30年度事業計画書」の件、2「平成30年度予算書」の件、3.第44回「日本写真家協会賞」の件、4.第2回「笹本恒子写真賞」の件、5.会費滞納による正会員資格の喪失の件、6.その他。

○6月4日 三団体懇談会

PM6：00～8：00 JCII会議室 21名

○6月6日 第1回技術研究会

PM2：00～4：00 JCII会議室 参加者56名

○シリーズ：デジタル時代のモノクロプリント その3 ラボ編・ラムダプリント

○6月13日 第1回著作権研修会

PM2：00～4：00 JCII会議室 参加者8名

○「契約書の読み方講座」～双務契約の合意を目指して～

○6月17日 平成30年度第1回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」

AM9：30～17：00 高知県・国民宿舎 桂浜荘 教師参加者16名

○6月18日 第2回国際交流セミナー

PM5：00～7：00 日本アセアンセンター アセアンホール 参加者43名

○インドネシア撮影情報セミナー ～ジャワ島・コモド島・フローレス島の絶景～

○6月19日～24日 第43回2018JPS展(名古屋)

名古屋市民ギャラリー矢田第1～3展示室 入場者数1,008名

○6月23日作品講評会、講演会「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」

○6月29日 平成30年度JPS関西地区事業説明会

PM2：00～4：45 大阪市立総合生涯学習センター第5研修室 参加者37名

○7月4日 第1回著作権研究会

PM2：00～5：00 JCII会議室 参加者60名

○「著作人格権」の危機

○7月10日～15日 第43回2018JPS展(関西)

京都市美術館別館1F・2F 入場者数1,390名

○7月14日作品講評会、講演会「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない！」

○7月12日～18日 2018新入会員展(東京)

アイデムフォトギャラリー「シリウス」 出品者31名、作品数62点、入場者数1,251名

○「私の仕事」

○7月21日 平成30年度第2回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」

AM9：30～17：00 富山県・高岡第一高等学校 教師参加者18名

○8月3日 ビアバーティー

PM6：00～8：00 飯田橋「新莊園」 参加者72名

○8月10日～16日 2018新入会員展(大阪)

富士フィルムフォトサロン大阪 出品者31名、作品数62点、入場者数3,150名

○「私の仕事」

○8月27日 2018年第14回名取洋之助写真賞選考会

PM1：30～4：30 JCII会議室 18名

○選考・飯沢耕太郎、広河隆一、熊切圭介、応募者・29名 29点、名取洋之助写真賞・鈴木雄介「The Costs of War」、奨励賞・やどかりみさお「夜明け前」

○9月3日 賛助会員との懇談会

PM5：30～7：30 JCII会議室 賛助会員25社36名、JPS25名

編集後記

○写真愛好家の上級者向けに、ミラーレスのカメラが登場した。招かれてキヤノンR、そしてニコンのZ6、Z7の説明会に出かける。僕はニコン派でフランジ機のD5を使用しているが重い。この度のミラーレス機は軽量で小振り、明るい下値レンズが奇妙なほど大きくなる。(桑原)

○いろいろ悩ませることが身体の中で起きていている。昔の人はよく言つたものなあと心がかることが少しある。前厄の今年。しつかり厄を落して前に進まなきやと思うこの頃。写真業界では、ミラーレスカメラが次々発表され、サードパーティのレンズやストロボも新機種がバーバーパートで導入されてきている。新しい時代の幕開けになるのだろうか、ワクワクが止まらない。(川上)

○猫派の夫と犬派の妻。それぞれの愛猫・愛犬は数年前のほぼ同じ時期に虹を渡ってしまい、穏やかな日常を過ごしていましたが、犬がないとストレスが溜まるらしい妻の強い要望(=拒否権ナシ)によりゴルデン・トリマーの仔犬が我が家に来て、猫派の夫は逆にストレスが溜まるばかり。平和な生活に戻りたいと話す。電気で頼った生活への警鐘か、と思いつつも今や電気無しには写真も撮れないのが現実だ。(小池)

○7月～8月の酷暑のなか、「アフリカのほうは過ごしやしない」と実感した。湿気を伴い、まとわりつくような不快な暑さは少し異常だ。残念ながら今年はアフリカに行く機会はなさそうだが、来年は「避暑」にアフリカに行きたいものである。(飯塚)

○夏の休みを北陸高岳で過ごしました。3泊4日の行程。途中の潤沢という場所から先は、頂上までひたすら岩尾根が続く、ちょっと怖い場所です。私の携帯には電波が入らず、メールも届きません。無事下山し、上高地が近くになると、携帯に電波が入るようになります。溜まりに溜まったメールを開く瞬間。何が怖いと言つたって、この瞬間が一番怖い。(池口)

○縁あって、ホームゲームを中心に撮影を手がけているサッカーJ2・FC町田ゼルビアJリーグが認定するJリライセンスを持たないクラブながら快進撃を続けており、この書を書いている時点ではJ1昇格権闘争内(2位)にいます。試合会場の収容観客数が規定に満たないことがライセンスを取得できない最大の要因ですが、それ

でも全力で戦い続ける選手達を見ていると「これも日本サッカーの歴史になるのかな」と感じています。シーズンもいよいよ終盤、熱い戦いから目が離せません。(小城)

○フォトキナ取材の帰りにウェツツラーのライツパークに立ち寄った。ホテルや新しい建物がいくつも出来ていて、4年前とは大きく様変わりしていた。その4年前は地球儀のニューミントだけの荒れ地だったから、えらい変わり様だ。世の中は確実に変わっていく。写真の世界もまたなあと思えた今回のフォトキナだった。(柴田)

○前号の編集後記で、今年の後半の写真界の話題は、CANONとNIKONのフルサイズミラーレスの発売になるはずでと書きましたが、その通りになりました。今年はミラーレスカメラ発売から10年です。この10年をリアルタイムで体験した我々は、カメラ史の転換点を体験したと言つても大げさではないと思う今この頃です。(伏見)

○9月末からドイツ・ケルンで開催されフォトキナに行きました。現地よりメーカー担当者の声や主要各社のブースの様子を配信しています。写真や文字で伝わりにくい、現地の様子を動画でご覧になれます。「フォトキナ桃井」で検索です！(桃井)

○イギリス人の友人から、ロシア製トイカメラの修理業者について聞かれた。使い込まれ、バラバラに分解されたそれは、何度も自分で修理してきたが、今回ばかりはどうにもならないと言う。イギリスは、カメラはもちろん家具や家も古いものを自分で直しながら長く使う文化。見習わなくては。(山縣)

日本写真家協会会報 第169号(年3回発行) 2018年10月20日 印刷・発行 ○編集・発行人 熊切圭介

URL <http://www.jps.gr.jp/> Email info@jps.gr.jp 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒布 1カ年・3回 3,500円(消費税・送料共込)

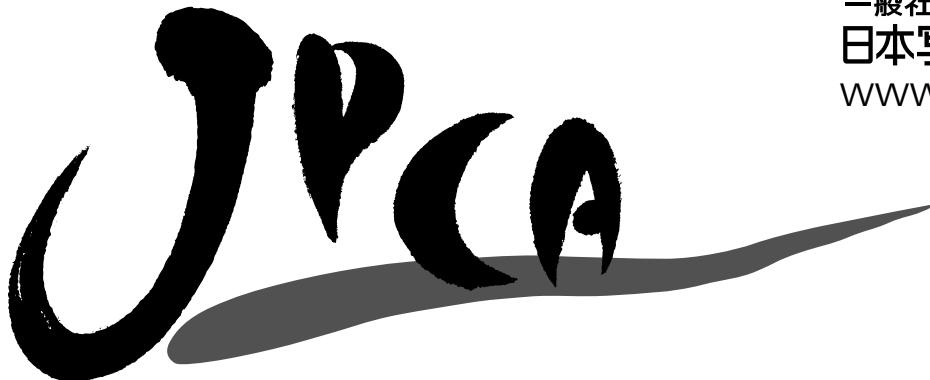
出版広報委員 桑原史成(理事)、小池良幸(理事)、飯塚明夫(委員長)、池口英司(副委員長)、小野吉彦、川上卓也、小城崇史、柴田 誠、関 行宏、伏見行介、桃井一至、山縣 勉

発行所 公益社団法人日本写真家協会 (JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303 電話 03(3265)7451(代表) FAX 03(3265)7460

印刷所 株式会社光邦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番18号 飯田橋MKビル 電話 03(3265)0611(代表)



写真著作権を失わないために。 ～撮影依頼を受けた時には契約をしましょう～

撮影の依頼を受けた時、
公表の提案を受けた時、**必ず契約をしましょう。**

文面は難しいものでなくとも大丈夫。
覚書やメモでも**双方が認めていれば契約は有効です。**
ほとんどのトラブルは、契約がないことが原因なのです。
そして、著作権が写真家に残るよう、**交渉することも大切。**

たとえ写真著作権の保護期間が死後 50 年あったとしても、
著作権譲渡契約が交わされたら、
あなたの著作権は失われてしまいます。
契約は著作権の基本です。

写真著作権を大切に。

一般社団法人日本写真著作権協会 (JPICA) 〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 JCII ビル 3 階

【正会員団体】 公益社団法人日本写真家協会／公益社団法人日本広告写真家協会／一般社団法人日本写真文化協会／日本肖像写真家協会
一般社団法人日本写真作家協会／全日本写真連盟／一般社団法人日本スポーツプレス協会／日本自然科学写真協会
日本風景写真協会／公益社団法人日本写真協会（以上、10 団体）

この広告は、公益社団法人日本複製権センターからの分配金による公益事業の一環として制作されています。



HORIUCHI COLOR
FINE ART PRINT SERVICE

デジタル銀塩プリントを極める ネットdeザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

プリント

- ペーパー：コダックプロ、メタリックの2タイプ
- サイズ：六ツ切～B1までの19タイプ
- フチ取り：白フチ、黒フチ、フチなしの3タイプ

パネル加工

- 高級アルミフレーム
(額縁/シルバー、ブラック)
- マットパネル（オフホワイト、ブラック）
- ドライマウント

銀塩フォトブックを極める ネットdeザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高品質銀塩写真、見開きはフルフラット仕様の製本で高級感溢れる銀塩フォトブックができます。

《PRO》シリーズ

- 高級写真タイプ：銀塩光沢印画紙+液ラミ
- サイズ / ページ：160SQ、A5、197SQ、A4
10～50p
- カバー：ソフト（ブックケース付）
ハード（くるみ表紙）

《ENJOY》シリーズ

- 高級精細印刷タイプ：表紙 / マットPP加工
- サイズ / ページ：200SQ、A4 / 20～50p
- カバー：ソフト（並製本）、ハード（上製本）

インクジェット・プリントを極める ファインアート・プリントサービス

作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の7種類のアーティスト用紙でご提供します。

それぞれの個性と美しさをお楽しみください。

繊細さと優雅さが特長の

《ハーネミューレ・ファインアート》

- ファインアート・パライタ／フォトラグ

インクの重なりが表情豊かに仕上げる

《ヴァンヌーボ》

- ファインアート・ヴァンヌーボ SW

シャープネス、画像再現性に優れた

《イルフォード・ファインアート》

- ゴールドファイバーシルク／
ゴールドコットンスムース

柔らかで優しい印象に仕上げる

《伊勢和紙 Photo》

- 雪色／芭蕉

個展・グループ展などの開催を受付けています



HCL フォトスペース神田

東京都千代田区神田小川町2-6-14 ☎ 03-3295-2191

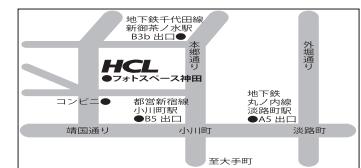
- 平日=9:00～18:00
- 第1・3・5土曜=9:00～17:00
- 最終日=9:00～16:00
- 休館日=第2・4土曜・日曜・祝日・年末年始
- 都営新宿線「小川町駅」B5出口より徒歩5分



HCL フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦1-11-20 大永ビルディング 2F ☎ 052-211-6151

- 平日=9:00～18:00
- 土曜=9:00～17:00
- 最終日=9:00～13:00
- 休館日=日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分



株式会社 堀内カラー

トイメーディングセンター（トイアート）

東京都千代田区神田小川町2-6-14 ☎ (03) 6854-9581

トイメーディングセンター

東京都渋谷区神宮前3-41-6 ☎ (03) 3479-5351

名古屋営業所

名古屋市中区錦1-11-20 ☎ (052) 211-6151

関西営業部

大阪市北区万歳町3-17 ☎ (06) 6313-2351

Canon

make it possible with canon

写真は進化する。

写真の理想とは何か。私たちキヤノンは、答えを持っていません。写真を撮る人、それぞれの理想が違うからです。一つ一つの理想を叶えるために、どんなシステムが必要なのか、その一心で開発を続けてきました。30年を超えるEOSシステムの歴史もまた、挑戦の連続でした。映像表現の可能性を切り拓くのはEOSでなければいけない。そのプライドと強い意志が、私たちの原動力でした。EOSの挑戦は終わっていません。その証明が新マウントを採用したEOS Rシステムです。キヤノンの光学技術を最大限に発揮させることができる、EOSの新しい選択肢。それは、表現領域を限りなく拡張させ、想像の限界を突破する力。理想を叶える力。みなぎる力を手に入れた時、あなたの写真は、進化する。

EOS R SYSTEM

NEW EOS R NEW RF LENS



[2018年10月下旬発売予定] ○ミラーレスカメラ EOS R オープン価格 ○ RF24-105mm F4 L IS USM 155,000円(ケース・フード付き、税別)

○ RF50mm F1.2 L USM 325,000円(ケース・フード付き、税別) *※オープン価格商品の価格は販売店にお問い合わせください。

[2018年12月下旬発売予定] ○ RF28-70mm F2 L USM 420,000円(ケース・フード付き、税別) ○ RF35mm F1.8 MACRO IS STM 75,000円(税別)



EOSは2017年9月20日に累計生産台数
9,000万台、EFレンズは2017年10月12日に
累計生産本数1億3,000万本を達成しました。



◎キヤノン EOS R ホームページ
canon.jp/eos-r



◎キヤノンお客様相談センター
デジタルカメラ・
交換レンズ 050-555-90002

[受付時間] 平日・土・日・祝日9:00～18:00(1/1～3は休ませていただきます。)※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号
をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

SP15-30mm F/2.8 VC G2



高画質の頂きを求めて。

抜けるようにクリアな描写。
レンズの潜在力を引き出す高精度AFと手ブレ補正。

生まれ変わる渾身のフラッグシップ。

SP 15-30mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A041)

キヤノン用、ニコン用

Di:35mm判フルサイズおよびAPS-Cサイズ相当デジタル一眼レフカメラ用レンズ



TAMRON

www.tamron.co.jp

SIGMA

「超高画素時代」に最適化した
最高性能を実現。

A Art

**24-70mm F2.8
DG OS HSM**

希望小売価格(税別)190,000円 ケース、フード(LH876-04)付



シグマの新しいプロダクト・ラインについては、こちらへ。

sigma-global.com

GALLERY

Gallery For Photography Enthusiasts

写真好きが集い、作品を発表・販売できる公募型ギャラリー

写真愛好家の皆さんにより多くの活動の機会をご提供する「ギャラリー」。ここでは公募による作品展を主に開催します。毎年4月と10月に作品を募集し、選考は外部識者を加えた選考委員会によって行います。インクジェットプリントの作品であれば、応募資格は問いません。



PRIVATE LAB

First-Class Digital Darkroom Rental

デジタルプリントに最適なレンタル工房

最新のパソコン・プリンター・スキャナーがそろい、カラーマネジメント環境が整ったレンタル工房「プライベートラボ」を、2部屋ご用意。ゆったりとしたスペースで、最大1600mm幅の大判プリントが制作可能です。用紙ラインアップも充実。お客様ご自身によるプリント制作を存分にお楽しみいただけます。※JPS会員様向け特別価格をご用意しております。



PHOTO SEMINAR

Training Seminars To Improve Your Inkjet Prints

レベルやスタイルに応じて学べるプリント講座

デジタルプリントに関するさまざまなセミナーを開催しています。エプソン製品の使い方を知りたい、基礎から写真のレタッチを楽しみたい、撮影からプリントまでじっくり学びたいなど、皆さまの声に応じた多彩なカリキュラムをレベル別にご用意。あなたのスタイルにフィットする講座が見つかるはずです。

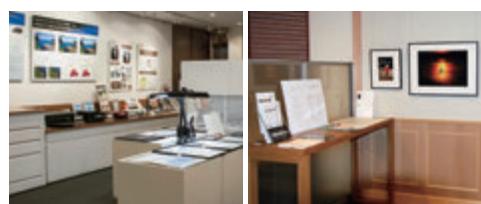


SHOWROOM

See, Touch, And Try At Epson Showroom

「見る」「触れる」「試す」を可能にしたショールーム

エプソン製品の展示、ご相談スペースです。製品に触れ、サンプルプリントをじっくりご覧いただけます。デジタルプリントにまつわるさまざまな疑問を解決するためのイベントも開催しています。



「エプソンイメージングギャラリー エプサイト」は、写真プリントの楽しさを体験できるスペースです。ギャラリー、プライベートラボ、フォトセミナー、ショールームをご用意してお待ちしております。

エプソンイメージングギャラリー エプサイト

〒163-0401

東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1F

TEL : 03-3345-9881 FAX : 03-3345-9883

開館時間 10:30~18:00

休館日 日曜日・夏期・年末年始

入場無料 <http://www.epson.jp/epsite/>



epSITE
EPSON IMAGING GALLERY

東京メトロ丸の内線「西新宿駅」2番出口より徒歩4分
都営大江戸線「都庁前駅」A1出口より徒歩2分
JR・小田急線「新宿駅」西口より徒歩8分
※JR新宿駅西口改札からは、ロータリー右斜め前方へ進み、都庁に向かう動く歩道を抜けた右側の黒い高層ビルが新宿三井ビルです。

デジタルと銀塩が生み出す新たな表現 ～DGSM Print のお話を永嶋勝美氏に聞く～

インクジェットプリンターを用いてデジタル画像を専用の透明シートに印刷し、密着焼きによってパライタプリントやプラチナプリントなどを制作する、いわばハイブリッドな表現手法の実践がじわじわと広がっています。この分野の第一人者であり、DGSM Print（デジタル・ゼラチンシルバー・モノクローム）を確立された写真家の永嶋勝美さんにお話を伺いました。

◆インクジェットでネガを作成

写真作品の制作においては、デジタルカメラとインクジェットプリンターのそれぞれの進歩により、撮影から出力までのすべてをデジタルで完結させる方法が最近では一般的になってきました。一方で、昔ながらのトーンや質感を求めて、銀塩フィルムとパライタ印画紙（または古典技法であるプラチナプリントやサイアノプリント）を用いて作品制作を続けている写真家もまだまだ健在です。

これらに加えて第3の手法とも呼べるのが、デジタルと銀塩とを組み合わせたいわばハイブリッドな制作方法です。デジタルカメラで撮影した写真を、インクジェットプリンターを使って専用の透明シートにネガ画像として印刷し、その透明シートをネガフィルムに見立ててパライタ印画紙に密着焼きを行って、モノクロ作品を制作します。1990年代後半に一部の写真家によって提唱された手法で、「デジタル・ネガティブス」などとも呼ばれています。

◆パライタの美しさを引き出す DGSM

写真家の永嶋勝美氏もこうした手法を実践されているおひとりで、同氏が長年を費やして確立した「DGSM Print」（デジタル・ゼラチンシルバー・モノクローム）を通じて、優れたモノクロ作品を数多く制作されています。

「インクジェットプリンターの技術は大きく進化していますし、アート紙を含めてさまざまな用紙も登場していますが、階調やハイライトの美しさなどはパライタ印

画紙に一日の長があると考えています。撮影はデジタルで行なながら、パライタ印画紙の風合いを生かした作品を作ろうというのが DGSM Print の狙いです」と説明します。

DGSM Print では、カラーで撮影したデジタル画像を Adobe® Photoshop® 上で仕上げ、階調を反転してネガ画像にしたあと、独自に開発した専用の ICC プロファイルを介して、ピクトリコから販売されている「ピクトリコ プロ・デジタルネガフィルム TPS100」などの透明シートに左右逆に印刷してネガを作成します。作品の制作は Photoshop® 上で完結させて、モノクロフィルムの特性を模すところは専用の ICC プロファイルに分担させるのが DGSM Print の特徴です。密着焼き以降は通常のパライタ印画紙の手順と同じです。



SC-PX5VII

◆クオリティの高い SC-PX5V IIを活用

永嶋氏がネガの制作に主に使用しているのがエプソンの「SC-PX5V II」です。これまで、「PX-5500」(2005年発売、A3ノビ)、「PX-5800」(2006年発売、A2)、「PX-5600」(2008年発売、A3ノビ)、「PX-5002」(2009年発売、A2)、「PX-5V」(2011年発売、A3ノビ)など、歴代のプロセレクションプリンターを使用してきたそうです。

そうした中でSC-PX5V IIを次のように評価しています。「DGSM Printの観点で見ると、PX-5Vにモデルチェンジしたときにネガのクオリティがます大きく上がりました。さらにSC-PX5V IIになって、ネガだけではなく通常のカラープリントのクオリティもいっそう高くなり、インクジェットプリンターとして完成レベルに近くなったのではないかと感じています」。

また、エプソンのプロセレクションプリンター全般の特長としては、トーンのコントロールがやりやすい、紙送りの精度が高い、印刷が高速、インクの乾燥時間が短い、製造ロットが違っても個体間のばらつきが少ない、などを挙げています。

なお、引き伸ばし設備や現像設備などとの兼ね合になりますが、ネガの大きさに制約はなく、たとえばA3ノビ(329mm×483mm)の透明シートを使ってネガを作成すれば大四切(279mm×356mm)などの大きな作品も密着焼きによって制作できます。

◆多様な表現手法に応えるプロセレクション

永嶋氏はご自身の作品制作にとどまらず、ワークショ



永嶋勝美氏：1953年東京都生まれ。デザイナー・アートディレクターを経て、80年に写真家に転向。89年から一時期をパリで過ごし、帰国後は作家活動に専念。2008年頃からDGSM Printの開発に着手。現KN-PHOTO代表、公益社団法人日本広告写真家協会理事。
http://www.kn-photo.com/dgsm_print/

ップを定期的に開くなどしてDGSM Printの普及にも努めています。SC-PX5V IIを含む主要なプリンターを対象にしたネガ作成用のICCプロファイルもインターネットで公開されています。

「ワークショップに参加されたアマチュアのかたが、私とまったく同じ設備を揃えるなどしてDGSM Printに本格的に取り組み、今では個展を開いたり写真集を出すまでになっている例もあります。パライタ印画紙が持つ表現の柔らかさや美しさを追及できる手法として関心を持っていただければ嬉しく思います」。

エプソンは、プロセレクションシリーズをはじめとする高性能なインクジェットプリンターを通じて、デジタルでの作品制作だけではなく、多様な表現手法や制作技法のニーズに応えていきます。

(注)：Adobe、Photoshopは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標または商標です。
※製品名やサービス名は各社の商標または登録商標です



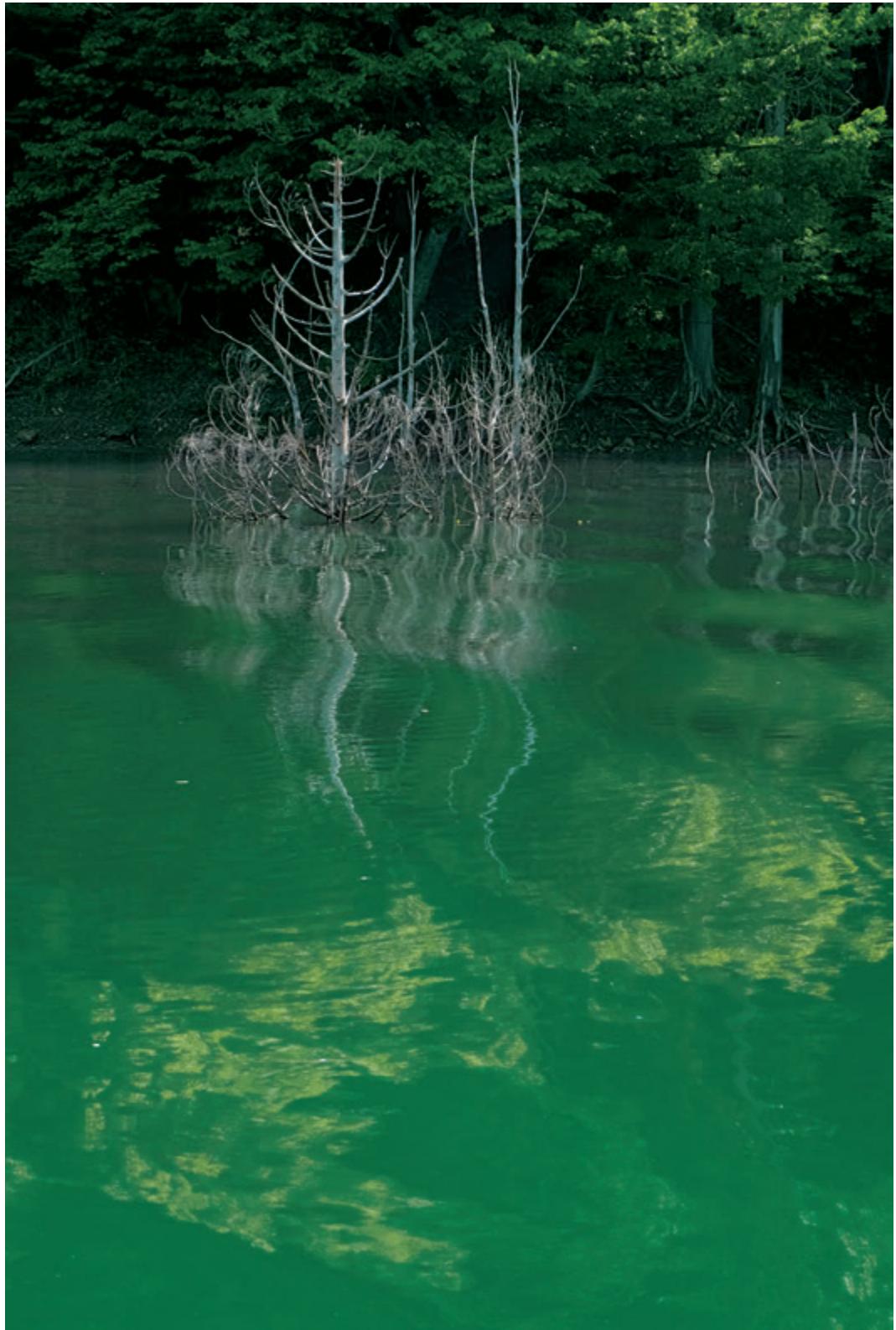
図. デジタルと銀塩とを組み合わせたDGSM Printの大まかなワークフロー



Blue Drifting —— 大野雅人
FUJIFILM GFX50S GF63mmF2.8 R WR



ダージリン リシーハット茶園——松岡誠太朗
FUJIFILM X-PRO2 XF23mm F2R WR



新緑映える——落井俊一
FUJIFILM X-T2 XF18-135mm F3.5-5.6 R LM OIS WR



19世紀に誕生した銀塩写真は、芸術、報道など様々な分野で歴史を写し続けてきました。デジタルが中心の時代になっても、フィルムが描く独特な表現はその輝きを失いません。そして、富士フィルムが総合感材メーカーとしてフィルム開発のなかで培ってきた、独自の技術とアイディアによる高画質へのこだわりは、最新のデジタルカメラ「Xシリーズ」にも綿々と受け継がれています。伝統のフィルムと最先端のデジタル、その表現手法は違っても、製品の開発、製造にかける富士フィルムの情熱は同じです。



かけがえのない写真文化を伝えたい。
富士フィルムのプロフェッショナル写真製品

FUJIFILM
Professional
Photo Products



Photo Anju